

設置の趣旨等を記載した書類
(目次)

1	設置の趣旨及び必要性	P.2
2	修士課程までの構想か、又は、博士課程の設置を目指した構想か。	P.11
3	研究科、専攻等の名称及び学位の名称	P.12
4	教育課程の編成の考え方及び特色	P.14
5	教員組織の編成の考え方及び特色	P.18
6	教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件	P.25
7	特定の課題についての研究成果の審査を行う場合	P.40
8	施設・設備等の整備計画	P.40
9	基礎となる学部（又は修士課程）との関係	P.41
10	入学者選抜の概要	P.41
11	取得可能な資格	P.45
12	「大学院設置基準」第2条の2又は第14条による教育方法の実施	P.46
13	2以上の校地において教育研究を行う場合	P.46
14	社会人を対象とした大学院教育の一部を本校以外の場所（サテライトキャンパス）で実施する場合	P.46
15	多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合	P.46
16	通信教育を行う課程を設ける場合	P.47
17	管理運営	P.47
18	自己点検・評価	P.48
19	認証評価	P.49
20	情報の公表	P.49
21	教育内容等の改善のための組織的な研修等	P.49

文学研究科

1 設置の趣旨及び必要性

ア 研究科等設置の理由及び必要性

(1) 研究科設置の社会的背景

予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会の中で、持続可能な社会の創り手として社会に貢献する人材を輩出することが研究科に求められる。「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」(中央教育審議会答申、2018年)は、「2040年に必要とされる人材」を「AIには果たせない真に人が果たすべき役割を十分に考え、実行できる人材」としている。また、「Society 5.0に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～」(総務省 Society 5.0に向けた人材育成に係る大臣懇談会新たな時代を豊かに生きる力の育成に関する省内タスクフォース、2018年)は、「Society 5.0」を「あくまでも人間を中心として、一人一人が他者との関わりの中で『幸せ』や『豊かさ』を追求できる社会」とし、「新たな価値を創造するリーダーであればこそ、他者を思いやり、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向する倫理観、価値観が一層重要となる」としている。これからの社会では、STEM(科学、技術、工学、数学)の知識・技能も注目されるが、それと同時に、これらの知識・技能をどう活用すべきかを考え抜くことができることや、AIには果たせないような、人だからこそ果たすべき役割を十分に考え、実行できることが、なおいっそう求められるようになる。

おりしも、新型コロナウイルスの蔓延にともなって、すべての人類が直面している諸課題は、そもそも人間らしく生きるとは何か、これまで人類はどのようにして危機に直面しそれをどう乗り越えてきたか、持続可能な社会のあり方はどうあるべきか、グローバル化が進む中で異文化間でどう協働していくことができるかといった、きわめて根本的であり、かつ、実践的な問いに答えなければ解決できないものばかりである。そして、これらの解決には、哲学歴史学、人間行動学、言語文化学、文化構想学を軸とする学問的基盤の上に構築された高度な専門知識と学問探究を通して養成される柔軟な思考力が必須である。

予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりを可能とさせるために、哲学歴史学、人間行動学、言語文化学、文化構想学の研究者を養成する大学院博士課程、博士前期課程が大阪の地に希求される。ここに大阪公立大学大学院文学研究科を設立する意義がある。

(2) 研究科設置の経緯

本学の前身となる大阪市立大学文学部は昭和24(1949)年に市立大学に創設された法文学部文学科をさらに前身としており、12専攻(哲学、社会学、心理学、教育学、芸術学、歴史学、地理学、国文学、中国学、英文学、独文学、仏文学)が設置された。

昭和 28(1953)年には、「産業大都市大阪には文学部の存在が絶対に必要」という恒藤恭学長の強い信念に支えられて、文学部が創設された。同年に修士課程、その翌々年の昭和 30(1955)年には博士課程も設置され、第 2 次大戦後の新制大学としては異例の早さで大学院の充実がはかられた。昭和 43(1968)年からは 5 学科 11 専攻となり、大学院も整備され、実学重視といわれる大阪の学問的気風のなかで異彩を放つこととなった。

平成 13(2001)年 4 月からは大学院の部局化に踏みきり、正式名称を大阪市立大学大学院文学研究科・文学部とし、大学院の教育研究を重点化することとなった。これを契機に、言語文化学専攻内に、新たなディシプリンである言語情報学専修と表現文化学専修が誕生し、また、他に類例をみないアジア都市文化学専攻が新設され、アジアとの研究交流の太いパイプと都市文化研究の基盤が構築されることになった。その後、平成 14(2002)年には、本研究科は、世界最高水準の研究教育拠点を目指す文部科学省の「21 世紀 COE プログラム」に採択され、名実ともに全国有数の拠点研究機関として着実に実績をあげることとなった。

平成 22(2010)年 4 月には、言語情報学専修が言語応用学専修となった。さらに、令和 2(2020)年 4 月には、新たに文化構想学専攻が設置された。文化構想学専攻は、従来の学問分野とはまったく違った斬新な視点から文化的事象を考究することによって、現代社会で必要とされる文化への深い理解の基盤を構築しようとしている。また、そうした深い知見に根ざしつつ、多様な文化的事象を社会のなかで積極的に活用できる人材、そして、現代社会が抱える諸問題の解決に取り組み、21 世紀型成熟社会を文化の面から担う人材を育てようとしている。

一方、これまで文学研究科・文学部は、研究と教育と地域貢献の 3 要素を有機的に連関させるプログラムを精力的に実施してきた。たとえば、大阪を代表する文化である文楽をテーマとした上方文化講座である。この講座は学生が受講する授業であると同時に、広く市民にも開放した講座でもある。文楽技芸員による公演・実演と、さまざまな専門分野の文学研究科教員による、研究に裏打ちされた講義が往還するプログラムとなっている。また、地域で活躍する観光ボランティアを対象にしたリカレント教育を、文化人材育成プログラムなどの市民講座として毎年開講しており、多くの受講生を集め実績を積んでいる。これらはいずれも文化の実践的活用を軸にした教育という点で先駆的な試みである。また、研究の学際性、応用性が教育や地域貢献と有機的に相互作用した好例であると言える。

このように、文学研究科は、基礎的性格の学問分野から、応用的・学際的な性格の分野まで、学生の幅広い関心に応えてきた。また、上述したように直近の令和 2(2020)年には、文化構想学専攻設立というイノベーションに取り組み、研究、教育、地域貢献を有機的に連関させて社会に貢献する大学像を模索してきている。新大学設立にあたっては、常に新しい文学部像を模索していくというこれまでの姿勢を継承し、新しい社会だからこそ求められる文学研究科として、人文科学・行動科学分野の研究者養成を主軸としつつ高度専門職業人養成および高度教養人育成を行う大阪公立大学大学院文学研究科を設置する。

(3) 専攻設置の必要性

【哲学歴史学専攻】

予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会では、これまで人類はどのようにして危機に直面しそれをどう乗り越えてきたかを分析し、持続可能な社会を志向する倫理観、価値観を考察していくことが一層重要となる。そこで求められるのが、人間と文化に対する新たなものの見方と方法に対する原理的反省である。哲学と歴史学は諸学の基礎としての役割を共有しており、哲学的観点と歴史的観点は人間理解のための 2 つの基本的な座標軸と言える。激しく変動する時代潮流のなかで、人間文化の本質とその普遍的価値を見極め、さらにその変化の意味と方向性を洞察する能力が切実に求められており、哲学と歴史学（日本史学・東洋史学・西洋史学）の学問的追究を行う研究者養成が強く希求される。

【人間行動学専攻】

あくまでも人間を中心として、一人一人が他者との関わりの中で「幸せ」や「豊かさ」を追求できる社会の中では、他者を思いやり、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材が求められる。そのニーズに応えるのが、社会学、心理学、教育学、地理学を基盤とする総合的・学際的な人間行動専攻である。

社会学は、人間の社会生活の諸相、心理学は人間の行動とそれを支える心の働き、教育学は人間の発達と教育的働きかけとの関係、地理学は地域性や景観の形成に対する人間の働きかけをそれぞれに研究するものである。それらは、ともに人間の行動の諸側面を対象とし、それらを観察・調査・実験・フィールドワークの科学的手法に基づいて実証的に明らかにすることを目指す点で共通しており、このような学問的追究を行う研究者の養成が予測不可能な時代、グローバル社会において強く希求される。このような理由から本専攻を設置する。

【言語文化学専攻】

予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識すること、そして、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるためには、人類の歴史的営為の所産である文化を、言語を通じて根源的に解明することが極めて重要であり、そのニーズに応えるのが言語文化学専攻である。

グローバルな社会であるからこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生とがともに、国語国文学、中国語中国文学、英語英米文学、ドイツ語圏言語文化学、フランス語圏言語文化学、言語応用学、それぞれの言語、文学、文化および社会という視点から学問的な追究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造することを可能とする研究者の養成が強く求められている。このような理由から本専攻を設置する。

【文化構想学専攻】

文化構想専攻は、文化を積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高め、文化をもって 21 世紀型成熟社会における諸課題の解決をはかることのできる研究者を養成する。従来の文化研究においては、文化はあくまでも研究対象であり、それを活用するという視点は必ずしも重視されてこなかった。それにたいして本専攻では、さまざまな場で活用される文化や文化的コンテンツに関する研究、日本を含めたアジア地域における文化活用の実際につ

いての比較研究、実践的・課題解決的な文化活用の方策についての研究等の観点から、文化や文化的コンテンツの表現そのものから社会的活用に至るまでの一連の過程について、教育、研究を進めていく。

文化の社会的活用について修得した専門人材は、従来の人文系諸分野においては今後の必要性に比して必ずしも十分に輩出されてきたとは言いがたい。ビジネスの素材や集客のための訴求力として、対外的なソフトパワーとして、共生的社会実現のための土台としてなど、文化が活用される場は多岐にわたる。これらはいずれも現代社会における重要な課題となっているものであり、本専攻の教育、研究は、現代社会の課題解決にも大きく寄与するものである。このような理由から本専攻を設置する。

なお、「学生の確保の見通し等を記載した書類」のとおり、本研究科においては、長期的かつ安定的に学生を確保することができる

イ 人材養成の方針及びディプロマ・ポリシー

(1) 人材養成の方針

文学研究科では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。その際、人文科学や行動科学の分野における研究者の養成を主軸としながらも、とくに博士前期課程では、地域の教育に貢献し、都市が抱えるさまざまな問題の解決に応えうる高度専門職業人の養成や、生涯学習への意欲をもち、国際社会・地域社会においてさまざまな文化的活動を担うことのできる高度教養人の養成も視野に入れた人材養成を行う。

博士前期課程

具体的には、大学院博士前期課程において、次のような人材を育成する。

- ①人文科学や行動科学の分野において、先端的知識と方法を身につけ、独創的研究をみずから行いうる人材
- ②地域の教育に貢献し、都市が抱えるさまざまな問題の解決に応えうる高度専門職業人
- ③生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に対する深い理解を通して、国際社会・地域社会においてさまざまな文化的活動を担うことのできる高度教養人

【哲学歴史学専攻】

人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求することを目的とする。人間文化の基礎を研究する哲学と歴史学を統合した教育研究体制を備えることで、人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにすることを目指す。専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人を養成する。

【人間行動学専攻】

人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化摩擦

など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、学際的に捉えることを目的とする。フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基礎に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化を重視する。人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養し、研究職のみならず、高度な専門的知識と技術をもった人材を養成する。

【言語文化学専攻】

言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明することを目的とする。従来の言語単位の専門分野と、言語応用学という言語横断的分野とを合わせ、都市化、情報化、国際化の時代にふさわしい教育研究を実現する。さらに西洋古典学、エリアスタディーズなどの分野をも含めた総合的な言語文化学を修得させることで、鋭い言語感覚と言語運用能力を備えて、研究者、専門職業人を問わず国際社会において活躍し得る人材を養成する。

【文化構想学専攻】

さまざまな文化や文化的事象を、社会的実践の場において積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想することを目的とする。新たな文化の創出、比較文化的・多文化共生的な認識、文化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知見を併せ持ちながら、文化や文化的事象をさまざまな課題解決に活用することができる能力を習得させる。研究者、専門職業人のいずれの進路においても、文化の活用を理論と実践の双方で牽引できる人材を養成する。

博士後期課程

大学院博士後期課程においては、次のような人材を養成する。

- ①人文科学・行動科学の最先端の研究課題を創造的に探究する高度な研究能力を備えた研究者
- ②国内外の教育研究組織や機関と連携し、人文科学・行動科学の国際的、学際的な研究を主導的に推進する研究者

【哲学歴史学専攻】

人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求することを目的とする。人間文化の基礎を研究する哲学と歴史学を統合した教育研究体制を備えることで、人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにすることを目指す。専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人を養成する。

【人間行動学専攻】

人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化摩擦など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉えることを目的とする。フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基礎に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化を重視する。人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養し、研究職のみならず、高度な専門的

知識と技術をもった人材を養成する。

【言語文化学専攻】

言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明することを目的とする。従来の言語単位の専門分野と、言語応用学という言語横断的分野とを合わせ、都市化、情報化、国際化の時代にふさわしい教育研究を実現する。さらに西洋古典学、エリアスタディーズなどの分野をも含めた総合的な言語文化学を修得させることで、鋭い言語感覚と言語運用能力を備えて、研究者、専門職業人を問わず国際社会において活躍し得る人材を養成する。

【文化構想学専攻】

さまざまな文化や文化的事象を、社会的実践の場において積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想することを目的とする。新たな文化の創出、比較文化的・多文化共生的な認識、文化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知見を併せ持ちながら、文化や文化的事象をさまざまな課題解決に活用することができる能力を習得させる。研究者、専門職業人のいずれの進路においても、文化の活用を理論と実践の双方で牽引できる人材を養成する。

以上のような人材養成の方針に従い、文学研究科は、所定の単位修得と論文審査の合格により、以下のようなディプロマ・ポリシーを満たした学生に、学位を授与する。

(2) ディプロマ・ポリシー

博士前期課程

文学研究科は、大学院博士前期課程において、①人文科学や行動科学の分野において、先端的知識と方法を身につけ、独創的研究をみずから行いうる能力を習得させる、②地域の教育に貢献し、都市が抱えるさまざまな問題の解決に応えうる高度専門職業人としての能力を習得させる、③生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に対する深い理解を通して、国際社会・地域社会においてさまざまな文化的活動を担うことのできる高度教養人としての能力を習得させる。

くわえて、各専攻では、以下のような能力を習得させる。

【哲学歴史学専攻】

人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求する能力を習得させる。また、人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにする能力を習得させる。専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得させ、また、広い知識と教養をもった専門職業人としての能力を習得させる。

【人間行動学専攻】

人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化摩擦など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉える能力を習得させる。フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基礎に、実証的なデータに基づく分析

と理解や理論化できる能力を習得させる。人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養し、研究者としての能力を習得させ、また、高度な専門的知識と技術をもった専門職業人としての能力を習得させる。

【言語文化学専攻】

言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得させる。日本語、中国語、英語、ドイツ語、フランス語を中心とした各言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバリゼーションという 21 世紀にふさわしい人材としての能力を習得させる。鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得させる。

【文化構想学専攻】

さまざまな文化や文化的事象を、社会的実践の場において積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想する能力を習得させる。新たな文化の創出、比較文化的・多文化共生的な認識、文化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知見を併せ持ちながら、文化や文化的事象をさまざまな課題解決に活用することができる能力を習得させる。研究者、専門職業人のいずれの進路においても、文化の活用を理論と実践の双方で牽引できる能力を習得させる。

博士後期課程

文学研究科は、大学院博士後期課程において、①人文科学・行動科学の最先端の研究課題を創造的に探究する高度な研究能力を備えた研究者としての能力を習得させる、②国内外の教育研究組織や機関と連携し、人文科学・行動科学の国際的、学際的な研究を主導的に推進する研究者としての能力を習得させる。

くわえて、各専攻では、以下のような能力を習得させる。

【哲学歴史学専攻】

人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求する能力を習得させる。人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにする研究者としての能力を習得させる。専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得させる。

【人間行動学専攻】

人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化摩擦など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉える能力を習得させる。フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基礎に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化できる能力を習得させる。人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養し、専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得させる。

【言語文化学専攻】

言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得させる。日本語、中国語、英語、ドイツ語、フランス語を中心とした各言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバリゼーションという21世紀にふさわしい研究者としての能力を習得させる。鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者として国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得させる。専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得させる。

【文化構想学専攻】

さまざまな文化や文化的事象を、社会的実践の場において積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想する。新たな文化の創出、比較文化的・多文化共生的な認識、文化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知見を併せ持ちながら、文化や文化的事象をさまざまな課題解決に活用することができる能力を習得させる。文化の活用を理論と実践の双方で牽引できる研究者としての能力を習得させる。専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得させる。

ウ 修了後の進路

博士前期課程

【哲学歴史学専攻】

大学院進学（博士後期課程）、博物館・美術館・公文書館（学芸員など）、人文関係研究所、中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、公務員（発掘調査、自治体史編纂、国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、出版業、情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、サービス業（人材派遣等）、広告代理店、コンサルティング

【人間行動学専攻】

大学院進学（博士後期課程）、中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、学校事務（大学、教育委員会）、情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）

【言語文化学専攻】

大学院進学（博士後期課程）、中学・高等学校教員（国語、外国語）、公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、外資系企業（商社、メーカー等）

【文化構想学専攻】

大学院進学（博士後期課程）、博物館・美術館学芸員、サービス業（人材派遣、観光業等）、広告代理店、コンサルティング、情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、卸売業・小売業（百貨店、自動車販売、雑貨販売等）、製造業（電気電子、自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等）、公務員（国家公務員、府県庁、市役所、裁判所等）

博士後期課程

【哲学歴史学専攻】

大学教員、博物館・美術館・公文書館（学芸員など）、人文関係学術的研究開発事業所、中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、公務員（発掘調査、自治体史編纂、国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）

【人間行動学専攻】

大学教員、人文関係学術的研究開発事業所、中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、学校事務（大学、教育委員会）、コンサルティング

【言語文化学専攻】

大学教員、人文関係学術的研究開発事業所、中学・高等学校教員（国語、外国語）、公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、外資系産業（商社、メーカー等）

【文化構想学専攻】

大学教員、博物館・美術館学芸員、人文関係学術的研究開発事業所、サービス業（人材派遣、観光業等）、コンサルティング、広告代理店、情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、公務員（国家公務員、府県庁、市役所、裁判所等）

エ 研究対象とする中心的な学問分野

【哲学歴史学専攻】

本専攻は、広く世界と人間に関わる一切の問題について、自由な理性的探究を行う「哲学」、日本の過去の人間のいとなみを対象とし、ある事件や現象、政治・経済・社会・文化の仕組みは、前段階のどのような状況のなかから生まれ、そのためにどのような本質をもち、つぎの段階にどのように影響するのかを、史料によって明らかにする「日本史学」、東洋の過去の人間のいとなみを対象として、同様に考究する「東洋史学」および、西洋の過去の人間のいとなみを対象として、同様に考究する「西洋史学」の4つの学問分野を柱とする。

細分化すれば、西洋哲学史、論理学、存在論、認識論、科学哲学、心の哲学、言語哲学、理論的倫理学、応用倫理学、宗教学、美学、分析哲学など（以上、哲学）、日本の古代、中世、近世、近現代における政治史・制度史、社会史・都市史、文化史・思想史、および考古学など（以上、日本史）、中国近世史、中国近代史、オスマン帝国史、ロシア史、中央ユーラシア史など（以上、東洋史）、ビザンツ史、ヨーロッパ中世史、ヨーロッパ近現代史、など（以上、西洋史）から構成される。

【人間行動学専攻】

本専攻は、社会現象をつねに人間・社会関係・集団のあり方や行為として解釈していく「社会学」、多様で複雑な人間や動物の行動を、心のはたらきという視点から解明する「心理学」、人間の学びとそれを促進する働きかけの在り方を考究する「教育学」、人間の生活する地球表面の「空間」や「景観」の形態、構造、過程を研究する「地理学」の4つの学問分野を柱

とする。

細分化すれば、社会学史、文化社会学、映像社会学、メディア文化論、生活世界社会学、地域社会学、都市・社会政策社会学、比較社会学、家族社会学、老年社会学、ジェンダー論、都市社会学、アート社会学、歴史社会学など（以上、社会学）、社会心理学、認知心理学、生理心理学、行動分析学など（以上、心理学）、教育哲学、教育思想研究、教育方法学、教育実践学、教育工学、教育経営学、教育行政学、教育社会学、教師教育学、教育史、比較・国際教育学など（以上、教育学）、経済・都市地理学、景観・文化地理学、社会・政治地理学、地理情報システム論など（以上、地理学）から構成される。

【言語文化学専攻】

本専攻は、長い歴史を有する日本語、中国語、英語、ドイツ語、フランス語という個別言語研究とその枠を越えた言語比較、また、これらの言語によって形成される文学作品や文化事象の研究を目的とし、「国語国文学」「中国語中国文学」「英語英米文学」「ドイツ語圏言語文化学」「フランス語圏言語文化学」「言語応用学」の6つの学問分野を柱とする。

細分化すれば、平安文学、中世文学、近世文学、近代文学、国語学など（以上、国語国文学）、中国文学、中国語学、中国文化論など（以上、中国語中国文学）、近世イギリス文学、近現代イギリス文学、アメリカ文学、英米文化論、英語学など（以上、英語英米文学）、20世紀ドイツ語圏文学、18・19世紀ドイツ語圏文学、18・19世紀ドイツ語圏文化論、ドイツ語学、言語教育・学習研究など（以上、ドイツ語圏言語文化学）、19世紀フランス語圏文学、19世紀フランス語圏文化論、20世紀フランス語圏文学、20世紀フランス語圏文化論、フランス語圏言語学、言語教育・学習研究など（以上、フランス語圏言語文化学）、言語構造論、言語意味理論、言語運用論、コーパス言語学、言語獲得論、言語教育論、言語比較論、心理言語学など（以上、言語応用学）から構成されている。

【文化構想学専攻】

本専攻は、現代の多様な文化現象の理論的分析と新たな文化表現の創出を考究する「表現文化」、アジア地域における文化活用実践の比較研究をもとに地域、社会に適合的な文化活用の方策を考察する「アジア文化」、課題解決的な文化活用の実践や文化による社会貢献、地域連携の手法を検討する「文化資源」という三つの専門分野から編成される。それぞれの専門分野が現代社会におけるさまざまな課題に対応できるような教育、研究を目指していることから必然的に学際的な性格が強くなり、伝統的な学問分野で研究対象を規定することは難しい。しかしあえてまとめれば、テキスト文化論、表象文化論、ポピュラー文化論、比較表現論（以上、表現文化）、地域文化論、文化人類学、比較文化論（以上、アジア文化）、演劇論、芸術学（美学、美術史学）、観光学、音楽学（以上、文化資源）となる。

2 修士課程までの構想か、又は、博士課程の設置を目指した構想か。

該当なし

3 研究科、専攻等の名称及び学位の名称

ア 研究科・専攻等の名称及び当該名称とする理由

〔学部・学科の名称〕

研究科名称	文学研究科
専攻名称	哲学歴史学専攻
	人間行動学専攻
	言語文化学専攻
	文化構想学専攻

(1) 研究科の名称を当該名称とする理由

哲学、日本史学、東洋史学、西洋史学、社会学、心理学、教育学、地理学、国語国文学、中国語中国文学、英語英米文学、ドイツ語圏言語文化学、フランス語圏言語文化学、言語応用学、表現文化学、アジア文化学、文化資源学を包括する学部の名称として、わが国では伝統的に「文学研究科」という名称が用いられてきているので、この名称を選んだ。

(2) 専攻の名称を当該名称とする理由

世界的研究・教育拠点および高度専門職業人養成の機能を果たす使命をもつ本大学大学院において、論文研究を中心とした探究活動を通して、研究者等養成を最も重視しつつ、高度専門職業人養成や、我が国の知識基盤社会を支える「21世紀型市民」の高度な学習需要に対応する機能を果たし、他者の文化(歴史・宗教・風俗習慣等を広く含む。)を理解・尊重して他者とコミュニケーションをとることのできる力を持った個人を創造することによって実現しようとする文学研究科の機能を、専攻ごとの学問分野を基礎として果たすため、哲学歴史学専攻、人間行動学専攻、言語文化学専攻、文化構想学専攻の名称を用いる。

【哲学歴史学専攻】

上記の文学研究科の機能を、哲学、日本史学、東洋史学、西洋史学の学問分野を基盤として果たそうとするのが哲学歴史学専攻である。哲学、日本史学、東洋史学、西洋史学を包括する名称として、哲学歴史学専攻とした。

【人間行動学専攻】

上記の文学研究科の機能を、社会学、心理学、教育学、地理学の学問分野を基盤として果たそうとするのが人間行動学専攻である。社会学、心理学、教育学、地理学といった、広く人間行動を研究対象とする専攻の名称として、人間行動学専攻とした。

【言語文化学専攻】

上記の文学研究科の機能を、国語、中国語、英米語、ドイツ語、フランス語その他の言語に関わる言語学、文学、文化学の学問分野を基盤として果たそうとするのが言語文化学専攻である。国語、中国語、英米語、ドイツ語、フランス語その他の言語に関わる言語学、文学、文化学、すなわち言語文化を対象として研究し、また、言語応用学を研究する専攻の総称として、言語文化学専攻とした。

【文化構想学専攻】

上記の文学研究科の機能を、表現文化学、アジア文化学、文化資源学の学問分野を基盤として果たそうとするのが文化構想学専攻である。

本専攻は、さまざまな文化や文化的事象を、社会的実践の場において積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想することを目的とする。そのなかで文化的コンテンツにたいする専門的見識と文化的多様性への深い理解とを併せ持ちながら、文化を応用的、実践的に活用しつつ、新たな文化を構想することが出来る人材の育成をはかるものである。

本専攻のこのような目的と人材育成の特色をひと言で言い表すならば、「文化を構想する」ということになる。このような意味での「文化構想学」という専攻を設置する。人文学における新たな、かつ社会的必要性のある学問領域として、「文化構想学」専攻という名称を付す。

上述のような学問・実践領域に近いものとして「アーツ・マネジメント」がある。これは、社会のなかでの芸術の活用を図り、同時に新たな芸術の可能性を追求するものである。本専攻は、狭い意味での芸術にとどまらず、文化についてこれを実現していこうとするものである。ただし、日本語においては「マネジメント」という語には経営学的、産業管理的ニュアンスが強く伴っているため、「文化構想」という名称を選択した。一方その英訳については、文化研究の分野においても「arts management」という語が広く定着していることを鑑み、「Cultural Management」という名称をあてた。

イ 学位の名称及び当該名称とする理由

〔学位の名称〕

博士前期課程

修士（文学）

博士後期課程

博士（文学）

〔当該名称とする理由〕

文学研究科の博士前期課程を通して取得できる学位は、修士（文学）がもっとも一般的であり、文学研究科の博士後期課程を通して取得できる学位は、博士（文学）がもっとも一般的であるため、これらの名称を妥当とした。

ウ 研究科・専攻等及び学位の英訳名称

研究科及び専攻名	英訳名称
文学研究科	Graduate School of Literature and Human Sciences
哲学歴史学専攻	Department of Philosophy and History
人間行動学専攻	Department of Human Behavioral Sciences

言語文化学専攻	Department of Language and Culture
文化構想学専攻	Department of Cultural Management

学位名称	英訳名称
修士（文学）	Master of Arts
博士（文学）	Doctor of Literature

4 教育課程の編成の考え方及び特色(教育研究の柱となる領域(分野)の説明も含む。)

ア 教育課程の編制方針（カリキュラム・ポリシー）

博士前期課程

文学研究科博士前期課程では、人文科学・行動科学の専門領域に関する高度な専門的知識を培う。

人文科学・行動科学の専門領域において明確な問題意識をもって研究を行える能力を培う。

ディプロマ・ポリシーにおいて示した能力を持つ人材を育成するために、必修を含む 31 単位以上の科目を修得することと、研究指導を受けて修士論文を作成し、論文の審査および最終試験に合格することを、課程修了の必要要件として課す。

以上の目標を達成するため、文学研究科は次の 4 点を重視する。

- ① 高度な知識と総合的な問題解決能力を身につけることを目標に、学生が所属する「研究分野」を考慮に入れた諸科目をバランスよく履修できるように、「専攻共通科目」と「分野専門科目」を配置する。
- ② 修士の学位論文の作成のため、指導教員等による「研究指導」を履修し、教員による助言を 2 年間にわたって受けるようにする。
- ③ 若手研究者として国際的に活躍できる能力を養うため、「インターナショナル・スクール授業科目」などの文学研究科共通科目の積極的な履修を勧める。
- ④ 全学に共通する大学院科目のうち、研究公正科目 1 単位を必修とする。

適切な履修指導および論文指導を行うために、各専攻の中に分野ごとの専修を設け、各専修担当教員が責任を持って大学院生の指導を行う。

【哲学歴史学専攻】

- ① 人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求する研究力を身に付けさせる。そのために哲学、日本史、東洋史、西洋史の分野ごとに分野専門科目を配置する。
- ② 人間文化の基礎を研究する哲学と歴史学を統合した教育研究体制を備えることで、人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにする研究力を身に付けさせる。そのために専攻共通科目、分野専門科目の総合研究演習科目および研究指導科目を配置する。

- ③ 専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人になるための研究力を身に付けさせる。そのために文学研究科共通科目および全学の大学院共通教育科目を配置する。

各科目の学修成果は、定期試験、レポート、授業中の発表などに基づいて評価することとし、その評価方法はシラバスにおいて科目ごとに明示する。

【人間行動学専攻】

- ① 人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化摩擦など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉える研究力を身に付けさせる。また、フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基礎に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化できる研究力を身に付けさせる。それらのために社会学、心理学、教育学、地理学の分野ごとに分野専門科目を配置する。
- ② 人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養する。そのために専攻共通科目、分野専門科目の総合研究演習科目および研究指導科目を配置する。
- ③ また、研究職のみならず、高度な専門的知識と技術をもった人材になるための研究力を身に付けさせる。そのために文学研究科共通科目および全学の大学院共通教育科目を配置する。

各科目の学修成果は、定期試験、レポート、授業中の発表などに基づいて評価することとし、その評価方法はシラバスにおいて科目ごとに明示する。

【言語文化学専攻】

- ① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する研究力を身に付けさせる。そのために国語国文学、中国語中国語学、英語英米文学、ドイツ語圏言語文化学、フランス語圏言語文化学、言語応用学の分野ごとに分野専門科目を配置する。
- ② 日本語、中国語、英語、ドイツ語、フランス語を中心とした各言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバリゼーションという 21 世紀にふさわしい研究力を身に付けさせる。そのために専攻共通科目、分野専門科目の総合研究演習科目および研究指導科目を配置する。
- ③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍しうる人材になるための研究力を身に付けさせる。そのために文学研究科共通科目および全学の大学院共通教育科目を配置する。

各科目の学修成果は、定期試験、レポート、授業中の発表などに基づいて評価することとし、その評価方法はシラバスにおいて科目ごとに明示する。

【文化構想学専攻】

- ① さまざまな文化や文化的事象を、社会的実践の場において積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を

主導的に構想する研究力を身に付けさせる。そのために表現文化学、アジア文化学、文化資源学の分野ごとに分野専門科目を配置する。

- ② 新たな文化の創出、比較文化的・多文化共生的な認識、文化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知見を併せ持ちながら、文化や文化的事象をさまざまな課題解決に活用することができる研究力を身に付けさせる。そのために専攻共通科目、分野専門科目の総合研究演習科目および研究指導科目を配置する。
- ③ 研究者、専門職業人のいずれの進路においても、文化の活用を理論と実践の双方で牽引できる人材になるための研究力を身に付けさせる。そのために文学研究科共通科目および全学の大学院共通教育科目を配置する。

各科目の学修成果は、定期試験、レポート、授業中の発表などに基づいて評価することとし、その評価方法はシラバスにおいて科目ごとに明示する。

博士後期課程

文学研究科博士後期課程では、人文科学・行動科学の専門領域において深い学識にもとづき独創的な研究を行える能力を培う。研究成果を国内外に発信できる情報発信能力を培う。若手研究者として国際的に活躍できる能力を養うための「インターナショナル・スクール授業科目」については、積極的な履修を勧める。全学に共通する大学院科目のうち、研究公正科目1単位を必修とする。

博士の学位論文作成の基礎とするために、入学試験によって所属が決まっている専修に対応した分野の研究動向とその研究と社会との関係を学ぶための分野専門科目を履修する。

博士の学位論文の作成のため、指導教員等による「論文指導」を3年間にわたって履修し、教員による助言を継続的に受けるようにする。また、「論文指導」4単位修得後（通常2年次）の前期 Semester 開始時「博士論文作成計画書」を指導教授に提出しなければならない。博士の学位論文については、3名の教員からなる審査委員会による審査を実施する。

上記の人材育成の目標を達成するために設置された教育課程において、所定の単位を修得したうえで博士論文を提出し、厳正なる審査に合格した者に、文学研究科は博士（文学）の学位を授与する。

【哲学歴史学専攻】

- ① 人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求する研究力を身に付けさせる。また、人間文化の基礎を研究する哲学と歴史学を統合した教育研究体制を備えることで、人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにする研究力を身に付けさせる。それらのために、哲学、日本史学、東洋史学、西洋史学の分野ごとの分野専門科目を配置し、論文指導科目を配置する。
- ② 専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人になるための研究力を身に付けさせる。そのために全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。

各科目の学修成果は、定期試験、レポート、授業中の発表などに基づいて評価することと

し、その評価方法はシラバスにおいて科目ごとに明示する。

【人間行動学専攻】

- ① 人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化摩擦など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉える研究力を身に付けさせる。また、フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基礎に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化できる研究力を身に付けさせる。それらのために、社会学、心理学、教育学、地理学の分野ごとの分野専門科目を配置し、論文指導科目を配置する。
- ② 人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養し、研究職のみならず、高度な専門的知識と技術をもった人材になるための研究力を身に付けさせる。そのために全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。

各科目の学修成果は、定期試験、レポート、授業中の発表などに基づいて評価することとし、その評価方法はシラバスにおいて科目ごとに明示する。

【言語文化学専攻】

- ① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する研究力を身に付けさせる。また、日本語、中国語、英語、ドイツ語、フランス語を中心とした各言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバリゼーションという21世紀にふさわしい研究力を身に付けさせる。それらのために、国語国文学、中国語中国語学、英語英米文学、ドイツ語圏言語文化学、フランス語圏言語文化学、言語応用学の分野ごとの分野専門科目を配置し、論文指導科目を配置する。
- ② 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍しうる人材になるための研究力を身に付けさせる。そのために全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。

各科目の学修成果は、定期試験、レポート、授業中の発表などに基づいて評価することとし、その評価方法はシラバスにおいて科目ごとに明示する。

【文化構想学専攻】

- ① さまざまな文化や文化的事象を、社会的実践の場において積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想する研究力を身に付けさせる。また、新たな文化の創出、比較文化的・多文化共生的な認識、文化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知見を併せ持ちながら、文化や文化的事象をさまざまな課題解決に活用することができる研究力を身に付けさせる。それらのために、表現文化学、アジア文化学、文化資源学の分野ごとの分野専門科目を配置し、論文指導科目を配置する。
- ② 研究者、専門職業人のいずれの進路においても、文化の活用を理論と実践の双方で牽

引できる人材になるための研究力を身に付けさせる。そのために全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目 1 単位を必修とする。

各科目の学修成果は、定期試験、レポート、授業中の発表などに基づいて評価することとし、その評価方法はシラバスにおいて科目ごとに明示する。

イ 教育課程の概要及び特色

博士前期課程

大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類にて説明の、大学院の基幹教育が目指す学修成果を目指した大学院共通教育科目、専攻に共通した研究基盤を身に付ける専攻共通科目、入学試験によって所属が決まっている専修に対応した分野専門科目、研究成果の国際的発信力を身に付けることを目的とした文学研究科共通科目、2 年次における修士論文研究の指導を受けるための研究指導科目の 5 種類の科目区分がある。

1 年次に「研究公正 A」を含む大学院共通教育科目や文学研究科共通科目を履修し、哲学歴史学専攻においては専攻共通科目を 2 単位以上履修し、他の 3 専攻においては 4 単位以上履修する。加えて、所属する専修の総合研究演習科目 4 単位を含む所属する専攻の分野専門科目 22 単位分を履修する。

2 年次には、所属する専修に対応した研究指導科目を 4 単位分履修し、修士論文を完成させる。

博士後期課程

大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類にて説明の、大学院の基幹教育が目指す学修成果を目指した大学院共通教育科目、入学試験によって所属が決まっている専修に対応した分野専門科目、博士論文研究の指導を受けるための論文指導科目の 3 種類の科目区分がある。論文指導科目は、1 年次～3 年次に履修することで 12 単位を与えることとする。各年次において通年で 4 単位であり、設定の単位数は妥当である。

1 年次に「研究公正 B」を含む大学院共通教育科目を履修し、入学試験によって所属が決まっている専修に対応した分野専門科目を 4 単位分履修する。加えて、所属する専修に対応する論文指導科目を 4 単位分履修する。

2 年次には、所属する専修に対応する論文指導科目を 4 単位分履修する。

3 年次には、所属する専修に対応する論文指導科目を 4 単位分履修し、博士論文を完成させる。

5 教員組織の編成の考え方及び特色

ア 教員組織編成の考え方

本研究科は、「哲学歴史学専攻」、「人間行動学専攻」、「言語文化学専攻」「文化構想学専攻」の 4 専攻で構成されるが、人文学研究の特殊性から、さらに細分化した多様な研究領域を研究する教員が、それらの研究成果を有機的に組み合わせることによって創発的效果が得られるような組織編成とする。

博士前期課程

研究型大学における教育研究の質を担保するため、博士前期課程を担当できるのは准教授以上とし、研究指導科目を担当できるのは教授に限っている。また、教授は博士の学位取得者とする。准教授は原則として博士の学位取得者とするが、博士の学位のない者であっても、近い将来、博士の学位取得の見込みがあると認められれば准教授として博士前期課程を担当できるものとする。各専修の教員配置は以下のとおりである。

【哲学歴史学専攻】

本専攻の教員構成は、専任教員が16名（内訳は教授9名、准教授7名）である。哲学、日本史学、東洋史学、西洋史学それぞれの専修に2名以上の教授を配置する。専任教員が、専攻共通科目、分野専門科目のほとんどを担当する。そのうち、総合研究演習科目は、対応する分野の教員全員が共同で担当する。また、研究指導科目は、対応する分野の教授のみが共同で担当する。

【人間行動学専攻】

本専攻の教員構成は、専任教員が18名（内訳は教授11名、准教授7名）である。社会学、心理学、教育学、地理学それぞれの専修に2名以上の教授を配置する。専任教員が、専攻共通科目、分野専門科目のほとんどを担当する。そのうち、総合研究演習科目は、対応する分野の教員全員が共同で担当する。また、研究指導科目は、対応する分野の教授のみが共同で担当する。

【言語文化学専攻】

本専攻の教員構成は、専任教員が21名（内訳は教授13名、准教授8名）である。国語国文学、中国語中国文学、英語英米文学、ドイツ語圏言語文化学、フランス語圏言語文化学、言語応用学それぞれの専修に2名以上の教授を配置する。専任教員が、専攻共通科目、分野専門科目のほとんどを担当する。そのうち、総合研究演習科目は、対応する分野の教員全員が共同で担当する。また、研究指導科目は、対応する分野の教授のみが共同で担当する。

【文化構想学専攻】

本専攻の教員構成は、専任教員が12名（内訳は教授7名、准教授5名）である。表現文化学、アジア文化学、文化資源学それぞれの専修に2名以上の教授を配置する。これらの専任教員が、専攻共通科目、分野専門科目のほとんどを担当する。そのうち、総合研究演習科目は、対応する分野の教員全員が共同で担当する。また、研究指導科目は、対応する分野の教授のみが共同で担当する。

博士後期課程

研究型大学における教育研究の質を担保するため、博士後期課程を担当できるのは教授に限っている。また、博士後期課程担当教員は博士の学位取得者とする。各専修の教員配置は以下のとおりである。

【哲学歴史学専攻】

本専攻の教員構成は、専任の教授が9名である。哲学、日本史学、東洋史学、西洋史学そ

それぞれの専修に 2 名以上の教授を配置する。専任教員が、対応する分野専門科目および論文指導科目をそれぞれ共同で担当する。

【人間行動学専攻】

本専攻の教員構成は、専任の教授が 11 名である。社会学、心理学、教育学、地理学それぞれの専修に 2 名以上の教授を配置する。専任教員が、対応する分野専門科目および論文指導科目をそれぞれ共同で担当する。

【言語文化学専攻】

本専攻の教員構成は、専任の教授が 13 名である。国語国文学、中国語中国文学、英語英米文学、ドイツ語圏言語文化学、フランス語圏言語文化学、言語応用学それぞれの専修に原則として 2 名以上の教授を配置する。専任教員が、対応する分野専門科目および論文指導科目をそれぞれ共同で担当する。

【文化構想学専攻】

本専攻の教員構成は、専任の教授が 6 名である。表現文化学、アジア文化学、文化資源学それぞれの専修に 2 名以上の教授を配置する。専任教員が、対応する分野専門科目および論文指導科目をそれぞれ共同で担当する。

イ 教員組織編成の特色

【哲学歴史学専攻】

哲学歴史学の教育、研究という専攻の目的をより効果的に達成するために、教員を専門性に応じて 4 つの専門分野に割り振っている。哲学分野には主として哲学、倫理学、宗教学、美学に重きをおいた研究をおこなっている教員、日本史学分野には主として古代から近現代の日本史の研究および考古学の研究をおこなっている教員、東洋史学分野には、主として中国史、オスマン帝国史、ロシア史、中央ユーラシア史、西洋史学分野には、ビザンツ史、ヨーロッパ中世史、ヨーロッパ近現代史の教員を配置する。

【人間行動学専攻】

人間行動学の教育、研究という専攻の目的をより効果的に達成するために、教員を専門性に応じて 4 つの専門分野に割り振っている。社会分野には主として文化社会学、比較社会学、地域社会学、家族社会学、都市社会学に重きをおいた研究をおこなっている教員、心理学分野には主として社会心理学、認知心理学、生理心理学、行動心理学に重きをおいた研究をおこなっている教員、教育学分野には主として教育方法学、教師教育学、教育経営学、教育史学、比較・国際教育学に重きをおいた研究をおこなっている教員、地理学分野には主として文化地理学、都市地理学、政治地理学、地理情報システム論に重きをおいた研究をおこなっている教員を配置する。

【言語文化学専攻】

言語文化学の教育、研究という専攻の目的をより効果的に達成するために、教員を専門性に応じて 6 つの専門分野に割り振っている。国語国文学分野には主として国語学、国文学に重きをおいた研究をおこなっている教員、中国語中国文学分野には主として中国語学、中国

文学、中国文学に重きをおいた研究をおこなっている教員、英語英米文学分野には主として英語学、英米文学、英米文学に重きをおいた研究をおこなっている教員、ドイツ語圏言語文化分野には主としてドイツ語学、ドイツ語圏文学、ドイツ語圏文化に重きをおいた研究をおこなっている教員、フランス語圏言語文化分野には主としてフランス語学、フランス語圏文学、フランス語圏文化に重きをおいた研究をおこなっている教員、言語応用学分野には主として主として言語類型論、意味論、語用論、心理言語学、言語文化学、言語教育学、応用言語学に重きをおいた研究を行っている教員を配置する。

【文化構想学専攻】

文化の社会的活用と問題解決に関する教育、研究という専攻の目的をより効果的に達成するために、教員を専門性に応じて 3 つの専門分野に割り振っている。表現文化分野には主として文化表現の理論的分析に重きをおいた研究をおこなっている教員、アジア文化分野には主として地域研究、比較研究の観点からアジア文化の研究をおこなっている教員、文化資源分野には主として文化の実践的活用について研究をおこなっている教員を配置する。

ウ 専任教員の年齢構成

博士前期課程

令和 5 年 3 月 31 日に学内規程により定年となる教授が言語文化学専攻に 1 名、文化構想学専攻に 1 名いる。言語文化学専攻の 1 名の教授については、言語文化学専攻の 2 名の准教授が令和 5 年 3 月 31 日に定年退職する予定であり、大学院教育課程の質の担保と継続性を確保するために、特例を定めた規程により、有期雇用として完成年度まで留任する。文化構想学専攻の 1 名の教授については、退職後の令和 5 年 4 月 1 日に同じ専門領域の准教授を雇用することが決定している。

完成年度における専任教員の構成は以下のとおりである。各専攻に 40 歳代の准教授を配置し、教育、研究の次世代への継承も支障なく継続できる教員構成となっている。

【哲学歴史学専攻】

職位	29 歳以下	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	合計
教授	0 人	0 人	0 人	4 人	5 人	0 人	0 人	9 人
准教授	0 人	0 人	5 人	1 人	1 人	0 人	0 人	7 人
講師	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
助教	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
合計	0 人	0 人	5 人	5 人	6 人	0 人	0 人	16 人

【人間行動学専攻】

職位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計
教授	0人	0人	1人	6人	3人	1人	0人	11人
准教授	0人	0人	7人	0人	0人	0人	0人	7人
講師	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
助教	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	0人	0人	8人	6人	3人	1人	0人	18人

【言語文化学専攻】

職位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計
教授	0人	0人	1人	4人	6人	2人	0人	13人
准教授	0人	0人	6人	0人	0人	2人	0人	8人
講師	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
助教	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	0人	0人	7人	4人	6人	4人	0人	21人

【文化構想学専攻】

職位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計
教授	0人	0人	1人	1人	3人	2人	0人	7人
准教授	0人	0人	3人	2人	0人	0人	0人	5人
講師	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
助教	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	0人	0人	4人	3人	3人	2人	0人	12人

博士後期課程

令和6年3月31日に定年となる人間行動学専攻の1名の教授については、特例を定めた規程により、有期雇用として完成年度まで留任する。令和6年3月31日に定年となる言語文化学専攻の1名の教授については、特例を定めた規程により、有期雇用として完成年度まで留任する。令和6年3月31日に定年となる文化構想学専攻の1名の教授については、特例を定めた規程により、有期雇用として完成年度まで留任する。

※添付資料1：定年退職する教員を特例として新大学で勤務する教員として雇用する場合の取扱いについて

完成年度における専任教員の構成は以下の表のとおりである。

文学研究科では、専任教員の年齢構成をできるだけ若くするよう、退職する教員の後任採用にあたっては、教育上の指導能力や研究業績等を考慮しつつ、若手・中堅教員の採用を積極的に行うことで、専任教員の年齢構成バランスを改善し、より適切な教育研究体制を構築するものとする。また、持続可能な教育研究体制を維持するために、後に博士後期課程教授の候補となり得る教員を博士前期課程の准教授として配置することとしている。

本研究科文化構想学専攻博士後期課程における専任教員の年齢構成は、完成年度である令和6年度末60代教授4名（完成年度までに定年退職する教員1名を除く）、50代教授2名となっており、その後、令和7年度末に教授が2名（いずれも定年退職する教員を特例として新大学で勤務する教員として雇用する教員）、令和8年度末に1名、令和9年度末に1名がそれぞれ退職することになる。それらの補充にあたっては、教授候補者である本専攻博士前期課程担当の准教授を上記のそれぞれの退職時までには本専攻博士後期課程担当の教授に昇任させる計画である。教授として昇任できないなどにより欠員が生じる場合は、学内外公募により若手・中堅教員を採用する。その結果、令和10年4月には、博士後期課程担当教授の4名が50代、2名が40代となることを目標にする。これは、本研究科の前身にあたる大阪市立大学文学研究科における、これまでの教員採用方針や実績に照らしても無理のないものであり、目標達成については十分に見通せるものであると同時に、本研究科の教育・研究の継続性をも確保し得るものである。

【哲学歴史学専攻】

職位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計
教授	0人	0人	0人	3人	5人	1人	0人	9人
准教授	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
講師	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

助教	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	0人	0人	0人	3人	5人	1人	0人	9人

【人間行動学専攻】

職位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計
教授	0人	0人	1人	6人	2人	2人	0人	11人
准教授	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
講師	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
助教	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	0人	0人	1人	6人	2人	2人	0人	11人

【言語文化学専攻】

職位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計
教授	0人	0人	1人	4人	6人	2人	0人	13人
准教授	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
講師	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
助教	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	0人	0人	1人	4人	6人	2人	0人	13人

【文化構想学専攻】

職位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計
教授	0人	0人	0人	2人	2人	2人	0人	6人
准教授	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
講師	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

助教	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	0人	0人	0人	2人	2人	2人	0人	6人

6 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件

ア 教育方法等

博士前期課程

分野別専門科目のほとんどは、数名から十数名の少人数教育である。

たとえば、「哲学研究」「哲学研究演習」のように、同一教員が前期と後期に連続して担当する分野別専門科目の科目名を、原則として前期を「講義」、後期を「演習」とする。それは、前期には相対的に講義の場面が多くなり、後期には相対的に演習の場面が多くなることを反映しているが、実際には、「講義」の科目であっても少人数による授業であるので、演習的要素が入り込むことがある。

必修科目の「研究公正 A」では、研究者として必要な研究倫理についての知識・技能・態度を培うことを目的とする。

修士論文による研究指導に直結しているのが研究指導科目であり、それは 2 年次配当になっているが、修士論文の指導は 1 年次から、分野専門科目の一部で触れたり、課外の指導の機会を設けたりして行う。

成績評価の基準・方針については、文学研究科のカリキュラム・ポリシーに従い、各専門科目の学修成果は、定期試験、授業中の発表などの平常点、レポートなどで評価することとし、その評価方法や基準については、科目毎に授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて明示する。また研究指導科目の学修成果は、研究課題への取り組み状況、研究結果に関するプレゼンテーション内容、教員や他の大学院生とのディスカッション能力などについて、研究指導教員を中心として総合的に評価することとし、その評価方法や基準については、科目毎に授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて明示する。

【哲学歴史学専攻】

〔哲学専修〕

1 年次に「研究公正 A」を含む大学院共通教育科目や文学研究科共通科目を履修し、専攻共通科目の「人間文化学研究 A」「人間文化学研究 B」から 2 単位以上を履修する。加えて、「哲学総合研究演習 1」「哲学総合研究演習 2」を含む分野別専門科目（哲学分野）を 22 単学分履修する。

2 年次には、「哲学研究指導 1」「哲学研究指導 2」を履修し、修士論文を完成させる。

〔日本史学専修〕

1 年次に「研究公正 A」を含む大学院共通教育科目や文学研究科共通科目を履修し、専攻共通科目の「人間文化学研究 A」「人間文化学研究 B」から 2 単位以上を履修する。加えて、

「日本史学総合研究演習 1」「日本史総合研究演習 2」を含む分野別専門科目（日本史学分野）を 22 単位分履修する。

2 年次には、「日本史学研究指導 1」「日本史学研究指導 2」を履修し、修士論文を完成させる。

〔東洋史学専修〕

1 年次に「研究公正 A」を含む大学院共通教育科目や文学研究科共通科目を履修し、専攻共通科目の「人間文化学研究 A」「人間文化学研究 B」から 2 単位以上を履修する。加えて、「東洋史学総合研究演習 1」「東洋史学総合研究演習 2」を含む分野別専門科目（東洋史学分野）を 22 単位分履修する。

2 年次には、「東洋史学研究指導 1」「東洋史学研究指導 2」を履修し、修士論文を完成させる。

〔西洋史学専修〕

1 年次に「研究公正 A」を含む大学院共通教育科目や文学研究科共通科目を履修し、専攻共通科目の「人間文化学研究 A」「人間文化学研究 B」から 2 単位以上を履修する。加えて、「西洋史学総合研究演習 1」「西洋史学総合研究演習 2」を含む分野別専門科目（西洋史学分野）を 22 単位分履修する。

2 年次には、「西洋史学研究指導 1」「西洋史学研究指導 2」を履修し、修士論文を完成させる。

【人間行動学専攻】

〔社会学専修〕

1 年次に「研究公正 A」を含む大学院共通教育科目や文学研究科共通科目を履修し、専攻共通科目の「人間行動学研究 A」「人間行動学研究 B」「人間行動学研究 C」「人間行動学研究 D」から 4 単位以上を履修する。加えて、「社会学総合研究演習 1」「社会学総合研究演習 2」を含む分野別専門科目（社会学分野）を 22 単位分履修する。

2 年次には、「社会学研究指導 1」「社会学研究指導 2」を履修し、修士論文を完成させる。

〔心理学専修〕

1 年次に「研究公正 A」を含む大学院共通教育科目や文学研究科共通科目を履修し、専攻共通科目の「人間行動学研究 A」「人間行動学研究 B」「人間行動学研究 C」「人間行動学研究 D」から 4 単位以上を履修する。加えて、「心理学総合研究演習 1」「心理学総合研究演習 2」を含む分野別専門科目（心理学分野）を 22 単位分履修する。

2 年次には、「心理学研究指導 1」「心理学研究指導 2」を履修し、修士論文を完成させる。

〔教育学専修〕

1 年次に「研究公正 A」を含む大学院共通教育科目や文学研究科共通科目を履修し、専攻共通科目の「人間行動学研究 A」「人間行動学研究 B」「人間行動学研究 C」「人間行動学研究 D」から 4 単位以上を履修する。加えて、「教育学総合研究演習 1」「教育学総合研究

演習 2」を含む分野別専門科目（教育学分野）を 22 単位分履修する。

2 年次には、「教育学研究指導 1」「教育学研究指導 2」を履修し、修士論文を完成させる。

〔地理学専修〕

1 年次に「研究公正 A」を含む大学院共通教育科目や文学研究科共通科目を履修し、専攻共通科目の「人間行動学研究 A」「人間行動学研究 B」「人間行動学研究 C」「人間行動学研究 D」から 4 単位以上を履修する。加えて、「地理学総合研究演習 1」「地理学総合研究演習 2」を含む分野別専門科目（地理学分野）を 22 単位分履修する。

2 年次には、「地理学研究指導 1」「地理学研究指導 2」を履修し、修士論文を完成させる。

【言語文化学専攻】

〔国語国文学専修〕

1 年次に「研究公正 A」を含む大学院共通教育科目や文学研究科共通科目を履修し、専攻共通科目の「言語文化学研究 A」「言語文化学研究 B」「言語文化学研究 C」「言語文化学研究 D」から 4 単位以上を履修する。加えて、「国語国文学総合研究演習 1」「国語国文学総合研究演習 2」を含む分野別専門科目（国語国文学分野）を 22 単位分履修する。

2 年次には、「国語国文学研究指導 1」「国語国文学研究指導 2」を履修し、修士論文を完成させる。

〔中国語中国文学専修〕

1 年次に「研究公正 A」を含む大学院共通教育科目や文学研究科共通科目を履修し、専攻共通科目の「言語文化学研究 A」「言語文化学研究 B」「言語文化学研究 C」「言語文化学研究 D」から 4 単位以上を履修する。加えて、「中国語中国文学総合研究演習 1」「中国語中国文学総合研究演習 2」を含む分野別専門科目（中国語中国文学分野）、および、他専修の分野別専門科目を 22 単位分履修する。

2 年次には、「中国語中国文学研究指導 1」「中国語中国文学研究指導 2」を履修し、修士論文を完成させる。

〔英語英米文学専修〕

1 年次に「研究公正 A」を含む大学院共通教育科目や文学研究科共通科目を履修し、専攻共通科目の「言語文化学研究 A」「言語文化学研究 B」「言語文化学研究 C」「言語文化学研究 D」から 4 単位以上を履修する。加えて、「英語英米文学総合研究演習 1」「英語英米文学総合研究演習 2」を含む分野別専門科目（英語英米文学分野）を 22 単位分履修する。

2 年次には、「英語英米文学研究指導 1」「英語英米文学研究指導 2」を履修し、修士論文を完成させる。

〔ドイツ語圏言語文化学専修〕

1 年次に「研究公正 A」を含む大学院共通教育科目や文学研究科共通科目を履修し、専攻共通科目の「言語文化学研究 A」「言語文化学研究 B」「言語文化学研究 C」「言語文化学研究 D」から 4 単位以上を履修する。加えて、「ドイツ語圏言語文化学総合研究演習 1」

「ドイツ語圏言語文化学総合研究演習 2」を含む分野別専門科目（ドイツ語圏言語文化学分野）を 22 単位分履修する。

2 年次には、「ドイツ語圏言語文化学研究指導 1」「ドイツ語圏言語文化学研究指導 2」を履修し、修士論文を完成させる。

〔フランス語圏言語文化学専修〕

1 年次に「研究公正 A」を含む大学院共通教育科目や文学研究科共通科目を履修し、専攻共通科目の「言語文化学研究 A」「言語文化学研究 B」「言語文化学研究 C」「言語文化学研究 D」から 4 単位以上を履修する。加えて、「フランス語圏言語文化学総合研究演習 1」「フランス語圏言語文化学総合研究演習 2」を含む分野別専門科目（フランス語圏言語文化学分野）を 22 単位分履修する。

2 年次には、「フランス語圏言語文化学研究指導 1」「フランス語圏言語文化学研究指導 2」を履修し、修士論文を完成させる。

〔言語応用学専修〕

1 年次に「研究公正 A」を含む大学院共通教育科目や文学研究科共通科目を履修し、専攻共通科目の「言語応用学研究 A」「言語応用学研究 B」「言語応用学研究 C」「言語応用学研究 D」から 4 単位以上を履修する。加えて、「言語応用学総合研究演習 1」「言語応用学総合研究演習 2」を含む分野別専門科目（言語応用学分野）を 22 単位分履修する。

2 年次には、「言語応用学研究指導 1」「言語応用学研究指導 2」を履修し、修士論文を完成させる。

【文化構想学専攻】

〔表現文化学専修〕

1 年次に「研究公正 A」を含む大学院共通教育科目や文学研究科共通科目を履修し、加えて、専攻共通科目の「文化構想学研究 A（表現文化）」を含む専攻共通科目を 4 単位以上履修する。さらに、「表現文化学総合研究演習 1」「表現文化学総合研究演習 2」を履修し、かつ、専攻共通科目および分野専門科目の単位数が総計 26 単位以上となるように、専攻共通科目および分野専門科目から科目を選択して履修する。

2 年次には、「表現文化学研究指導 1」「表現文化学研究指導 2」を履修し、修士論文を完成させる。

〔アジア文化学専修〕

1 年次に「研究公正 A」を含む大学院共通教育科目や文学研究科共通科目を履修し、加えて、専攻共通科目の「文化構想学研究 B（アジア文化）」を含む専攻共通科目を 4 単位以上履修する。さらに、「アジア文化学総合研究演習 1」「アジア文化学総合研究演習 2」を履修し、かつ、専攻共通科目および分野専門科目の単位数が総計 26 単位以上となるように、専攻共通科目および分野専門科目から科目を選択して履修する。

2 年次には、「アジア文化学研究指導 1」「アジア文化学研究指導 2」を履修し、修士論文を完成させる。

〔文化資源学専修〕

1年次に「研究公正 A」を含む大学院共通教育科目や文学研究科共通科目を履修し、加えて、専攻共通科目の「文化構想学研究 C（文化資源）」を含む専攻共通科目を 4 単位以上履修する。さらに、「文化資源学総合研究演習 1」「文化資源学総合研究演習 2」を履修し、かつ、専攻共通科目および分野専門科目の単位数が総計 26 単位以上となるように、専攻共通科目および分野専門科目から科目を選択して履修する。

2 年次には、「文化資源学研究指導 1」「文化資源学研究指導 2」を履修し、修士論文を完成させる。

博士後期課程

分野専門科目のほとんどは、数名から十数名の少人数教育である。

必修科目の「研究公正 B」では、研究者として必要な研究倫理についての知識・技能・態度を培うことを目的とする。

分野専門科目である「特殊研究」では、該当分野の研究動向を分析したり、該当分野の研究と社会との結びつきを考察したりする。

成績評価の基準・方針については、文学研究科のカリキュラム・ポリシーに従い、各専門科目の学修成果は、定期試験、授業中の発表などの平常点、レポートなどで評価することとし、その評価方法や基準については、科目毎に授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて明示する。また論文指導科目の学修成果は、研究課題への取り組み状況、研究結果に関するプレゼンテーション内容、教員や他の大学院生とのディスカッション能力などについて、論文指導教員を中心として総合的に評価することとし、その評価方法や基準については、科目毎に授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて明示する。

【哲学歴史学専攻】

〔哲学専修〕

1年次に「研究公正 B」を含む大学院共通教育科目を履修し、分野専門科目の「哲学特殊研究 A」「哲学特殊研究 B」を履修する。加えて、論文指導科目の「哲学論文指導」を 4 単位分履修する。

2 年次には、論文指導科目の「哲学論文指導」を 4 単位分履修する。

3 年次には、論文指導科目の「哲学論文指導」を 4 単位分履修し、博士論文を完成させる。

〔日本史学専修〕

1年次に「研究公正 B」を含む大学院共通教育科目を履修し、分野専門科目の「日本史学特殊研究 A」「日本史学特殊研究 B」を履修する。加えて、論文指導科目の「日本史学論文指導」を 4 単位分履修する。

2 年次には、論文指導科目の「日本史学論文指導」を 4 単位分履修する。

3 年次には、論文指導科目の「日本史学論文指導」を 4 単位分履修し、博士論文を完成させる。

〔東洋史学専修〕

1年次に「研究公正 B」を含む大学院共通教育科目を履修し、分野専門科目の「東洋史学

特殊研究A」「東洋史学特殊研究B」を履修する。加えて、論文指導科目の「東洋史学論文指導」を4単位分履修する。

2年次には、論文指導科目の「東洋史学論文指導」を4単位分履修する。

3年次には、論文指導科目の「東洋史学論文指導」を4単位分履修し、博士論文を完成させる。

〔西洋史学専修〕

1年次に「研究公正B」を含む大学院共通教育科目を履修し、分野専門科目の「西洋史学特殊研究A」「西洋史学特殊研究B」を履修する。加えて、論文指導科目の「西洋史学論文指導」を4単位分履修する。

2年次には、論文指導科目の「西洋史学論文指導」を4単位分履修する。

3年次には、論文指導科目の「西洋史学論文指導」を4単位分履修し、博士論文を完成させる。

【人間行動学専攻】

〔社会学専修〕

1年次に「研究公正B」を含む大学院共通教育科目を履修し、分野専門科目の「社会学特殊研究A」「社会学特殊研究B」を履修する。加えて、論文指導科目の「社会学論文指導」を4単位分履修する。

2年次には、論文指導科目の「社会学論文指導」を4単位分履修する。

3年次には、論文指導科目の「社会学論文指導」を4単位分履修し、博士論文を完成させる。

〔心理学専修〕

1年次に「研究公正B」を含む大学院共通教育科目を履修し、分野専門科目の「心理学特殊研究A」「心理学特殊研究B」を履修する。加えて、論文指導科目の「心理学論文指導」を4単位分履修する。

2年次には、論文指導科目の「心理学論文指導」を4単位分履修する。

3年次には、論文指導科目の「心理学論文指導」を4単位分履修し、博士論文を完成させる。

〔教育学専修〕

1年次に「研究公正B」を含む大学院共通教育科目を履修し、分野専門科目の「教育学特殊研究A」「教育学特殊研究B」を履修する。加えて、論文指導科目の「教育学論文指導」を4単位分履修する。

2年次には、論文指導科目の「教育学論文指導」を4単位分履修する。

3年次には、論文指導科目の「教育学論文指導」を4単位分履修し、博士論文を完成させる。

〔地理学専修〕

1年次に「研究公正B」を含む大学院共通教育科目を履修し、分野専門科目の「地理学特殊研究A」「地理学特殊研究B」を履修する。加えて、論文指導科目の「地理学論文指導」

を4単位分履修する。

2年次には、論文指導科目の「地理学論文指導」を4単位分履修する。

3年次には、論文指導科目の「地理学論文指導」を4単位分履修し、博士論文を完成させる。

【言語文化学専攻】

〔国語国文学専修〕

1年次に「研究公正B」を含む大学院共通教育科目を履修し、分野専門科目の「国語国文学特殊研究A」「国語国文学特殊研究B」を履修する。加えて、論文指導科目の「国語国文学論文指導」を4単位分履修する。

2年次には、論文指導科目の「国語国文学論文指導」を4単位分履修する。

3年次には、論文指導科目の「国語国文学論文指導」を4単位分履修し、博士論文を完成させる。

〔中国語中国文学専修〕

1年次に「研究公正B」を含む大学院共通教育科目を履修し、分野専門科目の「中国語中国文学特殊研究A」「中国語中国文学特殊研究B」を履修する。加えて、論文指導科目の「中国語中国文学論文指導」を4単位分履修する。

2年次には、論文指導科目の「中国語中国文学論文指導」を4単位分履修する。

3年次には、論文指導科目の「中国語中国文学論文指導」を4単位分履修し、博士論文を完成させる。

〔英語英米文学専修〕

1年次に「研究公正B」を含む大学院共通教育科目を履修し、分野専門科目の「英語英米文学特殊研究A」「英語英米文学特殊研究B」を履修する。加えて、論文指導科目の「英語英米文学論文指導」を4単位分履修する。

2年次には、論文指導科目の「英語英米文学論文指導」を4単位分履修する。

3年次には、論文指導科目の「英語英米文学論文指導」を4単位分履修し、博士論文を完成させる。

〔ドイツ語圏言語文化学専修〕

1年次に「研究公正B」を含む大学院共通教育科目を履修し、分野専門科目の「ドイツ語圏言語文化学特殊研究A」「ドイツ語圏言語文化学特殊研究B」を履修する。加えて、論文指導科目の「ドイツ語圏言語文化学論文指導」を4単位分履修する。

2年次には、論文指導科目の「ドイツ語圏言語文化学論文指導」を4単位分履修する。

3年次には、論文指導科目の「ドイツ語圏言語文化学論文指導」を4単位分履修し、博士論文を完成させる。

〔フランス語圏言語文化学専修〕

1年次に「研究公正B」を含む大学院共通教育科目を履修し、分野専門科目の「フランス語圏言語文化学特殊研究A」「フランス語圏言語文化学特殊研究B」を履修する。加えて、論文指導科目の「フランス語圏言語文化学論文指導」を4単位分履修する。

2年次には、論文指導科目の「フランス語圏言語文化学論文指導」を4単位分履修する。
3年次には、論文指導科目の「フランス語圏言語文化学論文指導」を4単位分履修し、博士論文を完成させる。

〔言語応用学専修〕

1年次に「研究公正B」を含む大学院共通教育科目を履修し、分野専門科目の「言語応用学特殊研究A」「言語応用学特殊研究B」を履修する。加えて、論文指導科目の「言語応用学論文指導」を4単位分履修する。

2年次には、論文指導科目の「言語応用学論文指導」を4単位分履修する。

3年次には、論文指導科目の「言語応用学論文指導」を4単位分履修し、博士論文を完成させる。

【文化構想学専攻】

〔表現文化学専修〕

1年次に「研究公正B」を含む大学院共通教育科目を履修し、分野専門科目の「表現文化学特殊研究A（表現文化学研究動向）」「表現文化学特殊研究B（表現文化学と社会）」を履修する。加えて、論文指導科目の「表現文化学論文指導」を4単位分履修する。

2年次には、論文指導科目の「表現文化学論文指導」を4単位分履修する。

3年次には、論文指導科目の「表現文化学論文指導」を4単位分履修し、博士論文を完成させる。

〔アジア文化学専修〕

1年次に「研究公正B」を含む大学院共通教育科目を履修し、分野専門科目の「アジア文化学特殊研究A（アジア文化学研究動向）」「アジア文化学特殊研究B（アジア文化学と社会）」を履修する。加えて、論文指導科目の「アジア文化学論文指導」を4単位分履修する。

2年次には、論文指導科目の「アジア文化学論文指導」を4単位分履修する。

3年次には、論文指導科目の「アジア文化学論文指導」を4単位分履修し、博士論文を完成させる。

〔文化資源学専修〕

1年次に「研究公正B」を含む大学院共通教育科目を履修し、分野専門科目の「文化資源学特殊研究A（文化資源学研究動向）」「文化資源学特殊研究B（文化資源学研究と社会）」を履修する。加えて、論文指導科目の「文化資源学論文指導」を4単位分履修する。

2年次には、論文指導科目の「文化資源学論文指導」を4単位分履修する。

3年次には、論文指導科目の「文化資源学論文指導」を4単位分履修し、博士論文を完成させる。

イ 履修指導及び研究指導体制

博士前期課程

入学から修了までの履修指導は、おおよそ次のようなスケジュールにしたがって進められる。

- ①入学時：専修単位でのガイダンスで修了までの過程が示されるとともに、指導教員（主担当、副担当）を決定する。学生の研究テーマや問題関心にあわせて主担当を決定した上で、学生および主担当の相談によって副担当を選出する。学生は、主担当、副担当の助言のもとで研究課題や履修科目などを決定する。
- ②1年次：総合研究演習などの時間を使い、適宜研究の進捗状況などを報告させる。教員及び院生との質疑を通して、入学時に構想した自らの修士論文の研究テーマ、研究方法等をより具体化させる。
- ③2年次：1年次に引き続き、指導教員により修士論文完成までの指導をおこなう。適宜専修単位での進捗状況報告会を開催し、教員及び院生との質疑を通して、修士論文の完成度を高めさせる。
- ④修士論文の最終試験：2年次の所定の時期（1月）に修士論文を提出し、修士論文にかんする最終試験（口述試験）を実施する。

※資料 2-1 文学研究科博士前期課程 修了までのスケジュール表

博士後期課程

入学から修了までの履修指導は、おおよそ次のようなスケジュールにしたがって進められる。

- ①1年次：専修単位でのガイダンスで修了までの過程が示されるとともに、指導教員（主担当、副担当）を決定する。学生の研究テーマや問題関心にあわせて主担当を決定した上で、学生および主担当の相談によって副担当を選出する。学生は、主担当、副担当の助言のもとで研究課題や履修科目を決定する。1年次においては理論や文献の調査法などを学ばせるとともに、修士論文の内容を発展させてまとめ、学会での口頭発表や学会誌への投稿に向けて指導する。
- ②2年次：前期開始時に指導教員（主担当）にたいして「博士論文作成計画書」を提出させる。「博士論文作成計画書」の題目および担当指導教員（主担当、副担当）については、博士後期課程教授会において報告される。2年次を通して、先行研究を比較検討し、独自の明確な論点を定め、一貫した方法で作成できるよう指導する。
- ③3年次：論文の構成や論述の組み立てなどについて指導する。
- ④博士論文の提出要件：博士論文提出のためには、既発表論文2篇（うち1篇は査読付き学会誌・専門誌に掲載されたもの）以上の研究実績を有しなければならない。
- ⑤博士論文最終試験：課程博士の場合は3年次（あるいはそれ以降）の12月に学位請求論文を提出し、翌1月から2月にかけて博士論文にかんする最終試験（口述試験）を実施する。なお、最終試験は公開の上で実施される。

※資料 2-2 文学研究科博士後期課程 修了までのスケジュール表

ウ 修了要件

博士前期課程

大学院文学研究科前期博士課程（修士課程）の大学院生は、2年以上在学し、別途定める31単位以上を修得するとともに、学位論文の審査および試験に合格しなければならない。これを満たした者は、修了を認定され、「修士（文学）」の学位が授与される。

（博士前期課程を修了するための単位数）

- ・大学院共通教育科目「研究公正A」1単位（研究倫理に関する全学共通の講義科目であり、全員必修とする）
- ・専攻共通科目（選択必修）4単位以上（ただし、哲学歴史学専攻は2単位以上）（主とする分野（専修）を専攻全体の学問分野の中に位置づけ、研究に広がりを持たせるために2～4単位の履修を義務づけている）
- ・主とする分野（専修）の分野専門科目（選択科目）の18単位以上（ただし、哲学歴史学専攻は20単位以上）（主とする分野（専修）に直結するテーマの科目を18～20単位以上履修することにより、修士論文研究の基礎となる、知識、技能、学問的態度を養う）
- ・主とする分野（専修）の「総合研究演習1」「総合研究演習2」（選択必修）の合計4単位（主とする分野（専修）に対応する4単位の科目を履修することにより、修士論文研究につながる学問的な基礎訓練を受ける）を修得し、
- ・2年次に主とする分野（専修）の「研究指導1」「研修指導2」を合計4単位（主とする分野（専修）に対応する教員から修士論文研究に直結する学問的指導を受ける）の合計31単位以上修得し、かつ、
- ・修士論文の審査及び試験に合格しなければならない。

ただし、分野専門科目（選択科目）の22単位の中に、他専攻の分野専門科目を4単位まで含めることができる。

博士後期課程

大学院文学研究科博士後期課程の大学院生は、3年以上在学し、別途定める16単位以上を修得するとともに、学位論文の審査および試験に合格しなければならない。これを満たした者は、修了を認定され、「博士（文学）」の学位が授与される。

【博士後期課程を修了するための単位数】

- ・大学院共通教育科目「研究公正B」1単位（研究倫理に関する全学共通の講義科目であり、全員必修とする）
- ・当該専門分野の特論科目4単位以上（当該専門分野の研究動向を分析する科目と、その学問分野の研究と社会との関係を考察する計4単位の学修は、自分が追究する博士論文研究の学問的・社会的意義づけを行う上で必要である）
- ・当該専門分野の「論文指導」科目12単位以上（博士論文を、「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に定める「当該専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すもの」にす

るために、12 単位以上に相当する指導が必要である)
の合計 17 単位以上を修得し、かつ、
博士論文の審査及び試験に合格しなければならない。

エ 履修モデル

文学研究科博士前期課程 各分野の履修モデルは資料 3 の通りである。

文学研究科博士後期課程 各分野の履修モデルは資料 4 の通りである。

オ 学位論文審査体制

博士前期課程

修士論文は、研究科教授会において当該専攻の教員から主査 1 名、副査 2 名を審査員として選出した上で審査をおこなう。

修士論文審査については、文学研究科が定める「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に示す手順と評価基準にしたがって実施する。

なお、修士論文の審査基準については、「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」として次のように明文化する。

(1) 修士論文は、当該専門分野における一定の研究成果を示すものでなければならない。

(2) (評価基準) 修士論文は以下の各項目について、当該専門分野における十分な水準を満たさなければならない。

(a) 研究課題（テーマ）の学術的意義

明確な問題意識に基づき、当該専門分野における研究の学術的意義が述べられていること。

- 1 問題意識に基づき、研究課題の学術的意義が述べられている。
- 2 明確な問題意識に基づき、研究課題の学術的意義が述べられている。
- 3 明確な問題意識に基づき、研究課題の深い学術的意義が述べられている。

(b) 研究課題の的確性

研究目的に応じた的確な課題が設定されていること。

- 1 目的に応じた研究課題が設定されている。
- 2 目的に応じたおおむね的確な研究課題が設定されている。
- 3 目的に応じたきわめて的確な研究課題が設定されている。

(c) 研究方法の妥当性

研究を遂行する上で、適切な研究手法がもちいられていること。

- 1 研究を遂行する上で、有効な研究手法がもちいられている。
- 2 研究を遂行する上で、有効かつ吟味された研究手法がもちいられて

いる。

- 3 研究を遂行する上で、十全に有効かつ吟味された研究手法がもちいられている。

(d) 先行研究との関連

当該専門分野における主たる先行研究を踏まえたものであること。

- 1 当該専門分野における主たる先行研究を一定程度踏まえている。
- 2 当該専門分野における主たる先行研究を踏まえている。
- 3 当該専門分野における主たる先行研究を十全に踏まえている。

(e) 資料利用の適切性

論旨を展開するうえで、実験結果、調査結果、文献資料などを適切にもちいていること。

- 1 論旨を展開するうえで、実験結果、調査結果、文献資料などの資料をもちいている。
- 2 論旨を展開するうえで、実験結果、調査結果、文献資料などの資料を適切にもちいている。
- 3 論旨を展開するうえで、実験結果、調査結果、文献資料などの資料の妥当性を吟味し、適切にもちいている。

(f) 論旨の一貫性

論旨が論理的に組み立てられ、一貫して展開されていること。

- 1 論旨に論理的に組み立てられ、展開されている。
- 2 論旨が論理的に組み立てられ、一貫して展開されている。
- 3 論旨が極めて論理的に組み立てられ、一貫して展開されている。

(g) 学術論文としての体裁

表現、表記法などが学術論文として適切であるとともに、当該専門分野の慣例に従ったものであること。

- 1 表現、表記法などが学術論文に倣っている。
- 2 表現、表記法などが学術論文に倣ったものであるとともに、当該専門分野の慣例に従っている。
- 3 表現、表記法などが学術論文として適切であるとともに、当該専門分野の慣例に従っている。

(h) 研究倫理の遵守

研究の目的、遂行過程、成果発表のそれぞれについて、当該専門分野が定める研究上守るべき倫理基準が満たされていること。

- 1 研究の目的、遂行過程、成果発表のそれぞれについて、当該専門分野が定める研究上守るべき倫理基準を満たそうとしている。
- 2 研究の目的、遂行過程、成果発表のそれぞれについて、当該専門分野が定める研究上守るべき倫理基準を一定程度満たしている。

- 3 研究の目的、遂行過程、成果発表のそれぞれについて、当該専門分野が定める研究上守るべき倫理基準を十全に満たしている。

(3) (論文の体裁) 修士論文は、400 字詰原稿用紙に換算して、原則として 100 枚以上の分量がなければならない。

博士後期課程

博士論文は、博士後期課程教授会において博士後期課程教授会員（教授）のうち、当該専修から 2 名、他専修から 1 名、または当該専修から 1 名、他専修から 2 名、または他専修から 3 名という構成からなる計 3 名を、投票によって審査員として選出した上で審査をおこなう。なお論文のテーマによっては、外部審査委員 1 名を審査委員に加えることができる。

博士後期課程教授会は、審査員 3 名の互選によって選出された主査による審査結果の報告に基づき、学位授与の可否を投票によって決定する。

博士論文審査については、文学研究科が定める「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に示す手順と評価基準にしたがって実施する。

なお、課程博士論文の審査基準については、「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」として次のように明文化する。

- (1) 課程博士論文は、当該専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すものでなければならない。

論文博士論文は、当該専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、当該専門分野における主導的研究者としての能力を示すものでなければならない。

- (2) (評価基準) 博士論文は以下の各項目について、当該専門分野における高度な水準を満たさなければならない。

- (a) 研究課題（テーマ）の学術的意義

明確な問題意識に基づき、当該専門分野における研究の学術的意義が述べられていること。

- 1 問題意識に基づき、研究課題の学術的意義が述べられている。
- 2 明確な問題意識に基づき、研究課題の学術的意義が述べられている。
- 3 明確な問題意識に基づき、研究課題の深い学術的意義が述べられている。

- (b) 研究課題の的確性

研究目的に応じた的確な課題が設定されていること。

- 1 目的に応じた研究課題が設定されている。
- 2 目的に応じたおおむね的確な研究課題が設定されている。

3 目的に応じたきわめて的確な研究課題が設定されている。

(c) 研究方法の妥当性

研究を遂行する上で、適切な研究手法がもちいられていること。

- 1 研究を遂行する上で、有効な研究手法がもちいられている。
- 2 研究を遂行する上で、有効かつ吟味された研究手法がもちいられている。
- 3 研究を遂行する上で、十全に有効かつ吟味された研究手法がもちいられている。

(d) 先行研究との関連

当該専門分野における主たる先行研究を踏まえたものであること。

- 1 当該専門分野における主たる先行研究を一定程度踏まえている。
- 2 当該専門分野における主たる先行研究を踏まえている。
- 3 当該専門分野における主たる先行研究を十全に踏まえている。

(e) 資料利用の適切性

論旨を展開するうえで、実験結果、調査結果、文献資料などを適切にもちいていること。

- 1 論旨を展開するうえで、実験結果、調査結果、文献資料などの資料をもちいている。
- 2 論旨を展開するうえで、実験結果、調査結果、文献資料などの資料を適切にもちいている。
- 3 論旨を展開するうえで、実験結果、調査結果、文献資料などの資料の妥当性を吟味し、適切にもちいている。

(f) 論旨の一貫性

論旨が論理的に組み立てられ、一貫して展開されていること。

- 1 論旨に論理的に組み立てられ、展開されている。
- 2 論旨が論理的に組み立てられ、一貫して展開されている。
- 3 論旨が極めて論理的に組み立てられ、一貫して展開されている。

(g) 学術論文としての体裁

表現、表記法などが学術論文として適切であるとともに、当該専門分野の慣例に従ったものであること。

- 1 表現、表記法などが学術論文に倣っている。
- 2 表現、表記法などが学術論文に倣ったものであるとともに、当該専門分野の慣例に従っている。
- 3 表現、表記法などが学術論文として適切であるとともに、当該専門分野の慣例に従っている。

(h) 研究倫理の遵守

研究の目的、遂行過程、成果発表のそれぞれについて、当該専門分野が

定める研究上守るべき倫理基準が満たされていること。

- 1 研究の目的、遂行過程、成果発表のそれぞれについて、当該専門分野が定める研究上守るべき倫理基準を満たそうとしている。
- 2 研究の目的、遂行過程、成果発表のそれぞれについて、当該専門分野が定める研究上守るべき倫理基準を一定程度満たしている。
- 3 研究の目的、遂行過程、成果発表のそれぞれについて、当該専門分野が定める研究上守るべき倫理基準を十全に満たしている。

(3) (論文の体裁) 課程博士論文は、400 字詰原稿用紙に換算して、300 枚から 500 枚程度の分量がなければならない。論文博士論文は、原則として 500 枚以上の分量がなければならない。

(4) (その他) 課程博士論文執筆にあたっては、論文指導教授より十分な指導を受けなければならない。なお各専修において、それぞれの研究分野の学問状況に応じ、上記基本要件以外に追加的な条件を定めることがある。

(付記) 課程博士論文を提出せず単位修得退学する学生は、退学時に 100 枚程度の「博士論文準備報告書」を論文指導教授に提出することとする。その題目及び指導教授の一覧は、博士論文審査会で報告される。ただし、「博士論文準備報告書」を査読付き学会誌・専門誌掲載の論文で代替することができる。

カ 学位論文の公表方法

原則として学位論文の全文をインターネット上で公開する。やむを得ない理由によりインターネット上で公開できない場合は、その旨を記した書類を博士後期課程教授会に提出し、審査を経て承認されれば公開を免除されることがある。

キ 研究の倫理審査体制

博士前期課程においては大学院共通科目の「研究公正 A」を、博士後期課程においては「研究公正 B」を受講することを義務づけており、研究倫理について系統的に学ぶことになっている。また、研究の実施にさいしては、指導教員を中心に、日常的に研究倫理遵守についての指導をおこなうとともに、必要に応じて文学研究科が定める「大阪公立大学大学院文学研究科研究倫理審査委員会内規」にしたがい研究倫理審査を受ける。

※資料 5 大阪公立大学大学院文学研究科研究倫理審査委員会内規

ク 多様なメディアの活用等

該当なし

ケ 他大学における授業科目の履修等

該当なし

7 特定の課題についての研究成果の審査を行う場合

該当なし

8 施設・設備等の整備計画

ア 校地、運動場の整備計画

大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照

イ 校舎等施設の整備計画

教育研究に使用する施設、設備等

文学研究科において教育研究を行う施設、設備については、「大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類」に記載のほか、森之宮キャンパスに新たに建設する新校舎の施設と 大阪市立大学の杉本キャンパスの施設・設備等を継承する次の施設、設備等により実施することから、学生、教員に対して十分な教育研究環境を提供するものである。

1) 講義室・演習室・研究室等

文学研究科では、授業の形態に応じて講義室や演習室等の施設を使用し、専任教員には研究室を割り当て、学部教育と大学院教育を実施する。文学研究科における施設概要は次のとおりである。

【施設概要】

- ・講義室 16 室
- ・演習室 32 室
- ・研究室 71 室
- ・実習室 40 室

各専攻内の専修ごとに 1 室以上の大学院生専用の研究室（名称は「大学院生指導室」等）を指導教員の近くに確保し、専用机・椅子、Wifi 環境、書架等を整備することにより、大学院生が自主的に研究、自習を行うことができる環境を整える。これとは別に、専修ごとに、資料室やゼミ研究会などを行う多目的研究室を各 1 室以上確保している。これらの部屋は、大学院生、学部生、教員の共同利用となるが、実質的に大学院生の利用頻度が高くなる。導線が重なることにより、大学院生、学部生、教員が時間と空間を共有しながら協働して研究することの効果も期待できる。ネットワークプリンタ、スキャナ、複写機等、人文系の研究に欠かせない機器類は、各専修の大学院生専用研究室、資料室、多目的研究室のいずれかに配置し、大学院生が日常的に利用できるようにする。心理学専修等の実験設備、地理学専修等の地理情報処理用高性能コンピュータ等への大学院生のアクセスを確保し、また、各専修における資料室や多目的研究室等には、研究で用いる貴重書や基本図書を常置することにより、大学院生の研究環境を整備する。

2) 実験施設・設備等

文学研究科における実験の授業科目は、30 室ある実験室において実施する。

文学研究科の各専攻における実験施設関連・設備等は次のとおりである。

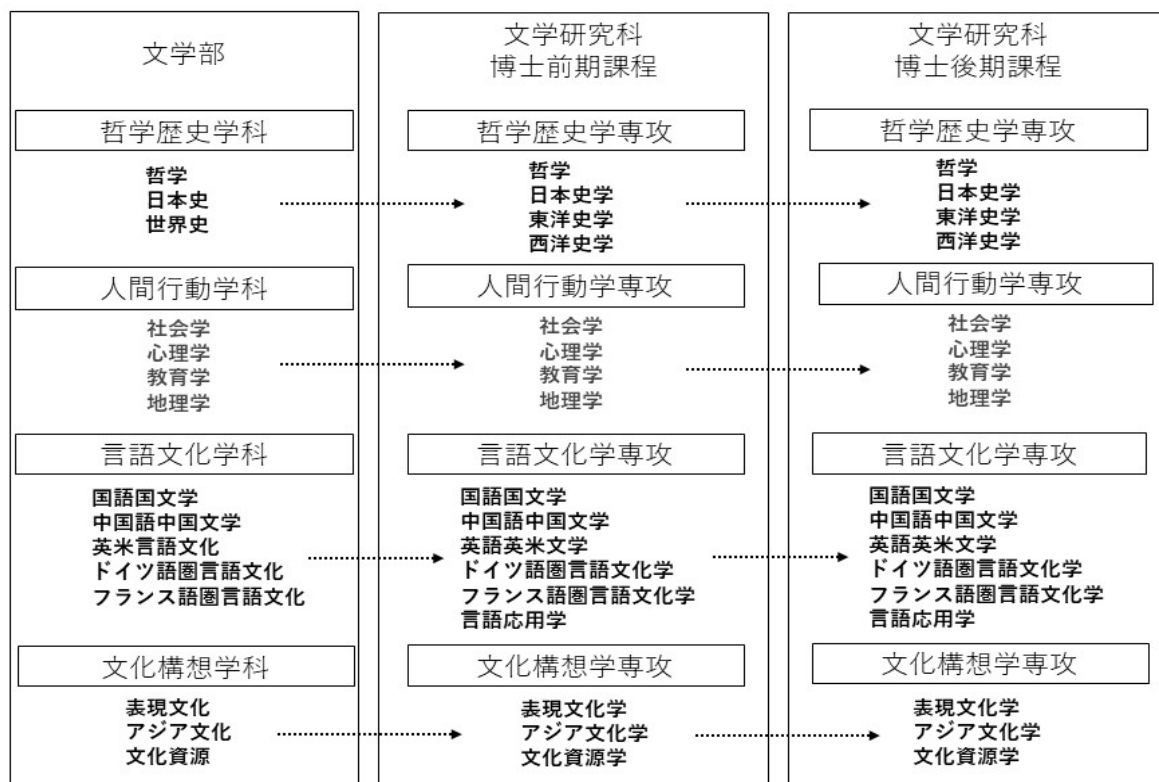
人間行動学専攻 実験室 30 室

(設備等) 心理学汎用実験室 A、心理学汎用実験室 B、心理学汎用実験室 C、心理学汎用実験室 D、心理学汎用実験室 E、心理学汎用実験室 F、心理学汎用実験室 G、心理学汎用実験室 H、認知実験室、行動観察室、モニタ室、心理学音響実験室 1、心理学音響実験室 2、心理検査室、空間実験室、計算機室、行動実験室、動物飼育室、飼育室 A、飼育室 B、洗浄消毒室、器材保管室、生理実験室、工作室、情報処理実験室、実験系共同実験実習室、製図室、地図室、情報処理室、社会調査実験室

※資料 6 大学院生の研究室の見取り図

9 基礎となる学部（又は修士課程）との関係

基礎となる学部（又は博士前期課程、修士課程）との関係図



10 入学者選抜の概要

ア アドミッション・ポリシー

博士前期課程

文学研究科では、専攻ごとに、次のような能力や適性を身につけた学生を求める。

【哲学歴史学専攻】

- ・哲学・歴史学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。

- ・哲学・歴史学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。
- ・哲学・歴史学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。

【人間行動学専攻】

- ・人間行動学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。
- ・人間行動学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。
- ・人間行動学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。

【言語文化学専攻】

- ・言語文化学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。
- ・言語文化学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。
- ・言語文化学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。

【文化構想学専攻】

- ・文化構想学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。
- ・文化構想学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。
- ・文化構想学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。

博士後期課程

文学研究科では、専攻ごとに、次のような能力や適性を身につけた学生を求める。

【哲学歴史学専攻】

- ・哲学・歴史学において最先端の研究課題を探究する意欲と、そのための基礎的な知識と能力を身につけた人。
- ・哲学・歴史学分野における国内外の教育研究組織と連携して国際的、学際的な研究を推進する意欲とそのための資質を身につけた人。

【人間行動学専攻】

- ・人間行動学において最先端の研究課題を探究する意欲と、そのための基礎的な知識と能力を身につけた人。
- ・人間行動学分野における国内外の教育研究組織と連携して国際的、学際的な研究を推進する意欲とそのための資質を身につけた人。

【言語文化学専攻】

- ・言語文化学において最先端の研究課題を探究する意欲と、そのための基礎的な知識と能力を身につけた人。
- ・言語文化学分野における国内外の教育研究組織と連携して国際的、学際的な研究を推進する意欲とそのための資質を身につけた人。

【文化構想学専攻】

- ・文化構想学において最先端の研究課題を探究する意欲と、そのための基礎的な知識と能力を身につけた人。
- ・文化構想学分野における国内外の教育研究組織と連携して国際的、学際的な研究を推進する意欲とそのための資質を身につけた人。

イ 入学者選抜の方法と体制

博士前期課程のディプロマ・ポリシーで求める人文科学や行動科学の分野における先端的知識と方法、独創的研究をみずから行いうる能力、地域の教育に貢献し都市が抱えるさまざまな問題の解決に応えうる高度専門職業人としての能力、生涯学習への意欲をもち人間・社会・文化・言語に対する深い理解を通して国際社会・地域社会においてさまざまな文化的活動を担うことのできる高度教養人としての能力等を身に付けるため、博士前期課程では、そのカリキュラム・ポリシーに基づき、大学院共通教育科目、専門科目、研究指導科目の履修、および修士論文の作成が課されている。博士前期課程では、これらを踏まえた選抜方法を設定する。また、博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーで求める人文科学・行動科学の最先端の研究課題を創造的に探究する高度な研究能力を備えた研究者としての能力、国内外の教育研究組織や機関と連携し人文科学・行動科学の国際的学際的な研究を主導的に推進する研究者としての能力等を身に付けるため、博士後期課程では、そのカリキュラム・ポリシーに基づき、大学院共通教育科目や研究指導科目の履修、および博士論文の作成が課されている。博士前期課程では、これらを踏まえた選抜方法を設定する。

博士前期課程

博士前期課程については、9月および翌年2月（再募集）の2回、入学者選抜を実施する。本研究科のアドミッション・ポリシーを踏まえて、一般選抜、外国人留学生特別選抜、社会人特別選抜を実施し、優れた人材を確保する。

【一般選抜】

募集人数：哲学歴史学専攻 14名
人間行動学専攻 16名

言語文化学専攻 18 名

文化構想学専攻 12 名

筆答試験では外国語の読解力・表現力と専門科目の習得度を、口述試験では提出された卒業論文や研究計画書等の達成度や的確性を確認し、学士課程における成績とあわせて総合的に評価する。

【外国人留学生特別選抜】

募集人数：若干名

日本語の能力証明書では日本語の基礎能力を、筆答試験では外国語の読解力・表現力と専門科目の習得度を、口述試験では提出された卒業論文や研究計画書等の達成度や的確性を確認し、学士課程における成績とあわせて総合的に評価する。

【社会人特別選抜】

募集人数：若干名

筆答試験では、専門科目の習得度を、口述試験では提出された研究計画書の的確性を確認し、総合的に評価する。

博士後期課程

博士後期課程については、2月に1回、入学者選抜を実施する。本研究科のアドミッション・ポリシーを踏まえて、一般選抜、外国人留学生特別選抜、社会人特別選抜を実施し、優れた人材を確保する。

【一般選抜】

募集人数：哲学歴史学専攻 5 名

人間行動学専攻 6 名

言語文化学専攻 6 名

文化構想学専攻 4 名

筆答試験では外国語の読解力・表現力と専門科目の習得度を、口述試験では提出された修士論文及びそれに準じた研究報告書のほか、研究計画書の達成度や的確性を確認し、学士課程・前期博士課程における成績とあわせて総合的に評価する。

【外国人留学生特別選抜】

日本語の能力証明書では日本語の基礎能力を、筆答試験では外国語の読解力・表現力と専門科目の習得度を、口述試験では提出された修士論文及びそれに準じた研究報告書のほか、研究計画書の達成度や的確性を確認し、学士課程・前期博士課程における成績とあわせて総合的に評価する。

【社会人特別選抜】

筆答試験では、専門科目の習得度を、口述試験では提出された研究計画書の的確性を確認し、総合的に評価する。

ウ 多様な学生の受入

働きながら大学院で学びたい方や、社会経験を研究としてまとめてみたい方、あるいはも

う一度なにかを専門的に学んでみたいと考えている方のために、「社会人特別選抜」の制度を設ける。社会人の受け入れにあたっては、博士前期課程・同後期課程とも、入学者選抜において外国語の筆答試験を課さず、研究計画書等や口述試験により、社会経験を生かした学修への意欲や適性を総合的に判断するほか、長期履修制度の活用を可能にし、各院生の条件に応じた学修・研究を可能にするよう配慮する。ただし、本研究科における高度な教育を十全に受けることを前提にした大学院課程であるので、他大学等の既修得単位の認定は行わない。

外国人留学生の受け入れにあたっては、博士前期課程・同後期課程とも、入学者選抜において日本語の基礎能力を多角的・総合的に評価するほか、全学及び研究科が用意する多様な生活上・学修上の支援制度を通じて、スムーズな受け入れが可能となるよう配慮する。ただし、「留学」の在留資格を以て本学に在籍する学生の、退学、除籍、所在不明者、長期欠席者（1か月以上）については、毎月、本学の国際交流担当部署に報告し、国際交流担当部署を通じて文部科学省へ報告する。また、入学時には、経費支弁能力を書面にて確認し、在学中には不法就労がないように、各専修の担当教員が指導にあたる。

その他、正規の学生以外の者の受け入れについては、学則及び大学院学則に定め、それぞれの規程に準じて受け入れを行う場合がある。

1.1 取得可能な資格

【文学研究科各専攻における取得可能な資格】

専攻	取得可能な資格	資格種類	取得可能な資格、 受験資格の別	資格取得を 修了要件と しているか。
哲学歴史学 専攻	中学校教諭専修免許状 (社会)	国家資格	資格取得	していない
	高等学校教諭専修免許状 (地理歴史)	国家資格	資格取得	していない
	高等学校教諭専修免許状 (公民)	国家資格	資格取得	していない
人間行動学 専攻	中学校教諭専修免許状 (社会)	国家資格	資格取得	していない
	高等学校教諭専修免許状 (地理歴史)	国家資格	資格取得	していない
	高等学校教諭専修免許状 (公民)	国家資格	資格取得	していない
	専門社会調査士	民間資格	資格取得 ※社会学専修のみ	していない

言語文化学 専攻	中学校教諭専修免許状 (国語)	国家資格	資格取得	していない
	中学校教諭専修免許状 (外国語(英語))	国家資格	資格取得	していない
	中学校教諭専修免許状 (外国語(中国語))	国家資格	資格取得	していない
	中学校教諭専修免許状 (外国語(ドイツ語))	国家資格	資格取得	していない
	中学校教諭専修免許状 (外国語(フランス語))	国家資格	資格取得	していない
	高等学校教諭専修免許状 (国語)	国家資格	資格取得	していない
	高等学校教諭専修免許状 (外国語(英語))	国家資格	資格取得	していない
	高等学校教諭専修免許状 (外国語(中国語))	国家資格	資格取得	していない
	高等学校教諭専修免許状 (外国語(ドイツ語))	国家資格	資格取得	していない
	高等学校教諭専修免許状 (外国語(フランス語))	国家資格	資格取得	していない

1 2 「大学院設置基準」第 2 条の 2 又は第 14 条による教育方法の実施

該当なし

1 3 2 以上の校地において教育研究を行う場合

該当なし

※資料 7 文学研究科 キャンパスの遷移

1 4 社会人を対象とした大学院教育の一部を本校以外の場所(サテライトキャンパス)で実施する場合

該当なし

1 5 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合

本学では、平常時の面接による授業の実施を原則とするが、大学設置基準第 25 条第 2 項および本学の学則の規定に基づき、多様なメディアを高度に利用し、同時に双方向に行

うことができる遠隔授業を実施できることとしていることから、カリキュラムの改善等により、多様なメディアを利用した授業が必要となった場合は、文部科学省の告示の要件等に基づき、実施するものとする。

1 6 通信教育を行う課程を設ける場合

該当なし

1 7 管理運営

文学研究科の管理運営は、文学研究科が文学部と一体的に担う。次期研究院長の推薦は、「大阪公立大学文学研究院次期研究院長候補者推薦内規」にしたがい、文学研究院会議の意見調査を実施したうえで、その結果を参考にして、研究院長が学長に対して行う。学長によって選考され、理事長によって任命される文学研究院長が、文学研究科長と文学部長を兼務し、管理運営の責任を負う。さらに「大阪公立大学大学院学則」に従い、文学研究科に文学研究科教授会を設置する。文学研究科教授会は「大阪公立大学大学院文学研究科規程」ならびに「大阪公立大学大学院文学研究科教授会会議規則」によって運営される。文学研究科教授会は、文学研究科所属専任教員によって構成され、以下の事項を所管する。

- (1) 研究科長の推薦に関する事
 - (2) 教育研究審議員の選挙に関する事
 - (3) 研究及び教授に関する事
 - (4) 学位の授与に関する事
 - (5) 課程及び専攻に関する事
 - (6) 学生の入学、留学、退学、課程の修了その他学生の身分に関する事
 - (7) 科目等履修生及び研修生に関する事
 - (8) 研究科の内規の制定及び改廃に関する事
 - (9) 学校教育法第 93 条第 3 項に基づき、学長及び研究科長に述べる意見に関する事
- と
- (10) その他研究科における重要事項

文学研究科教授会は、「大阪公立大学大学院文学研究科各種委員および委員会内規」を定め、教務委員会、FD委員会、将来構想委員会、教育の内部質保証委員会などを設置し、文学研究科、文学研究院、文学部および全学にかかわる恒常的業務に携わる。

たとえば、教務委員会は、「大阪公立大学大学院文学研究科・文学部教務委員会内規」にしたがい、以下に掲げる事項を審議し、重要事項については文学研究科教授会に提案あるいは答申する。

- (1) 履修規程に関する事
- (2) 『科目履修の手引き』に関する事

- (3) 全学共通科目との連携に関すること
- (4) 教職課程ほか資格養成に関すること
- (5) シラバスおよび時間割の作成に関すること
- (6) 研究生の受け入れに関すること
- (7) 科目等履修生の受け入れに関すること
- (8) 非常勤講師に関すること
- (9) その他教務に関すること

また、将来構想委員会は「大阪公立大学大学院文学研究科・文学部将来構想委員会内規」にしたがい、博士前期課程ならびに博士後期課程および学士課程に関する次の各号に掲げる事項を審議し、重要事項については文学研究科教授会に提案あるいは答申する。

- (1) 文学研究科・文学部の教育・研究全般についての基本方針・将来構想に関する
こと
- (2) 文学研究科・文学部の教育理念や各ポリシーの構想・制定に関すること
- (3) 文学研究科・文学部の研究・教育についての新制度・事業の設計・企画に関する
こと
- (4) 入試制度の設計及びその実施・運営に関すること
- (5) 各専攻・教室を超え、あるいはその相互にわたり調整を要する事項に関すること
- (6) その他、研究科長が必要と認めた事項

さらに、教育の内部質保証委員会は、「大阪公立大学大学院文学研究科・文学部教育の内部質保証委員会内規」にしたがい、研究科長、副研究科長、教育研究審議員、庶務・予算委員長、教務委員長、学部担当教務委員、FD委員長、将来構想委員会委員長をもって構成され、博士前期課程ならびに博士後期課程および学士課程に関する次の各号に掲げる事項を審議し、重要事項については文学研究科教授会へ答申する。

- (1) 教育の内部質保証に必要な企画・立案に関すること
- (2) 自己評価に関すること
- (3) 文学研究科・文学部の各ポリシーの実質化に向けた取り組みに関すること
- (4) 大学機関別認証評価受審に関すること
- (5) 本委員会の各種取り組みの評価・検証に関すること
- (6) その他教育の内部質保証に関すること

研究科全体のこのような管理運営体制とは別に、文学研究科専任教員は、専修単位で設置される教室会議に所属し、教室員の互選によって選出される教室代表の下、自専修（学部の場合は自コース）所属学生の教育、指導にあたる。

18 自己点検・評価

大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照

19 認証評価

該当なし

20 情報の公表

大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照

21 教育内容等の改善のための組織的な研修等

文学研究科教授会は、「大阪公立大学大学院文学研究科各種委員および委員会内規」を定め、FD委員会を設置し、FD委員会は、「大阪公立大学大学院文学研究科・文学部FD委員会内規」にしたがい、博士前期課程ならびに博士後期課程および学士課程に関する次の各号に掲げる事項を審議・実施し、重要事項については文学研究科教授会に提案あるいは答申する。

- (1) FD 事業全般に関する企画・立案に関すること
- (2) 大学教育授業実習制度の運営に関すること
- (3) FD 研修会の企画・運営に関すること
- (4) 全学および他研究科のFD・SD 事業との連携に関すること
- (5) 本委員会の各種取組みの評価・検証に関すること
- (6) その他のFD に関すること

FD委員会は、全学で行われるFD活動とは別に、1年に2回、文学研究科・文学部教員を対象としたFD研修会を企画・運営する。

大阪公立大学大学院 文学研究科

設置の趣旨等を記載した書類 添付資料

資料 1	定年退職する教員を特例として新大学で勤務する 教員として雇用する場合の取り扱いについて	P. 2
資料 2-1	博士前期課程における修了までのスケジュール表	P. 3
資料 2-2	博士後期課程における修了までのスケジュール表	P. 36
資料 3-1	履修モデル(博士前期課程 哲学歴史学専攻)	P. 82
資料 3-2	履修モデル(博士前期課程 人間行動学専攻)	P. 86
資料 3-3	履修モデル(博士前期課程 言語文化学専攻)	P. 90
資料 3-4	履修モデル(博士前期課程 文化構想学専攻)	P. 96
資料 4-1	履修モデル(博士後期課程 哲学歴史学専攻)	P. 102
資料 4-2	履修モデル(博士後期課程 人間行動学専攻)	P. 106
資料 4-3	履修モデル(博士後期課程 言語文化学専攻)	P. 110
資料 4-4	履修モデル(博士後期課程 文化構想学専攻)	P. 116
資料 5	大阪公立大学大学院文学研究科 研究倫理審査委員会内規(案)	P. 119
資料 6	大学院生の研究室の見取り図	P. 122
資料 7	新大学 新キャンパス整備に伴う校地 (教育実施場所) 遷移について	P. 128
資料 8	カリキュラム・マップ	P. 129

定年退職する教員を特例として新大学で勤務する教員として 雇用する場合の取り扱いについて

令和 2 年 8 月 26 日 理事長決裁

(趣旨)

- 1 この要項は、特例として、新大学の完成年度までに定年退職する教員を雇用する場合の取り扱いについて定める。

(適用対象)

- 2 この要項の適用対象者（以下「本要項適用者」という。）は、新大学の完成年度までに定年退職する教員で、担当する授業科目の特性等から同一専門分野の後任を直ちに確保することが困難である等理事長が特に必要と認める者とする。

(定年退職後雇用する場合の身分等)

- 3 本要項適用者を雇用する場合の身分は特任教員とし、当該本要項適用者が担当する学部・学域・研究科において教育研究を行う。

(任期)

- 4 本要項適用者の任期は、当該本要項適用者が担当する学部・学域・研究科の完成年度までとする。

(その他)

- 5 本要項適用者の任期以外の事項については、本要項の適用を受けない特任教員と同様とする。

附 則

この要項は、令和 2 年 8 月 26 日から施行する。

博士前期課程における修了までのスケジュール表 哲学歴史学専攻（哲学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月	授業開始前の大学院生ガイダンスに参加し、大まかな研究テーマを発表する。 前期の必修科目と分野専門科目を履修登録する。 「研究公正 A」を含む大学院共通科目を履修する。	授業開始前に大学院生全員を集めてガイダンスを行い、各自の大まかな研究テーマを聴取する。 個人ごとに、研究テーマに即して、主担当と副担当の研究指導教員を決定し、研究科教授会にて承認を得る。
	5月	1年次の研究計画書を提出する。 履修科目の学習および計画書に従った研究を進める。	履修科目の指導を行うとともに、研究計画書に従い、研究指導を行う。
	7月	博士後期課程大学院生の博士論文構想・中間発表会に参加し、研究のまとめ方と論文の作成方法を学ぶ。	博士後期課程大学院生の博士論文構想・中間発表会に参加させ、研究のまとめ方と論文の作成方法について指導する。
	9月	2回生の修士論文中間発表会に参加し、研究のまとめ方と論文の作成方法を学ぶ。	2回生の修士論文中間発表会に参加させ、研究のまとめ方、先行研究の扱い方、論文の作成方法について指導する。
	10月	後期の必修科目と分野専門科目を履修登録する。	履修科目の指導を行うとともに、研究計画書に従い、研究指導を行う。
	11月	博士後期課程大学院生の博士論文構想・中間発表会に参加し、研究のまとめ方と論文の作成方法を学ぶ。	博士後期課程大学院生の博士論文構想・中間発表会に参加させ、研究のまとめ方と論文の作成方法について指導する。
2 年 次	4月	授業開始前の大学院生ガイダンスに参加し、修士論文のテーマを発表する。	授業開始前に大学院生全員を集めてガイダンスを行い、修士論文の研究テーマを聴取する。 主担当と副担当の研究指導教員を決定し、研究科教授会にて承認を得る。 研究計画書に従い、研究指導を行う。
	5月	修士論文の研究計画書を提出し、計画書に従って研究を進める。	博士後期課程大学院生の博士論文構想・中間発表会に参加させ、修士論文
	7月	博士後期課程大学院生の博士論文構想・中間発表会に参加し、修士	の仕上げ方についてについて指導する。

	論文の仕上げ方の参考にする。	
9月	修士論文中間発表会に参加し、論文の仕上げ方について指導を受ける。	修士論文中間発表会に参加させ、論文の仕上げ方について指導する。
10月	修士論文の完成に向けて研究を進める。	修士論文の完成に向けて研究指導を行う。
11月	博士後期課程大学院生の博士論文構想・中間発表会に参加し、修士論文の仕上げ方の参考にする。	博士後期課程大学院生の博士論文構想・中間発表会に参加させ、修士論文の仕上げ方について参考にさせる。
1月	修士学位請求論文を提出する。	修士論文審査委員を決定し、研究科教授会にて承認を得る。 「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に基づき、修士論文の審査を行い、審査要旨を研究科教授会に提出し、承認を得る。
2月	修士論文の口述試験を受ける。	修士論文の口述試験を実施し、審査要旨を提出する。
3月	学位授与式にて修士号が授与され、博士前期課程を修了する。	研究科教授会にて修士論文の合否判定を行う。

博士前期課程における修了までのスケジュール表 哲学歴史学専攻（日本史学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月	分野専門科目を履修する。 「研究公正 A」を含む大学院共通科目を履修する。	専修ガイダンスを開催し、研究科、専攻、専修の理念、カリキュラム、履修方法、設備等の利用方法、学情の図書・情報サービス、若手研究者支援諸制度等について説明する。 個人毎に複数の指導教員（主担当・副担当）を決定し、研究科教授会にて承認を得る。
	7月	指導教員のもとで、修士論文の構想などについて個別に指導を受ける。	各担当教員が、学生と個別に相談しつつ、修士論文の構想や研究計画を指導する。
	10月	専攻共通科目を履修する。 分野専門科目を履修する。 大学院共通科目を履修する。	学生が研究を進めるうえで必要な日本史学の専門知識、分析能力を養い、日本史学の諸分野における先行研究の内容や課題について指導する。 修士論文構想発表会に向けて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集等について個別に指導する。
	11月	修士論文構想発表会で発表し、論文執筆の具体的なイメージをつかむ。	具体的な修士論文の構想状況や課題などを示すことにより、論文執筆への意識を高めるよう指導する。
	2月	修士論文中間発表会において、論文のテーマについて報告する。	合同で修士論文のテーマについて確認し、その妥当性等について指導する。
2 年 次	4月	研究指導科目・分野専門科目・共通教育科目を履修する。	研究指導科目の中で、1年次までの学修に基づき、修士論文の研究計画の見直しや執筆計画を指導する。
	7月	指導教員のもとで、修士論文のテーマや取り扱うべき資料などにつ	修士論文最終準備発表会に向けて、担当教員が論文の目的、資料の妥当

		いて個別に指導を受ける。	性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。
10月	研究指導科目・分野専門科目・共通教育科目を履修する。		研究指導科目の中で、草稿をもとに論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。
11月	修士論文最終準備発表会にて中間発表を行う。		<p>合同で論文執筆の進捗を確認し、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。</p> <p>最終準備発表会を踏まえて、担当教員が、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について個別に指導する。</p>
1月	修士論文を提出する。		修士論文審査委員を決定し、研究科教授会にて承認を得る。
2月	修士論文について口述試験を受ける。		「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に基づき、修士論文の審査を行い、審査要旨を研究科教授会に提出し、承認を得る。
3月	学位授与式にて修士号が授与され、博士前期課程を修了する。		研究科教授会にて修士論文の合否判定を行う。

博士前期課程における修了までのスケジュール表 哲学歴史学専攻（東洋史学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月	「東洋史学総合研究1」「東洋史学研究A」、「東洋史学研究B」、「東洋史学研究C」、「東洋史学研究D」、「世界史学研究」を履修する。 「研究公正A」を履修する。	専修ガイダンスを開催し、研究科、専攻、専修の理念、カリキュラム、履修方法、設備等の利用方法、学情の図書・情報サービス、若手研究者支援諸制度等について説明する。 個人毎に指導教員（主担当・副担当）を決定し、研究科教授会にて承認を得る。 修士論文構想発表会に向けて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	7月	修士論文構想発表会にて、論文の構想や研究計画を発表する。	合同で論文の構想や研究計画を指導する。 修士論文構想発表会を踏まえて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	9月	「人間文化学研究B」を履修する。 「東洋史学総合研究2」「東洋史学研究演習A」、「東洋史学研究演習B」、「東洋史学研究演習C」、「東洋史学研究演習D」、「世界史学研究演習」を履修する。 「大学教育基礎演習」を履修する。	学生が研究を進めるうえで必要な東洋史学の専門知識、分析能力を養い、東洋史学の諸分野における先行研究の内容や課題について指導する。 修士論文中間発表会に向けて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。
	11月	修士論文中間発表会にて、中間発表を行う。	合同で研究の進捗を確認し、研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について指導する。 修士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。
2 年 次	4月	「東洋史学研究指導1」を履修する。	研究指導科目の中で、1年次までの学修に基づき、修士論文の研究計画の見直しや執筆計画を指導する。

7月	修士論文中間発表会にて中間発表を行う。	修士論文中間発表会に向けて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。 合同で論文執筆の進捗を確認し、論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について指導する。 修士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。
9月	「東洋史学研究指導2」を履修する。	研究指導科目の中で、草稿をもとに論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。
11月	修士論文中間発表会にて中間発表を行う。	合同で論文執筆の進捗を確認し、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。 修士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について個別に指導する。
1月	修士論文を提出する。	修士論文審査委員を決定し、研究科教授会にて承認を得る。
2月	修士論文について口述試験を受ける。	「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に基づき、修士論文の審査を行い、審査要旨を研究科教授会に提出し、承認を得る。
3月	学位授与式にて修士号が授与され、博士前期課程を修了する。	研究科教授会にて修士論文の合否判定を行う。

博士前期課程における修了までのスケジュール表 哲学歴史学専攻（西洋史学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月	分野専門科目を履修する。 「研究公正 A」を含む大学院共通教育科目を履修する。	専修ガイダンスを開催し、研究科、専攻、専修の理念、カリキュラム、履修方法、設備等の利用方法、学情の図書・情報サービス、若手研究者支援諸制度等について説明する。 大学院生毎に主担当と副担当の指導教員を決定し、研究科教授会にて承認を得る。 大学院生報告会に向けて、主担当の指導教員を中心に論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	6月	大学院生報告会にて、修士論文の構想や研究計画を発表する。	合同で修士論文の構想や研究計画を指導する。 大学院生報告会を踏まえて、主担当の指導教員が修士論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	9月	専攻共通科目を履修する。 分野専門科目を履修する。	学生が研究を進めるうえで必要な西洋史学の専門知識、分析能力を養い、西洋史学の諸分野における先行研究の内容や課題について指導する。 大学院生報告会に向けて、主担当の指導教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、史料収集について個別に指導する。
	10月	大学院生報告会にて、修士論文に向けての中間発表を行う。	合同で研究の進捗を確認し、研究の方向性や研究方法、文献収集、史料収集について指導する。 大学院生報告会での報告を踏まえて、主担当の指導教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、史料収集について個別に指導し、12月の大学院生報告会にて向けて準備を進めさせる。
	12月	大学院生報告会にて、修士論文に	合同で研究の進捗を確認し、研究の

	2月	<p>向けての中間発表を行う。</p> <p>日本史・東洋史・西洋史の博士前期課程の大学院生の合同報告会にて、修士論文に向けての中間発表を行う。</p>	<p>方向性や研究方法、文献収集、史料収集について指導する。</p> <p>大学院生報告会での報告を踏まえて、主担当の指導教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、史料収集について個別に指導する。</p> <p>日本史学専修と東洋史学専修の教員と合同で研究の進捗を確認し、研究の方向性や研究方法、文献収集、史料収集について指導する。</p>
2 年 次	4月	<p>研究指導科目を履修する。</p> <p>分野専門科目を履修する。</p>	<p>研究指導科目の中で、1年次までの学修に基づき、修士論文の研究計画の見直しや執筆計画を指導する。</p> <p>大学院報告会における修士論文中間発表に向けて、主担当の指導教員を中心に論文の目的、史料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。</p>
	6月	<p>大学院生報告会にて修士論文の中間発表を行う。</p>	<p>合同で論文執筆の進捗を確認し、論文の目的、史料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について指導する。</p> <p>中間発表会を踏まえて、主担当の指導教員が論文の目的、史料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。</p>
	9月	<p>研究指導科目を履修する。</p> <p>分野専門科目を履修する。</p>	<p>研究指導科目の中で、草稿をもとに論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。</p>
	10月	<p>大学院生報告会にて修士論文の中間発表を行う。</p>	<p>合同で論文執筆の進捗を確認し、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。</p> <p>中間発表会を踏まえて、主担当の指導教員が、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容に</p>

12月	大学院生報告会にて修士論文の最終構想発表を行う。	<p>ついて個別に指導する。</p> <p>合同で論文執筆の進捗を確認し、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。</p> <p>最終構想発表を踏まえて、主担当の指導教員が、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について個別に指導する。</p>
1月	修士論文を提出する。	修士論文審査委員を決定し、研究科教授会にて承認を得る。
2月	修士論文について口述試験を受ける。	「修士論文ならびに博士論文にかんする文学研究科ガイドライン」に基づき、修士論文の審査を行い、審査要旨を研究科教授会に提出し、承認を得る。
	日本史学専修・東洋史学専修・西洋史学専修の博士前期課程の大学院生の合同報告会にて、修士論文の最終発表を行う。	日本史学専修と東洋史学専修の教員と合同で修士論文の研究成果について検討する。
3月	学位授与式にて修士号が授与され、博士前期課程を修了する。	研究科教授会にて修士論文の合否判定を行う。

博士前期課程における修了までのスケジュール表 人間行動学専攻（社会学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月	<u>研究のための基礎固めと準備</u> 研究分野を決定して、指導教員を選択する。また、指導教員と相談して、副指導教員を選択する。研究倫理教育・コンプライアンス教育の e-learning 教材を受講する。 「研究公正 A」を含む大学院共通科目を履修する。 専攻共通科目の履修 分野専門科目の履修	以後、副指導教員と協力して、修士論文の執筆に向けて、研究指導を行う。 学生に対し、履修すべき科目を履修指導する。 2年間の研究指導計画を作成する。 分野専門科目の中で、学生が研究を進めるうえで必要な専門知識、データの収集・分析方法、研究分野における先行研究の内容や課題について指導する。
	9月	専攻共通科目の履修 分野専門科目の履修	
2 年 次	4月	<u>論文の目的、テーマ等を設定し、構想を固める</u> 研究指導 1 の履修	研究指導 1 の中で、修士論文として取り組む研究テーマを設定し、テーマに沿った文献や調査によるデータ収集、分析について指導する。
	7月	中間報告を行なう	
	9月	研究指導 2 の履修 <u>修士論文の作成</u>	研究指導 2 の中で、修士論文の完成、最終審査に向けて、問題意識、論理構成、結論の整合性・妥当性について検討し、指導する。
	11月	中間報告を行なう	
	1月	修士論文を提出	
	2月	修士論文の最終審査を行なう	
3月	博士前期課程の修了および学位授与		学位審査委員から指摘された問題点の解決方法について指導する。

博士前期課程における修了までのスケジュール表 人間行動学専攻（心理学専修）

		大学院生	指導教員
1 年 次	4月	専攻共通科目を履修する。 分野専門科目を履修する。 「研究公正 A」を含む大学院共通科目を履修する。	専修ガイダンスを開催し、研究科、専攻、専修の理念、カリキュラム、履修方法、設備等の利用方法、学術情報センターの図書・情報サービス、若手研究者支援諸制度等について説明する。 個人毎に指導教員（主担当・副担当）を決定し、研究科教授会にて承認を得る。 修士論文構想発表会に向けて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	7月	修士論文構想発表会にて、論文の構想や研究計画を発表する。	合同で論文の構想や研究計画を指導する。 修士論文構想発表会を踏まえて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	9月	専攻共通科目を履修する。 分野専門科目を履修する。 大学院共通科目を履修する。	大学院生が研究を進めるうえで必要な心理学の専門知識、分析能力を養い、心理学の諸分野における先行研究の内容や課題について指導する。 修士論文中間発表会に向けて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。
	11月	修士論文中間発表にて、中間発表を行う。	合同で研究の進捗を確認し、研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について指導する。 修士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。

2 年 次	4月	研究指導科目を履修する。	研究指導科目の中で、1年次までの学修に基づき、修士論文の研究計画の見直しや執筆計画を指導する。 修士論文中間発表会に向けて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。
	7月	修士論文中間発表会にて中間発表を行う。	合同で論文執筆の進捗を確認し、論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について指導する。 修士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。
	9月	研究指導科目を履修する。	研究指導科目の中で、草稿をもとに論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。
	11月	修士論文中間発表会にて中間発表を行う。	合同で論文執筆の進捗を確認し、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。 修士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について個別に指導する。
	1月	修士論文を提出する。	修士論文審査委員を決定し、研究科教授会にて承認を得る。
	2月	修士論文について口述試験を受ける。	「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に基づき、修士論文の審査を行い、審査要旨を研究科教授会に提出し、承認を得る。
	3月	学位授与式にて修士号が授与され、博士前期課程を修了する。	研究科教授会にて修士論文の合否判定を行う。

博士前期課程における修了までのスケジュール表 人間行動学専攻（教育学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月	専攻共通科目を履修する。 「教育学基礎問題研究」をはじめとする分野専門科目を履修する。 「研究公正 A」を含む大学院共通科目を履修する。	専修ガイダンスを開催し、研究科、専攻、専修の理念、カリキュラム、履修方法、設備等の利用方法、学情の図書・情報サービス、若手研究者支援諸制度等について説明する。 個人毎に指導教員（主担当・副担当）を決定し、研究科教授会にて承認を得る。 修士論文構想発表会に向けて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。 合同で論文の構想や研究計画を指導する。
	7月	修士論文構想発表会にて、論文の構想や研究計画を発表する。	修士論文構想発表会を踏まえて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	9月	「人間行動学研究C」を履修する。 「教育学基礎問題研究演習」をはじめとする分野専門科目を履修する。 大学院共通科目を履修する。	学生が研究を進めるうえで必要な教育学の専門知識、分析能力を養い、教育学の諸分野における先行研究の内容や課題について指導する。 修士論文中間発表会に向けて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。 合同で研究の進捗を確認し、研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について指導する。
	11月	修士論文中間発表にて、中間発表を行う。	修士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。

2 年 次	4月	「教育学研究指導 1」を履修する。	研究指導科目の中で、1年次までの学修に基づき、修士論文の研究計画の見直しや執筆計画を指導する。 修士論文中間発表会に向けて、担当教員が論文の目的、先行研究の整理、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。
	7月	修士論文中間発表会にて中間発表を行う。	合同で論文執筆の進捗を確認し、論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について指導する。 修士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。
	9月	「教育学研究指導 2」を履修する。	研究指導科目の中で、草稿をもとに論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。
	11月	修士論文中間発表会にて中間発表を行う。	合同で論文執筆の進捗を確認し、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。 修士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について個別に指導する。
	1月	修士論文を提出する。	修士論文審査委員を決定し、研究科教授会にて承認を得る。
	2月	修士論文について口述試験を受ける。	「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に基づき、修士論文の審査を行い、審査要旨を研究科教授会に提出し、承認を得る。
	3月	博士前期課程の修了、学位授与。	

博士前期課程における修了までのスケジュール表 人間行動学専攻（地理学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月	専攻共通科目を履修する。 分野専門科目を履修する。 「研究公正 A」を含む大学院共通科目を履修する。	専修ガイダンスを開催し、研究科、専攻、専修の理念、カリキュラム、履修方法、設備等の利用方法、学情の図書・情報サービス、若手研究者支援諸制度等について説明する。 個人毎に複数の指導教員を決定し、研究科教授会にて承認を得る。 修士論文構想発表会に向けて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	5月	修士論文構想発表会にて、論文の構想や研究計画を発表する。	合同で論文の構想や研究計画を指導する。 構想発表会を踏まえて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	10月	専攻共通科目を履修する。 分野専門科目を履修する。 大学院共通科目を履修する。	学生が研究を進めるうえで必要な地理学の専門知識、分析能力を養い、地理学の諸分野における先行研究の内容や課題について指導する。 修論の中間発表に向けて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。
	11月	大学院合同演習にて、修士論文の中間発表を行う。	合同で研究の進捗を確認し、研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について指導する。 中間発表を踏まえて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。
	3月	研究の進捗状況、今後の計画をまとめ、約 10,000 字の「修士論文計画書」を作成する。	修士論文計画書を専修の全教員が読み、コメントを返すことで、2 年次の研究計画立案をサポートする。

2 年 次	4月	研究指導科目を履修する。	研究指導科目の中で、1年次までの学修に基づき、修士論文の研究計画の見直しや執筆計画を指導する。 修士論文中間発表会に向けて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。
	7月	大学院合同演習にて、修論の中間発表を行う。	合同で論文執筆の進捗を確認し、論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について指導する。 中間発表会を踏まえて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。
	10月	研究指導科目を履修する。	研究指導科目の中で、草稿をもとに論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。
	11月	大学院合同演習にて、修論の中間発表を行う。	合同で論文執筆の進捗を確認し、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。 中間発表会を踏まえて、担当教員が、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について個別に指導する。
	1月	修士論文を提出する。	修士論文審査委員を決定し、研究科教授会にて承認を得る。
	2月	修士論文について口述試験を受ける。	「修士論文ならびに博士論文にかんする文学研究科ガイドライン」に基づき、修士論文の審査を行い、審査要旨を研究科教授会に提出し、承認を得る。
	3月	学位授与式にて修士号が授与され、博士前期課程を修了する。	研究科教授会にて修士論文の合否判定を行う。

博士前期課程における修了までのスケジュール表 言語文化学専攻（国語国文学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月	専攻共通科目を履修する。 分野専門科目を履修する。 大学院共通科目を履修する。	専修ガイダンスを開催し、カリキュラム、履修方法、共同研究室や図書館の利用方法、若手研究者支援諸制度等について説明する。 個人毎に複数の指導教員を決定し、研究科教授会にて承認を得る。
	10月	専攻共通科目を履修する。 分野専門科目を履修する。	前期・後期を通じて、各授業科目の中で、国語国文学の専門知識や分析方法について指導する。 前期・後期を通じて、国語国文学総合研究演習 1・2 の中などで、担当教員が当該分野の研究の現状と課題、学生本人の研究の方向性について指導する。
2 年 次	4月	研究指導科目を履修する。	国語国文学研究指導 1 の中などで、担当教員が研究の構想や具体的な研究方法について指導する。
	10月	研究指導科目を履修する	国語国文学研究指導 2 の中などで、担当教員が研究の具体的な進め方について指導する。
	11月	修士論文中間発表会で発表を行う。	中間発表会の発表や論文草稿をもとに、論旨の展開や結論の妥当性、文章表現などについて指導する。
	1月	修士論文を提出する。	修士論文審査委員を決定し、研究科教授会で承認を得る。
	2月	修士論文について口述試験を受ける。	修士論文の審査を行い、審査要旨を研究科教授会に提出し、承認を得る。
	3月	学位授与式にて修士号が授与され、博士前期課程を修了する。	研究科教授会にて修士論文の合否判定を行う。

博士前期課程における修了までのスケジュール表 言語文化学専攻（中国語中国文学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月	専攻共通科目を履修する。 分野専門科目を履修する。 「研究公正 A」を含む大学院共通科目を履修する。	専修ガイダンスを開催し、研究科、専攻、専修の理念、カリキュラム、履修方法、設備等の利用方法、学情の図書・情報サービス、若手研究者支援諸制度等について説明する。 個人毎に指導教員（主担当・副担当）を決定し、研究科教授会にて承認を得る。 修士論文構想発表会に向けて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	7月	修士論文構想発表会にて、論文の構想や研究計画を発表する。	合同で修士論文の構想や研究計画を指導する。 修士論文構想発表会を踏まえて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	9月	専攻共通科目を履修する。 分野専門科目を履修する。 大学院共通科目を履修する。	学生が研究を進めるうえで必要な中国語中国文学の専門知識、分析能力を養い、中国語中国文学の諸分野における先行研究の内容や課題について指導する。 修士論文中間発表会に向けて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。
	11月	修士論文中間発表にて、中間発表を行う。	合同で研究の進捗を確認し、研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について指導する。 修士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。

2 年 次	4月	研究指導科目を履修する。	研究指導科目の中で、1年次までの学修に基づき、修士論文の研究計画の見直しや執筆計画を指導する。 修士論文中間発表会に向けて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。
	7月	修士論文中間発表会にて中間発表を行う。	合同で論文執筆の進捗を確認し、論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について指導する。 修士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。
	9月	研究指導科目を履修する。	研究指導科目の中で、草稿をもとに論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。
	11月	修士論文中間発表会にて中間発表を行う。	合同で論文執筆の進捗を確認し、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。 修士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について個別に指導する。
	1月	修士論文を提出する。	修士論文審査委員を決定し、研究科教授会にて承認を得る。
	2月	修士論文について口述試験を受ける。	「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に基づき、修士論文の審査を行い、審査要旨を研究科教授会に提出し、承認を得る。
	3月	学位授与式にて修士号が授与され、博士前期課程を修了する。	研究科教授会にて修士論文の合否判定を行う。

博士前期課程における修了までのスケジュール表 言語文化学専攻（英語英米文学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月	専攻共通科目を履修する。 分野専門科目を履修する。 「研究公正 A」を含む大学院共通科目を履修する。	専修ガイダンスを開催し、研究科、専攻、専修の理念、カリキュラム、履修方法、設備等の利用方法、学情の図書・情報サービス、若手研究者支援諸制度等について説明する。 個人毎に指導教員（主担当・副担当）を決定し、研究科教授会にて承認を得る。 修士論文構想発表会に向けて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	7月	修士論文構想発表会にて、論文の構想や研究計画を発表する。 テキストの精読を始める。	合同で論文の構想や研究計画を指導する。 修士論文構想に関して、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	9月	専攻共通科目を履修する。 分野専門科目を履修する。 大学院共通科目を履修する。	学生が研究を進めるうえで必要な英米文学や英語学の専門知識、分析能力を養い、英米文学や英語学の諸分野における先行研究の内容や課題について指導する。 修士論文中間発表会に向けて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。
	11月	修士論文中間発表にて、中間発表を行う。	合同で研究の進捗を確認し、研究の方向性や研究方法、文献収集、文学テキスト精読、分析データ収集について指導する。 修士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、文学テキスト精読、分析データ収集について個別に指導する。

2 年 次	4月	研究指導科目を履修する。	研究指導科目の中で、1年次までの学修に基づき、修士論文の研究計画の見直しや執筆計画を指導する。 修士論文中間発表会に向けて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。
	7月	修士論文中間発表会にて中間発表を行う。	合同で論文執筆の進捗を確認し、論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について指導する。 修士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。
	9月	研究指導科目を履修する。	研究指導科目の中で、草稿をもとに論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。
	11月	修士論文中間発表会にて中間発表を行う。	合同で論文執筆の進捗を確認し、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。 修士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について個別に指導する。
	1月	修士論文を提出する。	修士論文審査委員を決定し、研究科教授会にて承認を得る。
	2月	修士論文について口述試験を受ける。	「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に基づき、修士論文の審査を行い、審査要旨を研究科教授会に提出し、承認を得る。
	3月	学位授与式にて修士号が授与され、博士前期課程を修了する。	研究科教授会にて修士論文の合否判定を行う。

博士前期課程における修了までのスケジュール表
言語文化学専攻（ドイツ語圏言語文化学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月	専攻共通科目を履修する。 分野専門科目を履修する。 「研究公正 A」を含む大学院共通科目を履修する。	専修ガイダンスを開催し、研究科、専攻、専修の理念、カリキュラム、履修方法、設備等の利用方法、学情の図書・情報サービス、若手研究者支援諸制度等について説明する。 個人毎に指導教員（主担当・副担当）を決定し、研究科教授会にて承認を得る。 修士論文中間発表会に向けて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	7月	修士論文中間発表会にて、論文の構想や研究計画を発表する。	合同で論文の構想や研究計画を指導する。 修士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	9月	専攻共通科目を履修する。 分野専門科目を履修する。 大学院共通科目を履修する。	学生が研究を進めるうえで必要なドイツ語圏言語文化学の専門知識、分析能力を養い、ドイツ語圏言語文化学の諸分野における先行研究の内容や課題について指導する。 修士論文中間発表会に向けて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。
	11月	修士論文中間発表会にて、中間発表を行う。	合同で研究の進捗を確認し、研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について指導する。 修士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。
2	4月	研究指導科目を履修する。	研究指導科目の中で、1年次までの学

年次	7月	修士論文中間発表会にて中間発表を行う。	修に基づき、修士論文の研究計画の見直しや執筆計画を指導する。 修士論文中間発表会に向けて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。
	9月	研究指導科目を履修する。	合同で論文執筆の進捗を確認し、論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について指導する。 修士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。
	11月	修士論文中間発表会にて中間発表を行う。	研究指導科目の中で、草稿をもとに論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。 合同で論文執筆の進捗を確認し、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。
	1月	修士論文を提出する。	修士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について個別に指導する。
	2月	修士論文について口述試験を受ける。	修士論文審査委員を決定し、研究科教授会にて承認を得る。
	3月	学位授与式にて修士号が授与され、博士前期課程を修了する。	「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に基づき、修士論文の審査を行い、審査要旨を研究科教授会に提出し、承認を得る。
			研究科教授会にて修士論文の合否判定を行う。

博士前期課程における修了までのスケジュール表
言語文化学専攻（フランス語圏言語文化学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月	専攻共通科目を履修する。 分野専門科目を履修する。 「研究公正 A」を含む大学院共通科目を履修する。	専修ガイダンスを開催し、研究科、専攻、専修の理念、カリキュラム、履修方法、設備等の利用方法、学情の図書・情報サービス、若手研究者支援諸制度等について説明する。 個人毎に指導教員（主担当・副担当）を決定し、研究科教授会にて承認を得る。 修士論文中間発表会に向けて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	7月	修士論文中間発表会にて、論文の構想や研究計画を発表する。	合同で論文の構想や研究計画を指導する。 修士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	9月	専攻共通科目を履修する。 分野専門科目を履修する。 大学院共通科目を履修する。	学生が研究を進めるうえで必要な圏フランス語圏言語文化学の専門知識、分析能力を養い、フランス語圏言語文化学の諸分野における先行研究の内容や課題について指導する。 修士論文中間発表会に向けて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。
	11月	修士論文中間発表会にて、中間発表を行う。	合同で研究の進捗を確認し、研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について指導する。 修士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。

2 年 次	4月	研究指導科目を履修する。	研究指導科目の中で、1年次までの学修に基づき、修士論文の研究計画の見直しや執筆計画を指導する。
	7月	修士論文中間発表会にて中間発表を行う。	修士論文中間発表会に向けて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。 合同で論文執筆の進捗を確認し、論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について指導する。
	9月	研究指導科目を履修する。	修士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。
	11月	修士論文中間発表会にて中間発表を行う。	研究指導科目の中で、草稿をもとに論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。 合同で論文執筆の進捗を確認し、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。
	1月	修士論文を提出する。	修士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について個別に指導する。
	2月	修士論文について口述試験を受ける。	修士論文審査委員を決定し、研究科教授会にて承認を得る。
	3月	学位授与式にて修士号が授与され、博士前期課程を修了する。	「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に基づき、修士論文の審査を行い、審査要旨を研究科教授会に提出し、承認を得る。

博士前期課程における修了までのスケジュール表 言語文化学専攻（言語応用学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月	「研究公正 A」を含む大学院共通教育科目を履修する。 専攻共通科目を履修する。 分野専門科目「言語応用学研究 A B C D」を履修する。 毎月、研究の進捗状況を報告する。	専修ガイダンスを開催し、研究科、専攻、専修の理念、カリキュラム、履修方法、言語応用学教室内の設備等の利用方法、学術情報総合センターの図書・情報サービス、若手研究者支援諸制度等について説明する。 個人毎に指導教員（主担当・副担当）を決定し、研究科教授会にて承認を得る。各担当教員は論文の構想や方向性、研究計画・方法論を個別に指導する。
	7月	前期の履修状況に応じて、修士論文の構想の方向性に対して、主に担当教員と共に再検討する。	11月の言語情報学会での修士論文構想中間発表会に向けて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。担当教員以外の教室教員はオフィスアワー内で随時、論文の構想や研究計画を指導する。
	9月	大学院・専攻共通科目を履修する。 分野専門科目「言語応用学研究演習 A B C D」を履修する。	学生が研究を進めるうえで必要な言語学の専門知識および分析能力を教授し、言語応用学の諸分野における先行研究の内容や課題について指導する。 修士論文中間発表会に向けて、主に担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。
	11月	言語情報学会にて、修士論文の構想や研究計画の進捗状況について、中間発表を行う。	修士論文構想中間発表会の成果を踏まえて、引き続き主に担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。他の教室教員も合同で研究の進捗を確認し、研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について指導する。
2	4月	「言語応用学研究指導 1」を履修	研究指導科目の中で、1年次までの学

年次		する。 毎月、研究の進捗状況を報告する。	修に基づき、修士論文の研究計画の見直しや執筆計画を指導する。
	7月	前期の履修状況に応じて、修士論文の執筆計画の方向性を主に担当教員と共に再検討する。	2年次の修士論文中間発表会に向けて、主に担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。 各担当教員は論文の構想や方向性、研究計画・方法論を個別に指導する。 他の教室教員も合同で論文執筆の進捗を確認し、論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について指導する。
	9月	「言語応用学研究指導2」を履修する。	研究指導科目の中で、草稿をもとに論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。
	11月	言語情報学会にて、修士論文執筆の進捗状況について、最終段階の報告を行う。	教室教員が合同で論文執筆の進捗を確認し、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。2年次の修士論文中間発表会を踏まえて、主に担当教員が、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について個別に指導する。
	1月	修士論文を提出する。	修士論文審査委員を決定し、研究科教授会にて承認を得る。
	2月	修士論文について口述試験を受ける。	修士論文の審査を行い、審査要旨を研究科教授会に提出する。 研究科教授会にて審議・承認を得る。
	3月	学位が授与される。	学長が学位を授与する。

博士前期課程における修了までのスケジュール表 文化構想学専攻（表現文化学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月	専攻共通科目を履修する。 分野専門科目を履修する。 「研究公正 A」を含む大学院共通科目を履修する。	専修ガイダンスを開催し、研究科、専攻、専修の理念、カリキュラム、履修方法、設備等の利用方法、学情の図書・情報サービス、若手研究者支援諸制度等について説明する。 個人毎に複数の指導教員を決定し、研究科教授会にて承認を得る。 修士論文構想発表会に向けて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	7月	修士論文構想発表会にて、論文の構想や研究計画を発表する。	合同で論文の構想や研究計画を指導する。 構想発表会を踏まえて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	9月	専攻共通科目を履修する。 分野専門科目を履修する。 大学院共通科目を履修する。	学生が研究を進めるうえで必要な表現文化学の専門知識、分析能力を養い、表現文化学の諸分野における先行研究の内容や課題について指導する。 修論中間発表会に向けて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。
	11月	修士論文中間発表にて、中間発表を行う。	合同で研究の進捗を確認し、研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について指導する。 中間発表会を踏まえて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。
2 年 次	4月	研究指導科目を履修する。	研究指導科目の中で、1年次までの学修に基づき、修士論文の研究計画の見直しや執筆計画を指導する。

7月	修士論文中間発表会にて中間発表を行う。	修士論文中間発表会に向けて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。 合同で論文執筆の進捗を確認し、論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について指導する。 中間発表会を踏まえて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。
9月	研究指導科目を履修する。	研究指導科目の中で、草稿をもとに論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。
11月	修士論文中間発表会にて中間発表を行う。	合同で論文執筆の進捗を確認し、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。 中間発表会を踏まえて、担当教員が、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について個別に指導する。
1月	修士論文を提出する。	修士論文審査委員を決定し、研究科教授会にて承認を得る。
2月	修士論文について口述試験を受ける。	「修士論文ならびに博士論文にかんする文学研究科ガイドライン」に基づき、修士論文の審査を行い、審査要旨を研究科教授会に提出し、承認を得る。
3月	学位授与式にて修士号が授与され、博士前期課程を修了する。	研究科教授会にて修士論文の合否判定を行う。

博士前期課程における修了までのスケジュール表 文化構想学専攻（アジア文化学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻共通科目を履修する。 ・分野専門科目を履修する。 ・「研究公正 A」を含む大学院共通科目を履修する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専修ガイダンスを開催し、研究科、専攻、専修の理念、カリキュラム、履修方法、設備等の利用方法、学情の図書・情報サービス、若手研究者支援諸制度等について説明する。 ・院生ごとに指導教員（主担当・副担当）を決定し、研究科教授会にて承認を得る。 ・修士論文構想発表会に向けて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	7月	<ul style="list-style-type: none"> ・修士論文構想発表会にて、論文の構想や研究計画を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専修教員合同で論文の構想や研究計画を指導する。 ・修士論文構想発表会を踏まえて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	0月	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻共通科目を履修する。 ・分野専門科目を履修する。 ・大学院共通科目を履修する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が研究を進めるうえで必要なアジア文化学の専門知識、分析能力を養い、アジア文化学の諸分野における先行研究の内容や課題について指導する。 ・修士論文中間発表会に向けて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・修士論文中間発表会（第1回）にて、中間発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専修教員合同で研究の進捗を確認し、研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について指導する。 ・修士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。
2	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導科目を履修する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導科目の中で、1年次までの

年次		・分野専門科目を履修する。	学修に基づき、修士論文の研究計画の見直しや執筆計画を指導する。
	7月	・修士論文中間発表会（第2回）にて中間発表を行う。	・修士論文中間発表会に向けて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。
	10月	・研究指導科目を履修する。	・専修教員合同で論文執筆の進捗を確認し、論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について指導する。 ・修士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。
	11月	・修士論文中間発表会（第3回）にて中間発表を行う。	・研究指導科目の中で、草稿をもとに論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。
	1月	・修士論文を提出する。	・専修教員合同で論文執筆の進捗を確認し、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。 ・修士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について個別に指導する。
	2月	・修士論文について口述試験を受ける。	・修士論文審査委員を決定し、研究科教授会にて承認を得る。
	3月	学位授与式にて修士号が授与され、博士前期課程を修了する。	・「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に基づき、修士論文の審査を行い、審査要旨を研究科教授会に提出し、承認を得る。 研究科教授会にて修士論文の合否判定を行う。

博士前期課程における修了までのスケジュール表 文化構想学専攻（文化資源学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月	専攻共通科目を履修する。 分野専門科目を履修する。 「研究公正 A」を含む大学院共通科目を履修する。	専修ガイダンスを開催し、研究科、専攻、専修の理念、カリキュラム、履修方法、設備等の利用方法、学情の図書・情報サービス、若手研究者支援諸制度等について説明する。 個人毎に複数の指導教員を決定し、研究科教授会にて承認を得る。 修士論文構想発表会に向けて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	7月	専修の合同ゼミナールにて、論文の構想や研究計画を発表する。	合同で論文の構想や研究計画を指導する。 構想発表会を踏まえて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	9月	専攻共通科目を履修する。 分野専門科目を履修する。 大学院共通科目を履修する。	学生が研究を進めるうえで必要な文化資源学の専門知識、分析能力を養い、文化資源学諸分野における先行研究の内容や課題について指導する。 合同ゼミナールに向けて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。
	11月	修士論文中間発表にて、中間発表を行う。	合同で研究の進捗を確認し、研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について指導する。 中間発表会を踏まえて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。

2 年 次	4月	研究指導科目を履修する。 分野専門科目を履修する。 大学院共通科目を履修する。	研究指導科目の中で、1年次までの学修に基づき、修士論文の研究計画の見直しや執筆計画を指導する。 修士論文中間発表会に向けて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。
	7月	専修の合同ゼミナールにて修士論文の中間発表を行う。	合同で論文執筆の進捗を確認し、論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について指導する。 合同ゼミナールの成果を踏まえて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。
	9月	研究指導科目を履修する。	研究指導科目の中で、草稿をもとに論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。
	11月	専修の合同ゼミナールにて修士論文の中間発表を行う。	合同で論文執筆の進捗を確認し、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。 合同ゼミナールの成果を踏まえて、担当教員が、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について個別に指導する。
	1月	修士論文を提出する。	修士論文審査委員を決定し、研究科教授会にて承認を得る。
	2月	修士論文について口述試験を受ける。	「修士論文ならびに博士論文にかんする文学研究科ガイドライン」に基づき、修士論文の審査を行い、審査要旨を研究科教授会に提出し、承認を得る。
	3月	学位授与式にて修士号が授与され、博士前期課程を修了する。	研究科教授会にて修士論文の合否判定を行う。

博士後期課程における修了までのスケジュール表 哲学歴史学専攻（哲学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月	<p>授業開始前の大学院生ガイダンスに参加し、研究テーマの概要を発表する。</p> <p>「研究公正 B」を含む大学院共通科目を履修する。</p> <p>分野専門科目を履修する。</p> <p>論文指導科目（通年）を履修する。</p> <p>研究計画（長～中期）を立て、指導教員の指導のもとで研究を進める。</p>	<p>専修ガイダンスを開催し、研究科、専攻、専修の理念、カリキュラム、履修方法、設備等の利用方法、学情の図書・情報サービス、若手研究者支援諸制度等について説明する。</p> <p>本研究科『博士論文作成ハンドブック』や「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」を用いて、博士論文の要件、論文提出までに提出が必要な書類などについて説明する。</p> <p>加えて哲学専修が定める追加的条件について説明する。</p> <p>個人毎に指導教員（主担当・副担当）を決定し、後期博士課程教授会にて承認を得る。</p> <p>博士論文構想発表会に向けて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。</p>
	7月	<p>博士論文構想発表会において、論文の構想や研究計画を発表する。</p> <p>発表に対する教員からの指導を受けて、当該年度の研究計画を決定し、それに従って、必要な文献資料を収集しながら研究計画を具体的に実行する。</p>	<p>指導教員が中心となって論文の構想や研究計画を指導する。</p> <p>博士論文構想発表会を踏まえて、指導教員が研究の方向性や研究方法、文献収集などについて個別に指導する。</p>
	9月	<p>分野専門科目を履修する。</p> <p>学会発表・論文投稿の計画を立てる。</p>	<p>指導教員が学会口頭発表や学会紀要等への論文投稿の計画についての指導を個別に行う。</p>
	11月	<p>博士論文構想発表会において、論文の構想や研究計画を発表する。</p> <p>発表に対する教員からの指導を受けて、必要な文献資料を収集しながら研究計画をさらに具体的に進める。</p>	<p>指導教員が中心となって論文の構想や研究計画を指導する。</p> <p>博士論文構想発表会を踏まえて、指導教員が研究の方向性や研究方法、文献収集などについて個別に指導する。</p>

2 年 次	4月	授業開始前の大学院生ガイダンスに参加し、研究テーマとこれまでの研究成果の概要を発表する。 論文指導科目（通年）を履修する。 研究計画を見直し、「博士論文作成計画書」を提出する。 当年の研究課題を決定する。	1年次までの学修に基づき、博士論文の研究計画の見直しや学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。 博士論文中間発表会に向けて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。
	7月	博士論文中間発表会において、論文の中間草稿を発表する。 発表に対する教員からの指導を受けて、必要な文献資料を収集・検討し、それに基づいて論文の具体的構成を進める。	指導教員が中心となって論文の中間草稿や研究計画を指導する。 博士論文中間発表会を踏まえて、指導教員が研究の方向性や研究方法、文献収集などについて個別に指導する。
	9月	学会で口頭発表する。 学会紀要等に論文を投稿する。	学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。
	11月	博士論文中間発表会において、論文の中間草稿を発表する。 発表に対する教員からの指導を受けて、必要な文献資料を収集・検討し、それに基づいて論文の具体的構成を進める。	指導教員が中心となって論文の中間草稿や研究計画を指導する。 博士論文中間発表会を踏まえて、指導教員が研究の方向性や研究方法、文献収集などについて個別に指導する。
3 年 次	4月	授業開始前の大学院生ガイダンスに参加し、論文提出までのスケジュールを確認し、当年の研究課題を決定する。 論文指導科目（通年）を履修する。	博士論文中間発表会に向けて、担当教員が草稿案作成についての指導を個別に行う。 学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。
	7月	博士論文発表会において、論文の全体草稿の概要を発表する。 発表に対する教員からの指導を受けて、論文の完成に向けた最終的な仕上げを行う。 博士論文を執筆する。	指導教員が中心となって論文の完成に向けて指導を行う。 博士論文発表会を踏まえて、指導教員が、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の具体的内容を完成させるための指導を行う。
	9月	学会で口頭発表する。 学会紀要等に論文を投稿する。	学会口頭発表、学会紀要等への論文投稿を指導する。

	<p>11 月</p> <p>12 月</p> <p>3 月</p>	<p>博士論文の原稿を完成させる。 論文要旨、履歴書などの申請書類を作成する。</p> <p>博士論文ならびに申請書類一式を提出する（提出期限：12 月 10 日）</p> <p>最終試験を受ける。</p> <p>学位記が授与される。</p>	<p>提出された論文および申請書類につき、後期博士課程教授会にて審議の上、学位申請論文の受理を決定する。</p> <p>学位審査委員会を設置し、主査を互選し、「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に基づき、博士論文の審査を行い、最終試験を行う。</p> <p>学位審査委員会は、「論文審査結果の要旨」および「試験の結果の要旨」を後期博士課程教授会に提出し、同教授会はそれを審議して投票により学位授与を決定する。</p> <p>決定内容を研究科長から学長に内申し、学長が決裁する。</p> <p>学長が申請者に学位記を授与する。</p>
--	------------------------------------	---	---

博士後期課程における修了までのスケジュール表 哲学歴史学専攻（日本史学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月	「研究公正 B」を含む大学院共通科目を履修する。 分野専門科目を履修する。 論文指導科目（通年）を履修する。 研究計画（長～中期）を立てる。 先行研究、方法の検討を始める。 文献資料・データの収集を始める。	専修ガイダンスを開催し、研究科、専攻、専修の理念、カリキュラム、履修方法、設備等の利用方法、学情の図書・情報サービス、若手研究者支援諸制度等について説明する。 本研究科『博士論文作成ハンドブック』や「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」を用いて、博士論文の要件、論文提出までに提出が必要な書類などについて説明する。 加えて日本史学専修が定める追加的条件について説明する。 個人毎に指導教員（主担当・副担当）を決定し、後期博士課程教授会にて承認を得る。 博士論文構想発表会に向けて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	7月	博士論文構想発表会にて、論文の構想や研究計画を発表する 当年の研究課題を決定する。 先行研究、方法を検討する。 文献資料・データを収集する。	合同で論文の構想や研究計画を指導する。 博士論文構想発表会を踏まえて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。
	10月	分野専門科目を履修する。 フィールドワークの計画を立てる。 学会発表・論文投稿の計画を立てる。	担当教員が学会口頭発表や学会誌等への論文投稿の計画についての指導を個別に行う。
2 年 次	4月	論文指導科目（通年）を履修する。 研究計画を見直し、「博士論文作成計画書」を提出する。 当年の研究課題を決定する。	1年次までの学修に基づき、博士論文の研究計画の見直しや学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。 博士論文中間発表会に向けて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展

			開、結論の妥当性について個別に指導する。
	9月	博士論文中間発表会にて、論文の中間発表をする。 文献資料・データを収集する。 実験・フィールドワークを行う。 学会で口頭発表する。 学会紀要等に論文を投稿する。	合同で論文執筆の進捗を確認し、論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について指導する。 博士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。 学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。
3 年 次	4月	論文指導科目（通年）を履修する。 論文提出までのスケジュールを確認し、当年の研究課題を決定する。 学会で口頭発表する。 学会誌等に論文を投稿する。	博士論文最終準備発表会に向けて、担当教員が草稿案作成についての指導を個別に行う。 学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。
	7月	博士論文最終準備発表会にて、草稿案を説明する。 草稿を書く。	合同で論文執筆の進捗を確認し、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。 博士論文最終準備発表会を踏まえて、担当教員が、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について個別に指導する。
	9月	学会で口頭発表する。 学会誌等に論文を投稿する。	草稿をもとに論文指導をする。 学会口頭発表、学会誌等への論文投稿を指導する。
	11月	博士論文の原稿を完成させる。 論文要旨、履歴書などの申請書類を作成する。	
	12月	博士論文ならびに申請書類一式を提出する（提出期限：12月10日）	提出された論文および申請書類につき、後期博士課程教授会にて審議の上、学位申請論文の受理を決定する。 学位審査委員会を設置し、主査を互選し、「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に基づき、博士論文の審査を行い、最終試験を行

		最終試験を受ける。	う。 学位審査委員会は、「論文審査結果の要旨」および「試験の結果の要旨」を後期博士課程教授会に提出し、同教授会はそれを審議して投票により学位授与を決定する。 決定内容を研究科長から学長に内申し、学長が決裁する。
3 月		学位記が授与される。	学長が申請者に学位記を授与する。

博士後期課程における修了までのスケジュール表 哲学歴史学専攻（東洋史学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月	<p>「研究公正 B」を履修する。</p> <p>「東洋史学特殊研究 A」を履修する。</p> <p>「東洋史学論文指導」（通年）を履修する。</p> <p>研究計画（長～中期）を立てる。</p> <p>先行研究、方法の検討を始める。</p> <p>文献資料・データの収集を始める。</p>	<p>専修ガイダンスを開催し、研究科、専攻、専修の理念、カリキュラム、履修方法、設備等の利用方法、学情の図書・情報サービス、若手研究者支援諸制度等について説明する。</p> <p>本研究科『博士論文作成ハンドブック』や「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」を用いて、博士論文の要件、論文提出までに提出が必要な書類などについて説明する。</p> <p>加えて東洋史学専修が定める追加的条件について説明する。</p> <p>個人毎に指導教員（主担当・副担当）を決定し、後期博士課程教授会にて承認を得る。</p> <p>博士論文構想発表会に向けて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。</p>
	7月	<p>博士論文構想発表会にて、論文の構想や研究計画を発表する</p> <p>当年の研究課題を決定する。</p> <p>先行研究、方法を検討する。</p> <p>文献資料・データを収集する。</p>	<p>合同で論文の構想や研究計画を指導する。</p> <p>博士論文構想発表会を踏まえて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。</p>
	9月	<p>「東洋史学特殊研究 B」を履修する。</p> <p>実験、フィールドワークの計画を立てる。</p> <p>学会発表・論文投稿の計画を立てる。</p>	<p>担当教員が学会口頭発表や学会紀要等への論文投稿の計画についての指導を個別に行う。</p>
2 年 次	4月	<p>「東洋史学論文指導」（通年）を履修する。</p> <p>研究計画を見直し、「博士論文作成計画書」を提出する。</p>	<p>1年次までの学修に基づき、博士論文の研究計画の見直しや学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。</p> <p>博士論文中間発表会に向けて、担当教</p>

	9月	<p>当年の研究課題を決定する。</p> <p>博士論文中間発表会にて、論文の中間発表をする。</p> <p>文献資料・データを収集する。</p> <p>実験・フィールドワークを行う。</p> <p>学会で口頭発表する。</p> <p>学会紀要等に論文を投稿する。</p>	<p>員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。</p> <p>合同で論文執筆の進捗を確認し、論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について指導する。</p> <p>博士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。</p> <p>学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。</p>
3 年 次	4月	<p>「東洋史学論文指導」（通年）を履修する。</p> <p>論文提出までのスケジュールを確認し、当年の研究課題を決定する。</p> <p>学会で口頭発表する。</p> <p>学会紀要等に論文を投稿する。</p>	<p>博士論文中間発表会に向けて、担当教員が草稿案作成についての指導を個別に行う。</p> <p>学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。</p>
	7月	<p>博士論文中間発表会にて、草稿案を説明する。</p> <p>草稿を書く。</p>	<p>合同で論文執筆の進捗を確認し、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。</p> <p>博士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について個別に指導する。</p>
	9月	<p>学会で口頭発表する。</p> <p>学会紀要等に論文を投稿する。</p>	<p>草稿をもとに論文指導をする。</p> <p>学会口頭発表、学会紀要等への論文投稿を指導する。</p>
	11月	<p>博士論文の原稿を完成させる。</p> <p>論文要旨、履歴書などの申請書類を作成する。</p>	
	12月	<p>博士論文ならびに申請書類一式を提出する（提出期限：12月10日）</p>	<p>提出された論文および申請書類につき、後期博士課程教授会にて審議の上、学位申請論文の受理を決定する。</p> <p>学位審査委員会を設置し、主査を互選し、「修士論文ならびに博士論文に関す</p>

	3 月	<p>最終試験を受ける。</p> <p>学位記が授与される。</p>	<p>る文学研究科ガイドライン」に基づき、博士論文の審査を行い、最終試験を行う。</p> <p>学位審査委員会は、「論文審査結果の要旨」および「試験の結果の要旨」を後期博士課程教授会に提出し、同教授会はそれを審議して投票により学位授与を決定する。</p> <p>決定内容を研究科長から学長に内申し、学長が決裁する。</p> <p>学長が申請者に学位記を授与する。</p>
--	-----	------------------------------------	---

博士後期課程における修了までのスケジュール表 哲学歴史学専攻（西洋史学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月	「研究公正 B」を含む大学院共通教育科目を履修する。 分野専門科目を履修する。 論文指導科目（通年）を履修する。 研究計画（長～中期）を立てる。 先行研究、方法の検討を始める。 文献資料および一次史料の収集を始める。	専修ガイダンスを開催し、研究科、専攻、専修の理念、カリキュラム、履修方法、設備等の利用方法、学情の図書・情報サービス、若手研究者支援諸制度等について説明する。 本研究科『博士論文作成ハンドブック』や「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」を用いて、博士論文の要件、論文提出までに提出が必要な書類などについて説明する。 加えて西洋史学専修が定める追加的条件について説明する。 個人毎に指導教員（主担当・副担当）を決定し、後期博士課程教授会にて承認を得る。 博士論文構想発表会に向けて、主担当の指導教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	6月	大学院報告会にて、博士論文の構想や研究計画を発表する 当年の研究課題を決定する。先行研究、方法を検討する。文献資料および一次史料を収集する。	合同で論文の構想や研究計画を指導する。 大学院報告会における博士論文構想と研究計画発表を踏まえて、主担当の指導教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、史料収集について個別に指導する。
	9月	分野専門科目を履修する。 史料調査の計画を立てる。 学会発表・論文投稿の計画を立てる。	主担当の指導教員が学会口頭発表や学会誌への論文投稿の計画についての指導を個別に行う。
2 年 次	4月	論文指導科目（通年）を履修する。 研究計画を見直し、「博士論文作成計画書」を提出する。 当年の研究課題を決定する。	1年次までの学修に基づき、博士論文の研究計画の見直しや学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。 大学院報告会における博士論文中間発

			表に向けて、主担当の指導教員が論文の目的、史料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。
	9月	大学院報告会にて、論文の中間発表をする。 文献資料および一次史料を収集する。 学会で口頭発表する。 学会誌に論文を投稿する。	合同で論文執筆の進捗を確認し、論文の目的、史料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について指導する。 大学院報告会を踏まえて、主担当の指導教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。 学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。
3 年 次	4月	論文指導科目（通年）を履修する。 博士論文提出までのスケジュールを確認し、当年の研究課題を決定する。 学会で口頭発表する。学会誌に論文を投稿する。	大学院報告会における博士論文中間報告に向けて、主担当の指導教員が草稿案作成についての指導を個別に行う。 学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。
	6月	大学院報告会にて、博士論文の草稿案を説明する。 博士論文の草稿を書く。	合同で博士論文執筆の進捗を確認し、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、博士論文の内容について指導する。 大学院報告会を踏まえて、主担当の指導教員が、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、博士論文の内容について個別に指導する。
	9月	学会で口頭発表する。 学会誌等に論文を投稿する。	博士論文の草稿をもとに学会口頭発表、学会誌等への論文投稿を指導する。
	11月	博士論文の原稿を完成させる。 論文要旨、履歴書などの申請書類を作成する。	
	12月	博士論文ならびに申請書類一式を提出する（提出期限：12月10日）	提出された論文および申請書類につき、後期博士課程教授会にて審議の上、学位申請論文の受理を決定する。 学位審査委員会を設置し、主査を互選し、「修士論文ならびに博士論文に関す

	3 月	<p>最終試験を受ける。</p> <p>学位記が授与される。</p>	<p>る文学研究科ガイドライン」に基づき、博士論文の審査を行い、最終試験を行う。</p> <p>学位審査委員会は、「論文審査結果の要旨」および「試験の結果の要旨」を後期博士課程教授会に提出し、同教授会はそれを審議して投票により学位授与を決定する。</p> <p>決定内容を研究科長から学長に内申し、学長が決裁する。</p> <p>学長が申請者に学位記を授与する。</p>
--	-----	------------------------------------	---

博士後期課程における修了までのスケジュール表 人間行動学専攻（社会学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月	<u>研究のための基礎固めと準備</u> 研究分野を決定して、指導教員を選択する。また、指導教員と相談して、副指導教員を選択する。 研究倫理教育・コンプライアンス教育の e-learning 教材を受講する。 「研究公正 B」を含む大学院共通科目を履修する。 特殊研究 A の履修 論文指導の履修	以後、副指導教員と協力して、修士論文の執筆に向けて、研究指導を行う。 学生に対し、履修すべき科目を履修指導する。 3年間の研究指導計画を作成する。 論文指導の中で、学生が研究を進めるうえで必要な専門知識、データの収集・分析方法、研究分野における先行研究の内容や課題について指導する。
	9月	特殊研究 B の履修 論文指導の履修	
2 年 次	4月	<u>論文の目的、テーマ等を設定し、構想を固める</u> 研究指導 1 の履修	研究指導の中で、博士論文の全体的構想を固めていく。論文の目的、調査方法・データの妥当性、論理展開、結論の妥当性について指導する。 研究計画の見直し、確認
	9月	研究指導 2 の履修	研究指導 2 の中で、博士論文の進捗を確認しながら、論理展開や結論の妥当性など、論文の内容について指導する。
	11月	中間報告を行なう	博士論文の中核部分の公表を指導する。
3 年 次	4月	<u>研究の継続・博士論文作成</u> 研究指導 1 の履修	研究指導 1 の中で、博士論文の完成に至る研究計画の立案について支援する。また、論文全体の構成を検討し、中間報告に向けて指導を行なう。
	6月	学位論文計画書提出	

7月	研究倫理審査が必要と判断された場合には、倫理審査申請書を提出する。	
9月	研究指導 2 の履修	研究指導 2 の中で、博士論文の完成、最終審査に向けて、問題意識、論理構成、結論の整合性・妥当性について検討し、指導する。
11月	博士論文の中間報告において論文の中間報告を行なう。	学位審査委員から指摘された問題点の解決方法について指導する。
1月	博士論文を学位申請書、論文要旨および履歴書を添えて提出。	
2月	博士論文の最終審査を受ける。	
3月	博士課程の修了および学位授与	

博士後期課程における修了までのスケジュール表 人間行動学専攻（教育学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月	<p>「研究公正 B」を含む大学院共通科目を履修する。</p> <p>「教育学特殊研究 A」を履修する。</p> <p>「教育学論文指導」（通年）を履修する。</p> <p>研究計画（長～中期）を立てる。</p> <p>先行研究、方法の検討を始める。</p> <p>文献資料・データの収集を始める。</p>	<p>専修ガイダンスを開催し、研究科、専攻、専修の理念、カリキュラム、履修方法、設備等の利用方法、学情の図書・情報サービス、若手研究者支援諸制度等について説明する。</p> <p>本研究科『博士論文作成ハンドブック』や「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」を用いて、博士論文の要件、論文提出までに提出が必要な書類などについて説明する。</p> <p>加えて教育学専修が定める追加的条件について説明する。</p> <p>個人毎に指導教員（主担当・副担当）を決定し、後期博士課程教授会にて承認を得る。</p> <p>博士論文構想発表会に向けて、担当教員が論文の構想やテーマ設定、研究計画を個別に指導する。</p>
	5月	<p>APRIN e-learning プログラムを受講する。</p>	<p>APRIN e-learning プログラムの受講方法などをアナウンスし、受講、修了証の発行、提出などの方法や期限を指示する。</p>
	7月	<p>博士論文構想発表会にて、論文の構想や研究計画を発表する</p> <p>当年の研究課題を決定する。</p> <p>先行研究、方法を検討する。</p> <p>文献資料・データを収集する。</p>	<p>合同で論文の構想や研究計画を指導する。</p> <p>博士論文構想発表会を踏まえて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。</p>

	9月	「教育学特殊研究B」を履修する。 実験、フィールドワークの計画を立てる。 学会発表・論文投稿の計画を立てる。	担当教員が学会口頭発表や学会紀要等への論文投稿の計画についての指導を個別に行う。
2 年 次	4月	「教育学論文指導」(通年)を履修する。 研究計画を見直し、「博士論文作成計画書」を提出する。 当年の研究課題を決定する。	1年次までの学修に基づき、博士論文の研究計画の見直しや学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。 博士論文中間発表会に向けて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。
	9月	博士論文中間発表会にて、論文の中間発表をする。 文献資料・データを収集する。 実験・フィールドワークを行う。 学会で口頭発表する。 学会紀要等に論文を投稿する。	合同で論文執筆の進捗を確認し、論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について指導する。 博士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。 学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。
3 年 次	4月	「教育学論文指導」(通年)を履修する。 論文提出までのスケジュールを確認し、当年の研究課題を決定する。 学会で口頭発表する。 学会紀要等に論文を投稿する。	博士論文中間発表会に向けて、担当教員が草稿案作成についての指導を個別に行う。 学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。
	7月	博士論文中間発表会にて、草稿案を説明する。 草稿を書く。	合同で論文執筆の進捗を確認し、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。 博士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について個別に指導する。

9月	<p>学会で口頭発表する。 学会紀要等に論文を投稿する。</p>	<p>草稿をもとに論文指導をする。 学会口頭発表、学会紀要等への論文投稿を指導する。</p>
11月	<p>博士論文の原稿を完成させる。 論文要旨、履歴書などの申請書類を作成する。</p>	
12月	<p>博士論文ならびに申請書類一式を提出する（提出期限：12月10日）</p> <p>最終試験を受ける。</p>	<p>提出された論文および申請書類につき、後期博士課程教授会にて審議の上、学位申請論文の受理を決定する。 学位審査委員会を設置し、主査を互選し、「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に基づき、博士論文の審査を行い、最終試験を行う。 学位審査委員会は、「論文審査結果の要旨」および「試験の結果の要旨」を後期博士課程教授会に提出し、同教授会はそれを審議して投票により学位授与を決定する。 決定内容を研究科長から学長に内申し、学長が決裁する。</p>
3月	<p>博士後期課程の修了、学位授与。</p>	<p>学長が申請者に学位記を授与する。</p>

博士後期課程における修了までのスケジュール表 人間行動学専攻（地理学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月	「研究公正 B」を含む大学院共通科目を履修する。 分野専門科目を履修する。 論文指導科目（通年）を履修する。 研究計画（長～中期）を立てる。 先行研究、方法の検討を始める。 文献資料・データの収集を始める。	専修ガイダンスを開催し、研究科、専攻、専修の理念、カリキュラム、履修方法、設備等の利用方法、学情の図書・情報サービス、若手研究者支援諸制度等について説明する。 本研究科『博士論文作成ハンドブック』や「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」を用いて、博士論文の要件、論文提出までに提出が必要な書類などについて説明する。 加えて地理学専修が定める追加的条件について説明する。 個人毎に指導教員（主担当・副担当）を決定し、後期博士課程教授会にて承認を得る。 博士論文構想発表会に向けて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	7月	博士論文構想発表会にて、論文の構想や研究計画を発表する 当年の研究課題を決定する。 先行研究、方法を検討する。 文献資料・データを収集する。	合同で論文の構想や研究計画を指導する。 博士論文構想発表会を踏まえて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。
	9月	分野専門科目を履修する。 実験、フィールドワークの計画を立てる。 学会発表・論文投稿の計画を立てる。	担当教員が学会口頭発表や学会誌・紀要等への論文投稿の計画についての指導を個別に行う。
2 年 次	4月	論文指導科目（通年）を履修する。 研究計画を見直し、「博士論文作成計画書」を提出する。 当年の研究課題を決定する。	1年次までの学修に基づき、博士論文の研究計画の見直しや学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。 博士論文中間発表会に向けて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展

	9月	<p>博士論文中間発表会にて、論文の中間発表をする。</p> <p>文献資料・データを収集する。</p> <p>実験・フィールドワークを行う。</p> <p>学会で口頭発表する。</p> <p>学会誌・紀要等に論文を投稿する。</p>	<p>開、結論の妥当性について個別に指導する。</p> <p>合同で論文執筆の進捗を確認し、論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について指導する。</p> <p>博士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。</p> <p>学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。</p>
3 年 次	4月	<p>論文指導科目（通年）を履修する。</p> <p>論文提出までのスケジュールを確認し、当年の研究課題を決定する。</p> <p>学会で口頭発表する。</p> <p>学会誌・紀要等に論文を投稿する。</p>	<p>博士論文中間発表会に向けて、担当教員が草稿案作成についての指導を個別に行う。</p> <p>学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。</p>
	7月	<p>博士論文中間発表会にて、草稿案を説明する。</p> <p>草稿を書く。</p> <p>学会で口頭発表する。</p>	<p>合同で論文執筆の進捗を確認し、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。</p> <p>博士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について個別に指導する。</p> <p>草稿をもとに論文指導をする。</p>
	9月	<p>学会誌・紀要等に論文を投稿する。</p>	<p>学会口頭発表、学会誌・紀要等への論文投稿を指導する。</p>
	11月	<p>博士論文の原稿を完成させる。</p> <p>論文要旨、履歴書などの申請書類を作成する。</p>	
	12月	<p>博士論文ならびに申請書類一式を提出する（提出期限：12月10日）</p>	<p>提出された論文および申請書類につき、後期博士課程教授会にて審議の上、学位申請論文の受理を決定する。</p> <p>学位審査委員会を設置し、主査を互選し、「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に基づき、博士論文の審査を行い、最終試験を行</p>

	3 月	<p>最終試験を受ける。</p> <p>学位記が授与される。</p>	<p>う。</p> <p>学位審査委員会は、「論文審査結果の要旨」および「試験の結果の要旨」を後期博士課程教授会に提出し、同教授会はそれを審議して投票により学位授与を決定する。</p> <p>決定内容を研究科長から学長に内申し、学長が決裁する。</p> <p>学長が申請者に学位記を授与する。</p>
--	-----	------------------------------------	--

博士後期課程における修了までのスケジュール表 言語文化学専攻（国語国文学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月 12月	<p>「研究公正 B」を含む大学院共通科目を履修する。</p> <p>分野専門科目を履修する。</p> <p>国語国文学特殊研究 A・B を履修する。</p> <p>国語国文学論文指導（通年）を履修する。</p> <p>入学以前の研究の見直しをし、今後の研究の構想を練る。</p> <p>具体的な研究を着手する。</p> <p>大学院生の研究発表会で発表する。</p>	<p>専修ガイダンスを開催し、カリキュラム、履修方法、共同研究室や図書館の利用方法、若手研究者支援諸制度等について説明する。</p> <p>個人毎に指導教員（主担当・副担当）を決定し、博士後期課程教授会で承認を得る。</p> <p>本研究科『博士論文作成ハンドブック』などを用いて、博士論文の要件を説明し、加えて、国語国文学専修が定める追加条件について説明する。</p> <p>担当教員が、研究の方向性や研究方法などについて、個別に指導する。</p>
2 年 次	4月 12月	<p>国語国文学論文指導（通年）を履修する。</p> <p>「博士論文作成計画書」を提出する。</p> <p>研究を継続し、可能ならば、学外の学会で研究発表を行い、また、学会誌などに論文を投稿する。</p> <p>大学院生の研究発表会で発表する。</p>	<p>担当教員が、論文指導や学会発表での発表資料、投稿論文の草稿を基に、論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性などについて、個別に指導する。</p>
3 年 次	4月 11月 12月	<p>論文指導科目（通年）を履修する。</p> <p>学外の学会で研究発表を行い、また、学会誌などに論文を投稿する。</p> <p>博士論文の原稿を完成させる。</p> <p>論文要旨、履歴書などの申請書類を作成する。</p> <p>博士論文ならびに申請書類一式を提出する。</p> <p>大学院生の研究発表会で発表する。</p> <p>最終試験を受ける。</p>	<p>担当教員が、論文指導や学会発表での発表資料、投稿論文の草稿、博士論文の草稿を基に、論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性などについて、個別に指導する。</p> <p>提出された論文および申請書類につき、学位審査委員会を設置し、「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に基づき、博士論文の審査を行い、最終試験を行う。</p> <p>学位審査委員会は、「論文審査結果の要</p>

	3 月	学位記が授与される。	旨」および「試験の結果の要旨」を後期博士課程教授会に提出し、同教授会はそれを審議して投票により学位授与を決定する。 決定内容を研究科長から学長に内申し、学長が決裁する。 学長が申請者に学位記を授与する。
--	-----	------------	---

博士後期課程における修了までのスケジュール表 言語文化学専攻（中国語中国文学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月	「研究公正 B」を含む大学院共通科目を履修する。 分野専門科目を履修する。 論文指導科目（通年）を履修する。 研究計画（長～中期）を立てる。 先行研究、方法の検討を始める。 文献資料・データの収集を始める。	専修ガイダンスを開催し、研究科、専攻、専修の理念、カリキュラム、履修方法、設備等の利用方法、学情の図書・情報サービス、若手研究者支援諸制度等について説明する。 本研究科『博士論文作成ハンドブック』や「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」を用いて、博士論文の要件、論文提出までに提出が必要な書類などについて説明する。 加えて中国語中国文学専修が定める追加的条件について説明する。 個人毎に指導教員（主担当・副担当）を決定し、後期博士課程教授会にて承認を得る。 博士論文構想発表会に向けて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	7月	博士論文構想発表会にて、論文の構想や研究計画を発表する 当年の研究課題を決定する。 先行研究、方法を検討する。 文献資料・データを収集する。	合同で論文の構想や研究計画を指導する。 博士論文構想発表会を踏まえて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。
	9月	分野専門科目を履修する。 実験、フィールドワークの計画を立てる。 学会発表・論文投稿の計画を立てる。	担当教員が学会口頭発表や学会紀要等への論文投稿の計画についての指導を個別に行う。
2 年 次	4月	論文指導科目（通年）を履修する。 研究計画を見直し、「博士論文作成計画書」を提出する。 当年の研究課題を決定する。	1年次までの学修に基づき、博士論文の研究計画の見直しや学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。 博士論文中間発表会に向けて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展

	9月	<p>博士論文中間発表会にて、論文の中間発表をする。</p> <p>文献資料・データを収集する。</p> <p>実験・フィールドワークを行う。</p> <p>学会で口頭発表する。</p> <p>学会紀要等に論文を投稿する。</p>	<p>開、結論の妥当性について個別に指導する。</p> <p>合同で論文執筆の進捗を確認し、論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について指導する。</p> <p>博士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。</p> <p>学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。</p>
3 年 次	4月	<p>論文指導科目（通年）を履修する。</p> <p>論文提出までのスケジュールを確認し、当年の研究課題を決定する。</p> <p>学会で口頭発表する。</p> <p>学会紀要等に論文を投稿する。</p>	<p>博士論文中間発表会に向けて、担当教員が草稿案作成についての指導を個別に行う。</p> <p>学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。</p>
	7月	<p>博士論文中間発表会にて、草稿案を説明する。</p> <p>草稿を書く。</p>	<p>合同で論文執筆の進捗を確認し、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。</p> <p>博士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について個別に指導する。</p>
	9月	<p>学会で口頭発表する。</p> <p>学会紀要等に論文を投稿する。</p>	<p>草稿をもとに論文指導をする。</p> <p>学会口頭発表、学会紀要等への論文投稿を指導する。</p>
	11月	<p>博士論文の原稿を完成させる。</p> <p>論文要旨、履歴書などの申請書類を作成する。</p>	
	12月	<p>博士論文ならびに申請書類一式を提出する（提出期限：12月10日）</p> <p>最終試験を受ける。</p>	<p>提出された論文および申請書類につき、後期博士課程教授会にて審議の上、学位申請論文の受理を決定する。</p> <p>学位審査委員会を設置し、主査を互選し「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に基づき、博士論文の審査、最終試験を行う。</p>

			<p>学位審査委員会は、「論文審査結果の要旨」および「試験の結果の要旨」を後期博士課程教授会に提出し、同教授会はそれを審議して投票により学位授与を決定する。</p> <p>決定内容を研究科長から学長に内申し、学長が決裁する。</p>
3月	学位記が授与される。		学長が申請者に学位記を授与する。

博士後期課程における修了までのスケジュール表 言語文化学専攻（英語英米文学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月	「研究公正 B」を含む大学院共通科目を履修する。 分野専門科目を履修する。 論文指導科目（通年）を履修する。 研究計画（長～中期）を立てる。 テキストの精読を始める。 先行研究、方法の検討を始める。 文献資料・データの収集を始める。	専修ガイダンスを開催し、研究科、専攻、専修の理念、カリキュラム、履修方法、設備等の利用方法、学情の図書・情報サービス、若手研究者支援諸制度等について説明する。 本研究科『博士論文作成ハンドブック』や「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」を用いて、博士論文の要件、論文提出までに提出が必要な書類などについて説明する。 加えて英語英米文学専修が定める追加的条件について説明する。 個人毎に指導教員（主担当・副担当）を決定し、後期博士課程教授会にて承認を得る。 博士論文構想発表会に向けて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	7月	博士論文構想発表会にて、論文の構想や研究計画を発表する 当年の研究課題を決定する。 先行研究、方法を検討する。 文献資料・データを収集する。	合同で論文の構想や研究計画を指導する。 博士論文構想発表会を踏まえて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。
	9月	分野専門科目を履修する。 関連テキストの選定及び精読の計画を立てる。 学会発表・論文投稿の計画を立てる。	担当教員が学会口頭発表や学会紀要等への論文投稿の計画についての指導を個別に行う。
2 年 次	4月	論文指導科目（通年）を履修する。 研究計画を見直し、「博士論文作成計画書」を提出する。 当年の研究課題を決定する。 関連テキストの精読を行う。	1年次までの学修に基づき、博士論文の研究計画の見直しや学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。 博士論文中間発表会に向けて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展

	9月	<p>博士論文中間発表会にて、論文の中間発表をする。</p> <p>文献資料・データを収集する。</p> <p>テキストの2度目の精読を行う。</p> <p>学会で口頭発表する。</p> <p>学会紀要等に論文を投稿する。</p>	<p>開、結論の妥当性について個別に指導する。</p> <p>合同で論文執筆の進捗を確認し、論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について指導する。</p> <p>博士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。</p> <p>学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。</p>
3 年 次	4月	<p>論文指導科目（通年）を履修する。</p> <p>論文提出までのスケジュールを確認し、当年の研究課題を決定する。</p> <p>学会で口頭発表する。</p> <p>学会紀要等に論文を投稿する。</p>	<p>博士論文中間発表会に向けて、担当教員が草稿案作成についての指導を個別に行う。</p> <p>学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。</p>
	7月	<p>博士論文中間発表会にて、草稿案を説明する。</p> <p>草稿を書く。</p> <p>学会で口頭発表する。</p>	<p>合同で論文執筆の進捗を確認し、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。</p> <p>博士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について個別に指導する。</p> <p>草稿をもとに論文指導をする。</p>
	9月	<p>学会紀要等に論文を投稿する。</p>	<p>学会口頭発表、学会紀要等への論文投稿を指導する。</p>
	11月	<p>博士論文の原稿を完成させる。</p> <p>論文要旨、履歴書などの申請書類を作成する。</p>	
	12月	<p>博士論文ならびに申請書類一式を提出する（提出期限：12月10日）</p>	<p>提出された論文および申請書類につき、後期博士課程教授会にて審議の上、学位申請論文の受理を決定する。</p> <p>学位審査委員会を設置し、主査を互選し、「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に基づき、</p>

		最終試験を受ける。	博士論文の審査を行い、最終試験を行う。
3月	学位記が授与される。		学位審査委員会は、「論文審査結果の要旨」および「試験の結果の要旨」を後期博士課程教授会に提出し、同教授会はそれを審議して投票により学位授与を決定する。 決定内容を研究科長から学長に内申し、学長が決裁する。 学長が申請者に学位記を授与する。

博士後期課程における修了までのスケジュール表 言語文化学専攻
(ドイツ語圏言語文化学専修)

		学生	指導教員
1 年 次	4月	<p>「研究公正 B」を含む大学院共通科目を履修する。</p> <p>分野専門科目を履修する。</p> <p>論文指導科目（通年）を履修する。</p> <p>研究計画（長～中期）を立てる。</p> <p>先行研究、方法の検討を始める。</p> <p>文献資料・データの収集を始める。</p>	<p>専修ガイダンスを開催し、研究科、専攻、専修の理念、カリキュラム、履修方法、設備等の利用方法、学情の図書・情報サービス、若手研究者支援諸制度等について説明する。</p> <p>本研究科『博士論文作成ハンドブック』や「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」を用いて、博士論文の要件、論文提出までに提出が必要な書類などについて説明する。</p> <p>加えてドイツ語圏言語文化学専修が定める追加的条件について説明する。</p> <p>個人毎に指導教員（主担当・副担当）を決定し、後期博士課程教授会にて承認を得る。</p> <p>博士論文中間発表会に向けて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。</p>
	6月	<p>修士論文の成果等をふまえ、当年度の研究計画を立て、指導教員と相談しながら具体的なスケジュールを立てていく。中間発表会に向けて博士論文の構想と、今年度の研究計画の報告準備を行う。</p>	<p>修士論文の成果をふまえ、担当教員が学会口頭発表や学会紀要等への論文投稿の計画についての指導を個別に行う。</p>
	7月	<p>博士論文中間発表会にて、論文の構想や研究計画を発表し、当年の研究課題を決定する。実験、資料調査等の計画を立てる。</p> <p>先行研究、方法の検討と文献資料・データを収集と並行し、学会発表や論文投稿の準備を行う。</p>	<p>合同で論文の構想や研究計画を指導する。</p> <p>博士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。</p>
	9月	<p>文献資料や・データを分析する。学会口頭発表や学会紀要等に論文を投稿する。</p>	<p>担当教員が学会口頭発表や学会紀要等への論文投稿についての指導を個別に行う。</p>

		分野専門科目を履修する。	
	11月	博士論文中間発表会にて、研究の進捗状況を報告する。	博士論文中間発表会をふまえて、担当教員が引き続き研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。
2 年 次	4月	論文指導科目（通年）を履修する。 研究計画を見直し、「博士論文作成計画書」を提出する。 当年の研究課題を決定する。	1年次までの学修に基づき、博士論文の研究計画の見直しや学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。 博士論文中間発表会に向けて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。
	7月	博士論文中間発表会にて、論文の中間発表をする。 文献資料・データを収集する。 実験や文献資料の調査等を行う。	
	9月	学会で口頭発表する。 学会紀要等に論文を投稿する。	合同で論文執筆の進捗を確認し、論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について指導する。 博士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。 学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。
	11月	博士論文中間発表会にて、研究の進捗状況を報告する。	博士論文中間発表会をふまえて、担当教員が引き続き論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。
3 年 次	4月	論文指導科目（通年）を履修する。 論文提出までのスケジュールを確認し、当年の研究課題を決定する。 学会で口頭発表する。 学会紀要等に論文を投稿する。	博士論文中間発表会に向けて、担当教員が草稿案作成についての指導を個別に行う。 学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。

7月	博士論文中間発表会にて、草稿案を説明する。 草稿を書く。	合同で論文執筆の進捗を確認し、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。 博士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について個別に指導する。
9月	学会で口頭発表する。 学会紀要等に論文を投稿する。	草稿をもとに論文指導をする。 学会口頭発表、学会紀要等への論文投稿を指導する。
11月	博士論文の原稿を完成させる。 論文要旨、履歴書などの申請書類を作成する。	
12月	博士論文ならびに申請書類一式を提出する（提出期限：12月10日） 最終試験を受ける。	提出された論文および申請書類につき、後期博士課程教授会にて審議の上、学位申請論文の受理を決定する。 学位審査委員会を設置し、主査を互選し、「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に基づき、博士論文の審査を行い、最終試験を行う。 学位審査委員会は、「論文審査結果の要旨」および「試験の結果の要旨」を後期博士課程教授会に提出し、同教授会はそれを審議して投票により学位授与を決定する。 決定内容を研究科長から学長に内申し、学長が決裁する。
3月	学位記が授与される。	学長が申請者に学位記を授与する。

博士後期課程における修了までのスケジュール表 言語文化学専攻
(フランス語圏言語文化学専修)

		学生	指導教員
1 年 次	4月	「研究公正 B」を含む大学院共通科目を履修する。 分野専門科目を履修する。 論文指導科目（通年）を履修する。 研究計画（長～中期）を立てる。 先行研究、方法の検討を始める。 文献資料・データの収集を始める。	専修ガイダンスを開催し、研究科、専攻、専修の理念、カリキュラム、履修方法、設備等の利用方法、学情の図書・情報サービス、若手研究者支援諸制度等について説明する。 本研究科『博士論文作成ハンドブック』や「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」を用いて、博士論文の要件、論文提出までに提出が必要な書類などについて説明する。 加えてフランス語圏言語文化学専修が定める追加的条件について説明する。 個人毎に指導教員（主担当・副担当）を決定し、後期博士課程教授会にて承認を得る。
	6月	修士論文の成果等をふまえ、当年度の研究計画を立て、指導教員と相談しながら具体的なスケジュールを立てていく。中間発表会に向けて博士論文の構想と、今年度の研究計画の報告準備を行う。	博士論文中間発表会に向けて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。 修士論文の成果をふまえ、担当教員が学会口頭発表や学会紀要等への論文投稿の計画についての指導を個別に行う。
	7月	博士論文中間発表会にて、論文の構想や研究計画を発表し、当年の研究課題を決定する。実験、資料調査等の計画を立てる。 先行研究、方法の検討と文献資料・データを収集と並行し、学会発表や論文投稿の準備を行う。	合同で論文の構想や研究計画を指導する。 博士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。
	9月	文献資料や・データを分析する。学会口頭発表や学会紀要等に論文を投稿する。 分野専門科目を履修する。	担当教員が学会口頭発表や学会紀要等への論文投稿についての指導を個別に行う。

	11月	博士論文中間発表会にて、研究の進捗状況を報告する。	博士論文中間発表会をふまえて、担当教員が引き続き研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。
2 年 次	4月	論文指導科目（通年）を履修する。 研究計画を見直し、「博士論文作成計画書」を提出する。 当年の研究課題を決定する。	1年次までの学修に基づき、博士論文の研究計画の見直しや学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。 博士論文中間発表会に向けて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。
	7月	博士論文中間発表会にて、論文の中間発表をする。 文献資料・データを収集する。 実験や文献資料の調査等を行う。	
	9月	学会で口頭発表する。 学会紀要等に論文を投稿する。	合同で論文執筆の進捗を確認し、論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について指導する。 博士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。 学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。
	11月	博士論文中間発表会にて、研究の進捗状況を報告する。	博士論文中間発表会をふまえて、担当教員が引き続き論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。
3 年 次	4月	論文指導科目（通年）を履修する。 論文提出までのスケジュールを確認し、当年の研究課題を決定する。 学会で口頭発表する。 学会紀要等に論文を投稿する。	博士論文中間発表会に向けて、担当教員が草稿案作成についての指導を個別に行う。 学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。

7 月	<p>博士論文中間発表会にて、草稿案を説明する。</p> <p>草稿を書く。</p>	<p>合同で論文執筆の進捗を確認し、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。</p> <p>博士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について個別に指導する。</p>
9 月	<p>学会で口頭発表する。</p> <p>学会紀要等に論文を投稿する。</p>	<p>草稿をもとに論文指導をする。</p> <p>学会口頭発表、学会紀要等への論文投稿を指導する。</p>
11 月	<p>博士論文の原稿を完成させる。</p> <p>論文要旨、履歴書などの申請書類を作成する。</p>	
12 月	<p>博士論文ならびに申請書類一式を提出する（提出期限：12 月 10 日）</p> <p>最終試験を受ける。</p>	<p>提出された論文および申請書類につき、後期博士課程教授会にて審議の上、学位申請論文の受理を決定する。</p> <p>学位審査委員会を設置し、主査を互選し、「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に基づき、博士論文の審査を行い、最終試験を行う。</p> <p>学位審査委員会は、「論文審査結果の要旨」および「試験の結果の要旨」を後期博士課程教授会に提出し、同教授会はそれを審議して投票により学位授与を決定する。</p> <p>決定内容を研究科長から学長に内申し、学長が決裁する。</p>
3 月	<p>学位記が授与される。</p>	<p>学長が申請者に学位記を授与する。</p>

博士後期課程における修了までのスケジュール表 言語文化学専攻（言語応用学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月	<p>「研究公正 B」を含む大学院共通科目を履修する。</p> <p>分野専門科目「言語応用学特殊研究 A」を履修する。</p> <p>論文指導科目「言語応用学論文指導」（通年）を履修する。</p> <p>研究計画（中・長期）を立てる。</p> <p>先行研究を踏まえ、研究方法の検討を始める。</p> <p>文献資料・データの収集を始める。</p>	<p>専修ガイダンスを開催し、研究科、専攻、専修の理念、カリキュラム、履修方法、言語応用学教室内の設備等の利用方法、学術情報総合センターの図書・情報サービス、若手研究者支援諸制度等について説明する。</p> <p>本研究科『博士論文作成ハンドブック』や「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」を用いて、博士論文の要件、論文提出までに提出が必要な書類などについて説明する。加えて言語応用学専修が定める追加的条件について説明する。</p> <p>個人毎に指導教員（主担当・副担当）を決定し、後期博士課程教授会にて承認を得る。</p> <p>博士論文構想発表会に向けて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。</p>
	7月	<p>博士論文構想発表会にて、論文の構想や研究計画を発表する</p> <p>博士論文の構想の方向性について、主に担当教員と共に再検討する</p> <p>当年の研究課題を決定する。</p> <p>先行研究、方法を検討する。</p> <p>文献資料・データを収集する。</p>	<p>教室教員は合同で論文の構想や研究計画を指導する。</p> <p>博士論文構想発表会を踏まえて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。</p>
	9月	<p>分野専門科目「言語応用学特殊研究 B」を履修する。</p> <p>実験、資料収集の計画を立てる。</p> <p>学会発表・論文投稿の計画を立てる。</p>	<p>主に担当教員が学会発表や学会紀要等への論文投稿の計画についての指導を個別に行う。</p>
2 年 次	4月	<p>論文指導科目「言語応用学論文指導」（通年）を履修する。</p> <p>研究計画を見直し、「博士論文作</p>	<p>1年次までの学修に基づき、博士論文の研究計画の見直しや学会発表、論文投稿執筆などを指導する。</p>

	9月	<p>成計画書」を提出する。 当年の研究課題を決定する。</p> <p>文献資料・データを収集する。 実験、資料収集を行う。 学会で口頭発表する。 学会紀要等に論文を投稿する。</p>	<p>主に担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。</p> <p>教室教員が合同で論文執筆の進捗を確認し、論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について指導する。</p> <p>主に担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。</p> <p>主に担当教員が学会発表、論文投稿執筆などを指導する。</p>
3 年 次	4月	<p>論文指導科目「言語応用学論文指導」（通年）を履修する。 論文提出までのスケジュールを確認し、当年の研究課題を決定する。 学会で研究発表する。 学会紀要等に論文を投稿する。</p>	<p>博士論文構想の学会発表に向けて、主に担当教員が草稿案作成についての指導を個別に行う。 教室教員が学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。</p>
	7月	<p>博士論文執筆を開始する。草稿を書く。</p>	<p>教室教員が合同で論文執筆の進捗を確認し、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。</p> <p>それまでの博士論文構想の学会発表の成果を踏まえて、主に担当教員が、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について個別に指導する。</p> <p>草稿をもとに論文指導をする。</p>
	11月	<p>博士論文の原稿を完成させる。 論文要旨、履歴書などの申請書類を作成する。</p>	
	12月	<p>博士論文ならびに申請書類一式を提出する（提出期限：12月10日）</p>	<p>提出された論文および申請書類につき、後期博士課程教授会にて審議の上、学位申請論文の受理を決定する。</p>

	3 月	<p>最終試験を受ける。</p> <p>学位が授与される。</p>	<p>学位審査委員会を設置し、主査を互選する。</p> <p>博士論文の審査を行い、最終試験を行う。</p> <p>学位審査委員会は、「論文審査結果の要旨」および「試験の結果の要旨」を後期博士課程教授会に提出し、同教授会はそれを審議して投票により学位授与を決定する。</p> <p>決定内容を研究科長から学長に内申し、学長が決裁する。</p> <p>学長が申請者に学位を授与する。</p>
--	-----	-----------------------------------	--

博士後期課程における修了までのスケジュール表 文化構想学専攻（表現文化学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月	「研究公正 B」を含む大学院共通科目を履修する。 分野専門科目を履修する。 論文指導科目（通年）を履修する。 研究計画（長～中期）を立てる。 先行研究、方法の検討を始める。 文献資料・データの収集を始める。	専修ガイダンスを開催し、研究科、専攻、専修の理念、カリキュラム、履修方法、設備等の利用方法、学情の図書・情報サービス、若手研究者支援諸制度等について説明する。 本研究科『博士論文作成ハンドブック』や「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」を用いて、博士論文の要件、論文提出までに提出が必要な書類などについて説明する。 加えて表現文化学専修が定める追加的条件について説明する。 個人毎に指導教員（主担当・副担当）を決定し、後期博士課程教授会にて承認を得る。 博士論文構想発表会に向けて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	7月	博士論文構想発表会にて、論文の構想や研究計画を発表する 当年の研究課題を決定する。 先行研究、方法を検討する。 文献資料・データを収集する。	合同で論文の構想や研究計画を指導する。 博士論文構想発表会を踏まえて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。
	9月	分野専門科目を履修する。 実験、フィールドワークの計画を立てる。 学会発表・論文投稿の計画を立てる。	担当教員が学会口頭発表や学会紀要等への論文投稿の計画についての指導を個別に行う。
2 年 次	4月	論文指導科目（通年）を履修する。 研究計画を見直し、「博士論文作成計画書」を提出する。 当年の研究課題を決定する。	1年次までの学修に基づき、博士論文の研究計画の見直しや学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。 博士論文中間発表会に向けて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展

	9月	<p>博士論文中間発表会にて、論文の中間発表をする。</p> <p>文献資料・データを収集する。</p> <p>実験・フィールドワークを行う。</p> <p>学会で口頭発表する。</p> <p>学会紀要等に論文を投稿する。</p>	<p>開、結論の妥当性について個別に指導する。</p> <p>合同で論文執筆の進捗を確認し、論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について指導する。</p> <p>博士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。</p> <p>学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。</p>
3 年 次	4月	<p>論文指導科目（通年）を履修する。</p> <p>論文提出までのスケジュールを確認し、当年の研究課題を決定する。</p> <p>学会で口頭発表する。</p> <p>学会紀要等に論文を投稿する。</p>	<p>博士論文中間発表会に向けて、担当教員が草稿案作成についての指導を個別に行う。</p> <p>学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。</p>
	7月	<p>博士論文中間発表会にて、草稿案を説明する。</p> <p>草稿を書く。</p> <p>学会で口頭発表する。</p>	<p>合同で論文執筆の進捗を確認し、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。</p> <p>博士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について個別に指導する。</p> <p>草稿をもとに論文指導をする。</p>
	9月	<p>学会紀要等に論文を投稿する。</p>	<p>学会口頭発表、学会紀要等への論文投稿を指導する。</p>
	11月	<p>博士論文の原稿を完成させる。</p> <p>論文要旨、履歴書などの申請書類を作成する。</p>	
	12月	<p>博士論文ならびに申請書類一式を提出する（提出期限：12月10日）</p>	<p>提出された論文および申請書類につき、後期博士課程教授会にて審議の上、学位申請論文の受理を決定する。</p> <p>学位審査委員会を設置し、主査を互選し、「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に基づき、博士論文の審査を行い、最終試験を行</p>

		最終試験を受ける。	う。 学位審査委員会は、「論文審査結果の要旨」および「試験の結果の要旨」を後期博士課程教授会に提出し、同教授会はそれを審議して投票により学位授与を決定する。 決定内容を研究科長から学長に内申し、学長が決裁する。
3月		学位記が授与される。	学長が申請者に学位記を授与する。

博士後期課程における修了までのスケジュール表 文化構想学専攻（アジア文化学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・「研究公正 B」を含む大学院共通科目を履修する。 ・分野専門科目を履修する。 ・論文指導科目（通年）を履修する。 ・研究計画（長～中期）を立てる。 ・先行研究、方法の検討を始める。 ・文献資料・データの収集を始める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専修ガイダンスを開催し、研究科、専攻、専修の理念、カリキュラム、履修方法、設備等の利用方法、学情の図書・情報サービス、若手研究者支援諸制度等について説明する。 ・本研究科『博士論文作成ハンドブック』や「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」を用いて、博士論文の要件、論文提出までに提出が必要な書類などについて説明する。加えてアジア文化学専修が定める追加的条件について説明する。 ・院生ごとに指導教員(主担当・副担当)を決定し、博士後期課程教授会にて承認を得る。 ・博士論文構想発表会に向けて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。
	7月	<ul style="list-style-type: none"> ・博士論文構想発表会にて、論文の構想や研究計画を発表する ・当年の研究課題を決定する。 ・先行研究、方法を検討する。 ・文献資料・データを収集する。 ・必要に応じてフィールドワークの計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専修教員合同で論文の構想や研究計画を指導する。 ・博士論文構想発表会を踏まえて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・分野専門科目を履修する。 ・学会発表・論文投稿の計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員が学会口頭発表や学会誌等への論文投稿の計画についての指導を個別に行う。
2 年 次	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・論文指導科目（通年）を履修する。 ・研究計画を見直し、「博士論文作成計画書」を提出する。 ・当年の研究課題を決定する。 ・実用に応じてフィールドワークを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次までの学修に基づき、博士論文の研究計画の見直しや学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。 ・博士論文中間発表会に向けて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導

	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・博士論文中間発表会（第1回）にて、論文の中間発表をする。 ・文献資料・データを収集する。 <ul style="list-style-type: none"> ・学会で口頭発表する。 ・学会紀要等に論文を投稿する。 	<p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専修教員合同で論文執筆の進捗を確認し、論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について指導する。 ・博士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。 ・学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。
3 年 次	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・論文指導科目（通年）を履修する。 ・論文提出までのスケジュールを確認し、当年の研究課題を決定する。 <ul style="list-style-type: none"> ・学会で口頭発表する。 ・学会誌等に論文を投稿する。 	<p>博士論文中間発表会に向けて、担当教員が草稿案作成についての指導を個別に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。
	7月	<ul style="list-style-type: none"> ・博士論文中間発表会（第2回）にて、草稿案を説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ・博士論文の草稿を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専修教員合同で論文執筆の進捗を確認し、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。 ・博士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について個別に指導する。
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・学会で口頭発表する。 ・学会誌等に論文を投稿する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・博士論文の草稿をもとに論文指導をする。 ・学会口頭発表、学会紀要等への論文投稿を指導する。
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・博士論文の原稿を完成させる。 ・論文要旨、履歴書などの申請書類を作成する。 	

	<p>12 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士論文ならびに申請書類一式を提出する（提出期限：12 月 10 日） ・最終試験を受ける。 <p>3 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位記が授与される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提出された論文および申請書類につき、博士後期課程教授会にて審議の上、学位申請論文の受理を決定する。 ・学位審査委員会を設置し、主査を互選し、「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に基づき、博士論文の審査を行い、最終試験を行う。 ・学位審査委員会は、「論文審査結果の要旨」および「試験の結果の要旨」を博士後期課程教授会に提出し、同教授会はそれを審議して投票により学位授与を決定する。 ・決定内容を研究科長から学長に内申し、学長が決裁する。 ・学長が申請者に学位記を授与する。
--	---	---

博士後期課程における修了までのスケジュール表 文化構想学専攻（文化資源学専修）

		学生	指導教員
1 年 次	4月	<p>「研究公正 B」を含む大学院共通科目を履修する。</p> <p>分野専門科目を履修する。</p> <p>論文指導科目（通年）を履修する。</p> <p>研究計画（長～中期）を立てる。</p> <p>先行研究、方法の検討を始める。</p> <p>文献資料・データの収集を始める。</p>	<p>専修ガイダンスを開催し、研究科、専攻、専修の理念、カリキュラム、履修方法、設備等の利用方法、学情の図書・情報サービス、若手研究者支援諸制度等について説明する。</p> <p>本研究科『博士論文作成ハンドブック』や「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」を用いて、博士論文の要件、論文提出までに提出が必要な書類などについて説明する。</p> <p>加えて文化資源学専修が定める追加的条件について説明する。</p> <p>個人毎に指導教員（主担当・副担当）を決定し、後期博士課程教授会にて承認を得る。</p> <p>博士論文構想発表会に向けて、担当教員が論文の構想や研究計画を個別に指導する。</p>
	5月	<p>専修の合同ゼミナールにて、論文の構想や研究計画を発表する</p> <p>当年の研究課題を決定する。</p> <p>先行研究、方法を検討する。</p> <p>文献資料・データを収集する。</p>	<p>合同で論文の構想や研究計画を指導する。</p> <p>合同ゼミナールの成果を踏まえて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別に指導する。</p>
	9月	<p>分野専門科目を履修する。</p> <p>社会実践、フィールドワークの計画を立てる。</p> <p>学会発表・論文投稿の計画を立てる。</p>	<p>担当教員が学会口頭発表や学会紀要等への論文投稿の計画についての指導を個別に行う。</p>
	12月	<p>専修の合同ゼミナールにて、研究の進捗状況を発表する。</p>	<p>合同で論文の構想や研究計画を指導する。</p> <p>合同ゼミナールの成果を踏まえて、担当教員が研究の方向性や研究方法、文献収集、分析データ収集について個別</p>

			に指導する。
2 年 次	4月	論文指導科目（通年）を履修する。 分野専門科目を履修する。 研究計画を見直し、「博士論文作成計画書」を提出する。 当年の研究課題を決定する。	1年次までの学修に基づき、博士論文の研究計画の見直しや学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。 合同ゼミナールに向けて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。
	5月	専修の合同ゼミナールにて、論文の中間発表を行なう。 社会実践、フィールドワークを行なう。 文献資料・データを収集する。	合同で論文執筆の進捗を確認し、論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について指導する。 合同ゼミナールの成果を踏まえて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。
	12月	専修の合同ゼミナールにて、論文の中間発表をする。 文献資料・データを収集する。 実験・フィールドワークを行う。 学会で口頭発表する。 学会紀要等に論文を投稿する。	合同で論文執筆の進捗を確認し、論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について指導する。 合同ゼミナールの成果を踏まえて、担当教員が論文の目的、資料の妥当性、論理展開、結論の妥当性について個別に指導する。 学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。
3 年 次	4月	論文指導科目（通年）を履修する。 論文提出までのスケジュールを確認し、当年の研究課題を決定する。 学会で口頭発表する。 学会紀要等に論文を投稿する。	博士論文中間発表会に向けて、担当教員が草稿案作成についての指導を個別に行う。 学会口頭発表、論文投稿執筆などを指導する。
	5月	博士論文中間発表会にて、草稿案を説明する。 草稿を書く。	合同で論文執筆の進捗を確認し、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について指導する。 博士論文中間発表会を踏まえて、担当教員が、論理展開や結論の妥当性、各章間の凝集性など、論文の内容について個別に指導する。

	<p>10月 学会で口頭発表する。 学会紀要等に論文を投稿する。</p> <p>11月 博士論文の原稿を完成させる。 論文要旨、履歴書などの申請書類を作成する。</p> <p>12月 博士論文ならびに申請書類一式を提出する（提出期限：12月10日）</p> <p>最終試験を受ける。</p> <p>3月 学位記が授与される。</p>	<p>草稿をもとに論文指導をする。 学会口頭発表、学会紀要等への論文投稿を指導する。</p> <p>審査に向けての各種手続きについて準備する。</p> <p>提出された論文および申請書類につき、後期博士課程教授会にて審議の上、学位申請論文の受理を決定する。 学位審査委員会を設置し、主査を互選し、「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に基づき、博士論文の審査を行い、最終試験を行う。</p> <p>学位審査委員会は、「論文審査結果の要旨」および「試験の結果の要旨」を後期博士課程教授会に提出し、同教授会はそれを審議して投票により学位授与を決定する。</p> <p>決定内容を研究科長から学長に内申し、学長が決裁する。</p> <p>学長が申請者に学位記を授与する。</p>
--	--	--

履修モデル（哲学歴史学専攻哲学専修 博士前期課程）

企業系におけるコンプライアンスマネジメントに携わる人材像

科目区分	1年次		2年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	
共通 科目 教育	研究公正A	1			
	小計	1	小計	0	1
専攻 共通 科目	人間文化学研究A	2			
	哲学総合研究演習1	2			
	哲学総合研究演習2	2			
	倫理学研究	2			
	倫理学研究演習	2			
	西洋哲学史研究	2			
	西洋哲学史研究演習	2			
	哲学研究	2			
	哲学研究演習	2			
	宗教学研究	2			
	宗教学研究演習	2			
	美学研究	2			
	美学研究演習	2			
	社会学基礎問題研究A	2			
	社会学基礎問題研究B	2			
専攻 専門 科目			哲学研究指導1	2	
			哲学研究指導2	2	
研究 指導 科目					
小計	30	小計	4	34	
合計	31		4	35	

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル（哲学歴史学専攻日本史学専修 博士前期課程）

地方自治体等職員として文化財に携わる人材像

科目区分	1年次		2年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	
共通 教育 科目	研究公正A	1			
	大学院キャリアデザイン演習	2			
	大学院キャリア形成論	1			
	人権問題論	2			
	小計	6	小計	0	6
専攻 共通 科目	人間文化学研究B	2			
	日本史学研究A	2			
	日本史学研究演習A	2			
	日本史学研究C	2			
	日本史学研究演習C	2			
	日本史学研究D	2			
	日本史学研究演習D	2			
	東洋史学研究E	2			
	西洋史学研究F	2			
	考古学研究	2			
	考古学研究演習	2			
	日本史学総合研究演習1	2			
	日本史学総合研究演習2	2			
	日本史学研究B	2			
	日本史学研究演習B	2			
研究 指導 科目			日本史学研究指導1	2	
			日本史学研究指導2	2	
	小計	30	小計	4	34
合計		36		4	40

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル（哲学歴史学専攻東洋史学専修 博士前期課程）

研究に携わる人材像

科目区分	1年次		2年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	
共通 科目 教育	研究公正A	1			
	大学教育基礎演習	1			
	小計	2	小計	0	2
専 門 科 目	専攻 共通 科目	人間文化学研究B	2		
	分野 専 門 科 目	東洋史学総合研究1	2		
		東洋史学総合研究2	2		
		東洋史学研究A	2		
		東洋史学研究演習A	2		
		東洋史学研究B	2		
		東洋史学研究演習B	2		
		東洋史学研究C	2		
		東洋史学研究演習C	2		
		東洋史学研究D	2		
		東洋史学研究演習D	2		
		世界史学研究	2		
		世界史学研究演習	2		
研究 指導 科目			東洋史学研究指導1	2	
			東洋史学研究指導2	2	
	小計	26	小計	4	30
合計		28		4	32

(注)科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル（哲学歴史学専攻西洋史学専修 博士前期課程）

中学校・高等学校において歴史教育に携わる人材像

科目区分	1年次		2年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	
共通 科目 教育	研究公正A	1			1
	小計	1	小計	0	1
専攻 共通 科目	人間文化学研究B	2			
	西洋史学研究A	2	西洋史学研究演習A	2	
	西洋史学研究B	2	西洋史学研究F	2	
	西洋史学研究演習B	2			
	西洋史学研究C	2			
	西洋史学研究演習C	2			
	西洋史学研究D	2			
	西洋史学研究演習D	2			
	西洋史学研究E	2			
	西洋史学総合研究演習1	2			
	西洋史学総合研究演習2	2			
分野 専門 科目			西洋史学研究指導1	2	
			西洋史学研究指導2	2	
研究 指導 科目					
	小計	22	小計	8	30
合計		23		8	31

(注)科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル(人間行動学専攻社会学専修 博士前期課程)

社会学の基礎を踏まえた社会調査のプロを育成

科目区分	1年次		2年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	
共通 科目 教育	研究公正A	1			
	人権問題論	2			
	小計	3	小計	0	3
専門 科目	専攻 共通 科目	人間行動学研究A	2		
		人間行動学研究B	2		
	分野 専門 科目	社会学基礎問題研究A	2		
		社会学基礎問題研究B	2		
		社会学特殊問題研究A	2		
		社会学特殊問題研究演習A	2		
		社会学特殊問題研究B	2		
		社会学特殊問題研究演習B	2		
		社会学特殊問題研究C	2		
		社会学特殊問題研究演習C	2		
		社会学基礎問題研究演習A	2		
		社会学基礎問題研究演習B	2		
	研究 指導 科目			社会学研究指導1	2
			社会学研究指導2	2	
	小計	24	小計	4	28
合計		27		4	31

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル(人間行動学専攻心理学専修 博士前期課程)

研究に携わる人材像

科目区分	1年次		2年次		単位 合計	
	科目名	単位	科目名	単位		
共通 科目 教育	研究公正A	1				
	Academic Writing	2				
	Academic Presentation	2				
	小計	5	小計	0	5	
専攻 共通 科目	人間行動学研究B	2				
	人間行動学研究A	2				
	心理学基礎問題研究	2				
	心理学基礎問題研究演習	2				
	実験心理学研究	2				
	実験心理学研究演習	2				
	心理学特殊問題研究A	2				
	心理学特殊問題研究演習A	2				
	心理学特殊問題研究B	2				
	心理学特殊問題研究演習B	2				
	心理学総合研究演習1	2				
	心理学総合研究演習2	2				
	研究 指導 科目			心理学研究指導1	2	
				心理学研究指導2	2	
合計	小計	24	小計	4	28	
合計		29		4	33	

(注)科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル(人間行動学専攻教育学専修 博士前期課程)

教育学に関する専門的・先端的知識を備えて学校教育に携わる人材像

科目区分	1年次		2年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	
共通 科目 教育	研究公正A	1			
	小計	1	小計	0	1
専 門 科 目	専攻 共通 科目	人間行動学研究A	2		
		人間行動学研究C	2		
	分野 専 門 科 目	教育学基礎問題研究	2		
		教育学基礎問題研究演習	2		
		学校教育学研究A	2		
		学校教育学研究演習A	2		
		学校教育学研究B	2		
		学校教育学研究演習B	2		
		教育学特殊問題研究A	2		
		教育学特殊問題研究演習A	2		
		教育学特殊問題研究B	2		
		教育学特殊問題研究演習B	2		
		教育学総合研究演習1	2		
		教育学総合研究演習2	2		
研究 指 導 科 目			教育学研究指導1	2	
			教育学研究指導2	2	
	小計	28	小計	4	32
合計		29		4	33

(注)科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル(人間行動学専攻地理学専修 博士前期課程)

地域社会に実質的・継続的に関わる人材像

科目区分	1年次		2年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	
共通 科目 教育	研究公正A	1			
	小計	1	小計	0	1
専門 科目	専攻 共通 科目	人間行動学研究D	2		
		人間行動学研究A	2		
	分野 専門 科目	地理学基礎問題研究	2		
		地理学基礎問題研究演習	2		
		地理情報論研究	2		
		地理情報論研究演習	2		
		人文地理特殊問題研究A	2		
		人文地理特殊問題研究演習A	2		
		人文地理特殊問題研究B	2		
		人文地理特殊問題研究演習B	2		
		社会学特殊問題研究A	2		
		地理学総合研究演習1	2		
地理学総合研究演習2	2				
研究 指導 科目			地理学研究指導1	2	
			地理学研究指導2	2	
	小計	26	小計	4	30
合計		27		4	31

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル(言語文化学専攻国語国文学専修 博士前期課程)
国語国文学教育・研究に携わる人材像

科目区分	1年次		2年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	
共通 科目 教育	研究公正A	1			
	小計	1	小計	0	1
専 門 科 目	専攻 共通 科目	言語文化学研究A	2		
		言語文化学研究C	2		
	分野 専門 科目	国文学研究A	2		
		国文学研究演習A	2		
		国文学研究B	2		
		国文学研究演習B	2		
		国文学研究C	2		
		国文学研究演習C	2		
		国文学研究D	2		
		国語学研究	2		
		国語国文学研究演習A	2		
		国語国文学総合研究演習1	2		
	国語国文学総合研究演習2	2			
研究 指導 科目			国語国文学研究指導1	2	
			国語国文学研究指導2	2	
	小計	26	小計	4	30
合計		27		4	31

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル(言語文化学専攻中国語中国文学専修 博士前期課程)

語学分野を専門に後期課程を目指す人材像

科目区分	1年次		2年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	
共通 科目 教育	研究公正A	1			
	小計	1	小計	0	1
専 門 科 目	専攻 共通 科目	言語文化学研究A	2		
		言語文化学研究D	2		
	分 野 専 門 科 目	中国語中国文学総合研究演習1	2		
		中国語中国文学総合研究演習2	2		
		中国文化学研究	2		
		中国文化学研究演習	2		
		中国文学研究	2		
		中国文学研究演習	2		
		中国語学研究	2		
		中国語学研究演習	2		
		中国語応用研究	2		
		言語応用学研究B	2		
		言語応用学研究演習B	2		
研 究 指 導 科 目			中国語中国文学研究指導1	2	
			中国語中国文学研究指導2	2	
	小計	26	小計	4	30
合計		27		4	31

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル(言語文化学専攻英語英米文学 博士前期課程)
高等学校における英語教育に携わる人材像

科目区分	1年次		2年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	
共通 科目 教育	<u>研究公正A</u>	1			
	Academic Presentation	2			
	小計	3	小計	0	3
専攻 共通 科目	<u>アカデミック・コミュニケーション演習1</u>	2			
	<u>言語文化学研究D</u>	2			
分野 専門 科目	<u>英文学研究A</u>	2	<u>英文学研究C</u>	2	
	<u>英文学研究B</u>	2			
	<u>英語学研究A</u>	2			
	<u>英米文化学研究</u>	2			
	<u>英文学研究演習A</u>	2			
	<u>英文学研究演習B</u>	2			
	<u>英米文化学研究演習</u>	2			
	<u>英語英米文学総合研究演習1</u>	2			
	<u>英語英米文学総合研究演習2</u>	2			
	<u>英語学研究演習</u>	2			
研究 指導 科目			<u>英語英米文学研究指導1</u>	2	
			<u>英語英米文学研究指導2</u>	2	
	小計	24	小計	6	30
合計		27		6	33

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル(言語文化学専攻ドイツ語圏言語文化学専修 博士前期課程)

企業系における事務職に携わる人材像

科目区分	1年次		2年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	
共通 科目 教育	研究公正A	1			
	小計	1	小計	0	1
専攻 共通 科目	言語文化学研究A	2	言語文化学研究B	2	
	ドイツ語圏言語文化研究	2	ヨーロッパ言語文化学研究	2	
	ドイツ語圏文学研究A	2	地域社会文化学研究A	2	
	ドイツ語圏文学研究演習A	2			
	ドイツ語圏文学研究B	2			
	ドイツ語圏文学研究演習B	2			
	ドイツ語学研究	2			
	ドイツ語学研究演習	2			
	ドイツ語圏文化学研究	2			
	ドイツ語圏文化学研究演習	2			
分野 専門 科目			ドイツ語圏言語文化学研究指導1	2	
			ドイツ語圏言語文化学研究指導2	2	
研究 指導 科目					
合計	小計	20	小計	10	30
合計		21		10	31

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル(言語文化学専攻フランス語圏言語文化学専修 博士前期課程)

企業系における事務職に携わる人材像

科目区分	1年次		2年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	
共通 科目 教育	研究公正A	1			
	小計	1	小計	0	1
専攻 共通 科目	言語文化学研究A	2	言語文化学研究B	2	
	フランス語圏言語文化研究	2	多文化学研究	2	
	フランス語圏文学研究A	2	地域社会文化学研究B	2	
	フランス語圏文学研究演習A	2		2	
	フランス語圏文化学研究A	2			
	フランス語圏文化学研究演習B	2			
	フランス語学研究A	2			
	フランス語学研究演習B	2			
	フランス語圏言語文化論A	2			
	フランス語圏言語文化論B	2			
分野 専門 科目			フランス語圏言語文化学研究指導1	2	
			フランス語圏言語文化学研究指導2	2	
研究 指導 科目					
	小計	20	小計	12	32
合計		21		12	33

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル(言語文化学専攻言語応用学専修 博士前期課程)
 高等学校語学教育に携わる人材像

科目区分	1年次		2年次		単位 合計	
	科目名	単位	科目名	単位		
共通 科目 教育	研究公正A	1				
	科学英語	2				
	大学院キャリア形成論—学問・大学と社会	1				
	小計	4	小計	0	4	
専攻 共通 科目	言語文化学研究A	2				
	言語文化学研究B	2				
	言語文化学研究C	2				
	言語文化学研究D	2				
	分野 専門 科目	言語応用学研究A	2			
		言語応用学研究演習A	2			
		言語応用学研究B	2			
		言語応用学研究演習B	2			
		言語応用学研究C	2			
		言語応用学研究演習C	2			
		言語応用学研究D	2			
		言語応用学研究演習D	2			
		言語応用学総合研究演習1	2			
	研究 指導 科目			言語応用学研究指導1	2	
			言語応用学研究指導2	2		
	小計	26	小計	4	30	
合計		30		4	34	

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル(文化構想学専攻 表現文化学専修 博士前期課程)
現代文化の研究に携わる人材像

科目区分	1年次		2年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	
共通 科目 教育	研究公正A	1			
	小計	1	小計	0	1
専攻 共通 科目	文化構想学研究A	2			
	文化構想学研究B	2			
	テキスト文化論研究	2			
	テキスト文化論研究演習	2			
	表象文化構造論研究	2			
	表象文化構造研究演習	2			
	比較表現論研究	2			
	比較表現論研究演習	2			
	表現文化学特別講義B	2			
	表現文化学総合研究演習1	2			
	表現文化学総合研究演習2	2			
	ポピュラー文化論研究	2			
	ポピュラー文化論研究演習	2			
分野 専門 科目					
研究 指導 科目			表現文化学研究指導1	2	
			表現文化学研究指導2	2	
	小計	26	小計	4	30
合計		27		4	31

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル(文化構想学専攻 表現文化学専修 博士前期課程)
企業における情報発信に携わる人材像

科目区分	1年次		2年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	
共通 科目 教育	研究公正A	1			
	小計	1	小計	0	1
専攻 共通 科目	文化構想学研究A	2			
	文化構想学研究C	2			
	表象文化構造論研究	2			
	表象文化構造論研究演習	2			
	比較表現論研究	2			
	ポピュラー文化論研究	2			
	観光文化資源論研究	2			
	観光文化資源論研究演習	2			
	アジア文化学特別講義B	2			
	表現文化学総合研究演習1	2			
	表現文化学総合研究演習2	2			
分野 専門 科目	テキスト文化論研究	2			
	表現文化学特別講義A	2			
	表現文化学研究指導1		2	2	
	表現文化学研究指導2		2	2	
研究 指導 科目					
小計	26	小計	4	30	
合計	27		4	31	

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル(文化構想学専攻アジア文化学専修 博士前期課程)

研究者を目指し博士後期課程進学を希望する人材像

科目区分	1年次		2年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	
共通 科目 教育	研究公正A	1			
	小計	1	小計	0	1
専攻 共通 科目	文化構想学研究B(アジア文化)	2			
	文化構想学研究C(文化資源)	2			
	アジア文化構想学研究	2			
	アジア文化構想学研究演習	2			
	アジア地域文化創造論研究	2			
	アジア地域文化創造論研究演習	2			
	アジア共生文化政策論研究	2			
	アジア共生文化政策論研究演習	2			
	アジア文化学総合研究演習1	2			
	アジア文化学総合研究演習2	2			
	アジア文化学特別講義A	2			
	アジア比較文化実践論研究	2			
	アジア比較文化実践論研究演習	2			
分野 専門 科目					
研究 指導 科目			アジア文化学研究指導1	2	
			アジア文化学研究指導2	2	
	小計	26	小計	4	30
合計		27		4	31

(注)科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル(文化構想学専攻アジア文化学専修 博士前期課程)
企業系におけるアジア地域に携わる人材像

科目区分	1年次		2年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	
共通 科目 教育	研究公正A	1			
	小計	1	小計	0	1
専攻 共通 科目	文化構想学研究B(アジア文化)	2			
	文化構想学研究C(文化資源)	2			
	アジア文化構想学研究	2			
	アジア地域文化創造論研究	2			
	アジア地域文化創造論研究演習	2			
	アジア共生文化政策論研究	2			
	アジア共生文化政策論研究演習	2			
	アジア文化学総合研究演習1	2			
	アジア文化学総合研究演習2	2			
	ポピュラー文化論研究	2			
	国際文化資源論研究	2			
	アジア文化学特別講義A	2			
アジア文化学特別講義B	2				
分野 専門 科目					
研究 指導 科目			アジア文化学研究指導1	2	
			アジア文化学研究指導2	2	
	小計	26	小計	4	30
合計		27		4	31

(注)科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル(文化構想学専攻文化資源学専修 博士前期課程)
博物館学芸員やアートプロデューサーに携わる人材像

科目区分	1年次		2年次		単位 合計	
	科目名	単位	科目名	単位		
共通 科目 教育	研究公正A	1				
	大学院キャリアデザイン演習	2				
	小計	3	小計	0	3	
専攻 共通 科目	文化構想学研究A(表現文化)	2				
	文化構想学研究C(文化資源)	2				
	分野 専門 科目	文化資源学総合研究演習1	2			
		文化資源学総合研究演習2	2			
		国際文化資源論研究	2			
		国際文化資源論研究演習	2			
		芸術文化資源論研究	2			
		芸術文化資源論研究演習	2			
		文化資源学特別講義A	2			
		社会実践文化資源論研究	2			
		社会実践文化資源論研究演習	2			
		文化資源学特別講義B	2			
	研究 指導 科目			文化資源学研究指導1	2	
			文化資源学研究指導2	2		
	小計	24	小計	4	28	
合計		27		4	31	

(注)科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル(文化構想学専攻文化資源学専修 博士前期課程)

観光業におけるリーダーや地域マネジメントに携わる人材像

科目区分	1年次		2年次		単位 合計	
	科目名	単位	科目名	単位		
共通 科目 教育	研究公正A	1				
	戦略的システム思考力演習1	2				
	戦略的システム思考力演習2	2				
	小計	5	小計	0	5	
専攻 共通 科目	文化構想学研究A(表現文化)	2				
	文化構想学研究B(アジア文化)	2				
	文化構想学研究C(文化資源)	2				
	分野 専門 科目	文化資源学総合研究演習1	2			
		文化資源学総合研究演習2	2			
		観光文化資源論研究	2			
		観光文化資源論研究演習	2			
		社会実践文化資源論研究	2			
		社会実践文化資源論研究演習	2			
		文化資源学特別講義A	2			
文化資源学特別講義B	2					
研究 指導 科目			文化資源学研究指導1	2		
			文化資源学研究指導2	2		
合計	小計	22	小計	4	26	
合計		27		4	31	

(注)科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル（哲学歴史学専攻哲学専修 博士後期課程）

哲学研究に携わる人材像

科目区分	1年次		2年次		3年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
共通 科目 教育	<u>研究公正B</u>	1					
	小計（1科目）	1	小計（0科目）	0	小計（0科目）	0	1
専門 科目	分野 科目	哲学特殊研究A 哲学特殊研究B	2 2				
	論文 科目 指導	哲学論文指導	4	哲学論文指導	4	哲学論文指導	4
	小計（3科目）	8	小計（1科目）	4	小計（1科目）	4	16
	合計	4科目	9	1科目	4	1科目	4

(注)科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル（哲学歴史学専攻日本史学専修 博士後期課程）

大学・博物館などでの高度な研究に携わる人材像

科目区分	1年次		2年次		3年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
共通 科目 教育	研究公正B	1					
	小計 (1科目)	1	小計 (0科目)	0	小計 (0科目)	0	1
専門 科目	分野 専門	日本史学特殊研究A	2				
		日本史学特集研究B	2				
	論文 指導	日本史学論文指導	4	日本史学論文指導	4	日本史学論文指導	4
	小計 (3科目)	8	小計 (1科目)	4	小計 (1科目)	4	16
合計	4科目	9	1科目	4	1科目	4	17

(注)科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル（哲学歴史学専攻東洋史学専修 博士後期課程）

研究に携わる人材像

科目区分	1年次		2年次		3年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
共通 科目 教育	研究公正B	1					
	小計 (1科目)	1	小計 (0科目)	0	小計 (0科目)	0	1
専門 科目	分野 専門	東洋史学特殊研究A 東洋史学特殊研究B	2 2				
	論文 科目 指導	東洋史学論文指導	4	東洋史学論文指導	4	東洋史学論文指導	4
	小計 (3科目)	8	小計 (1科目)	4	小計 (1科目)	4	16
	合計	4科目	9	1科目	4	1科目	4

(注)科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル（哲学歴史学専攻西洋史学専修 博士後期課程）

歴史研究に携わる人材像

科目区分	1年次		2年次		3年次		単位 合計	
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位		
共通 科目 教育	<u>研究公正B</u>	1					1	
	小計 (1科目)	1	小計 (0科目)	0	小計 (0科目)	0	1	
専門 科目	分野 科目 専門	西洋史学特殊研究A 西洋史学特殊研究B	2 2				4	
	論文 科目 指導	西洋史学論文指導	4	西洋史学論文指導	4	西洋史学論文指導	4	12
		小計 (3科目)	8	小計 (1科目)	4	小計 (1科目)	4	16
	合計	4科目	9	1科目	4	1科目	4	17

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル（人間行動学専攻社会学専修 博士後期課程）

国内外をリードする先進的若手研究者の育成

科目区分	1年次		2年次		3年次		単位 合計	
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位		
共通 科目 教育	<u>研究公正B</u>	1						
	小計（1科目）	1	小計（0科目）	0	小計（0科目）	0	1	
専門 科目	分野 専門	社会学特殊研究A	2					
		社会学特殊研究B	2					
	論文 科目 指導	社会学論文指導	4	社会学論文指導	4	社会学論文指導	4	
		小計（1科目）	8	小計（1科目）	4	小計（1科目）	4	16
合計	3科目	9	4科目	4	4科目	4	17	

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル（人間行動学専攻心理学専修 博士後期課程）

科目区分	1年次		2年次		3年次		単位 合計	
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位		
共通 科目 教育	研究公正B	1						
	小計（1科目）	1	小計（0科目）	0	小計（0科目）	0	1	
専門 科目	分野 専門	心理学特殊研究A	2					
		心理学特殊研究B	2					
	論文 科目 指導	心理学論文指導	4	心理学論文指導	4	心理学論文指導	4	
		小計（3科目）	8	小計（1科目）	4	小計（1科目）	4	12
合計	4科目	9	1科目	4	1科目	4	13	

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル（人間行動学専攻教育学専修 博士後期課程）

教育学研究職に携わる人材像

科目区分	1年次		2年次		3年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
共通 科目 教育	<u>研究公正B</u>	1					
	小計（1科目）	1	小計（0科目）	0	小計（0科目）	0	1
専門 科目	分野 専門	教育学特殊研究A 教育学特殊研究B	2 2				
	論文 科目 指導	教育学論文指導	4	教育学論文指導	4	教育学論文指導	4
		小計（3科目）	8	小計（1科目）	4	小計（1科目）	4
	合計	4科目	9	1科目	4	1科目	4

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル（人間行動学専攻地理学専修 博士後期課程）

地理学の専門職に携わる人材像

科目区分	1年次		2年次		3年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
共通 科目 教育	研究公正B	1					
	小計（1科目）	1	小計（0科目）	0	小計（0科目）	0	1
専門 科目	分野 科目 専門	地理学特殊研究A 2 地理学特殊研究B 2					
	論文 科目 指導	地理学論文指導	4	地理学論文指導	4	地理学論文指導	4
		小計（3科目）	8	小計（1科目）	4	小計（1科目）	4
	合計	4科目	9	1科目	4	1科目	4

(注)科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル（言語文化学専攻国語国文学専修 博士後期課程）

国語国文学教育・研究に携わる人材像

科目区分	1年次		2年次		3年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
共通 科目 教育	研究公正B	1					
	小計 (1科目)	1	小計 (0科目)	0	小計 (0科目)	0	1
専門 科目	分野 科目 専門	国語国文学特殊研究A 2 国語国文学特殊研究B 2					
	論文 科目 指導	国語国文学論文指導	4	国語国文学論文指導	4	国語国文学論文指導	4
		小計 (3科目)	8	小計 (1科目)	4	小計 (1科目)	4
	合計	4科目	9	1科目	4	1科目	4

(注)科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル（言語文化学専攻中国文学専修 博士後期課程）

科目区分	1年次		2年次		3年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
共通 科目 教育	研究公正B	1					
	小計 (1科目)	1	小計 (0科目)	0	小計 (0科目)	0	1
専門 科目	分野 科目 専門	中国語中国文学特殊研究A	2				
		中国語中国文学特殊研究B	2				
	論文 科目 指導	中国語中国文学論文指導	4	中国語中国文学論文指導	4	中国語中国文学論文指導	4
	小計 (3科目)	8	小計 (1科目)	4	小計 (1科目)	4	16
合計	4科目	9	1科目	4	1科目	4	17

(注)科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル（言語文化学専攻英語英米文学 博士後期課程）

英語英米文学研究に携わる人材像

科目区分		1年次		2年次		3年次		単位 合計
		科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
共通 科目 教育		<u>研究公正B</u>	1					
		小計 (1科目)	1	小計 (0科目)	0	小計 (0科目)	0	1
専門 科目	分野 専門	英語英米文学特殊研究A	2					
		英語英米文学特殊研究B	2					
	論文 科目 指導	英語英米文学論文指導	4	英語英米文学論文指導	4	英語英米文学論文指導	4	
		小計 (3科目)	8	小計 (1科目)	4	小計 (1科目)	4	16
合計		4科目	9	1科目	4	1科目	4	17

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル（言語文化学専攻ドイツ語圏言語文化学専修 博士後期課程）
 大学研究職に携わる人材像

科目区分	1年次		2年次		3年次		単位 合計	
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位		
共通 科目 教育	研究公正B	1						
	小計 (1科目)	1	小計 (0科目)	0	小計 (0科目)	0	1	
専門 科目	分野 専門	ドイツ語圏言語文化学特殊研究A	2					
		ドイツ語圏言語文化学特殊研究B	2					
	論文 科目 指導	ドイツ語圏言語文化学論文指導	4	ドイツ語圏言語文化学論文指導	4	ドイツ語圏言語文化学論文指導	4	12
		小計 (3科目)	8	小計 (1科目)	4	小計 (1科目)	4	16
合計	4科目	9	1科目	4	1科目	4	17	

(注)科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル（言語文化学専攻フランス語圏言語文化学専修 博士後期課程）

大学研究職に携わる人材像

科目区分	1年次		2年次		3年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
共通 科目 教育	研究公正B	1					
	小計（1科目）	1	小計（0科目）	0	小計（0科目）	0	1
専門 科目	分野 専門	フランス語圏言語文化学特殊研究A	2				
		フランス語圏言語文化学特殊研究B	2				
	論文 科目 指導	フランス語圏言語文化学論文指導	4	フランス語圏言語文化学論文指導	4	フランス語圏言語文化学論文指導	4
	小計（3科目）	8	小計（1科目）	4	小計（1科目）	4	16
合計	4科目	9	1科目	4	1科目	4	17

(注)科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル（言語文化学専攻言語応用学専修 博士後期課程）

大学語学教育に携わる人材像

科目区分	1年次		2年次		3年次		単位 合計	
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位		
共通 科目 教育	<u>研究公正B</u>	1						
	小計 (1科目)	1	小計 (0科目)	0	小計 (0科目)	0	1	
専門 科目	分野 専門	言語応用学特殊研究A	2					
		言語応用学特殊研究B	2					
	論文 科目 指導	言語応用学論文指導	4	言語応用学論文指導	4	言語応用学論文指導	4	
		小計 (3科目)	8	小計 (1科目)	4	小計 (1科目)	4	16
合計	4科目	9	1科目	4	1科目	4	17	

(注)科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル（文化構想学専攻表現文化学専修 博士後期課程）

現代文化領域の教育研究に携わる人材像

科目区分	1年次		2年次		3年次		単位 合計			
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位				
共通 科目 教育	研究公正B	1								
	大学教育実践演習	1								
	小計 (2科目)		2	小計 (0科目)		0	小計 (0科目)		0	2
専門 科目	分野 専門	表現文化学特殊研究A(表現文化学研究動向)	2					2		
		表現文化学特殊研究B(表現文化学研究と社会)	2					2		
	論文 指導	表現文化学論文指導	4	表現文化学論文指導	4	表現文化学論文指導	4	12		
	小計 (3科目)		8	小計 (1科目)		4	小計 (1科目)		4	16
合計	5科目		10	1科目		4	1科目		4	18

(注)科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル（文化構想学専攻アジア文化学専修 博士後期課程）

アジア文化学研究に携わる人材像

科目区分	1年次		2年次		3年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
共通 科目 教育	<u>研究公正B</u>	1					
	小計（1科目）	1	小計（0科目）	0	小計（0科目）	0	1
専門 科目	分野 専門	アジア文化学特殊研究A(アジア文化学研究動向)	2				
		アジア文化学特殊研究B(アジア文化学研究と社会)	2				
	論文 指導	アジア文化学論文指導	4	アジア文化学論文指導	4	アジア文化学論文指導	4
	小計（3科目）	8	小計（1科目）	4	小計（1科目）	4	16
合計	4科目	9	1科目	4	1科目	4	17

(注)科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル（文化構想学専攻文化資源学専修 博士後期課程）

研究職に携わる人材像

科目区分	1年次		2年次		3年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
共通 科目 教育	<u>研究公正B</u>	1					
	小計（1科目）	1	小計（0科目）	0	小計（0科目）	0	1
専門 科目	分野 専門	文化資源学特殊研究A(文化資源学研究動向)	2				
		文化資源学特殊研究B(文化資源学研究と社会)	2				
	論文 指導	文化資源学論文指導	4	文化資源学論文指導	4	文化資源学論文指導	4
	小計（3科目）	8	小計（1科目）	4	小計（1科目）	4	16
合計	4科目	9	1科目	4	1科目	4	17

(注)科目名欄の下線は必修科目を示す。

大阪公立大学大学院文学研究科研究倫理審査委員会内規(案)

(目的及び設置)

第1条 大阪公立大学大学院文学研究科において行われる人を直接の対象とする研究において、大阪公立大学「人を対象とする研究」倫理基準に則った倫理的配慮が図られているかを審査することを目的として「大阪公立大学大学院文学研究科研究倫理審査委員会」（以下「委員会」と称す）を置く。

(組織)

第2条 委員会は、文学研究科長が指名する委員6名で構成する。

2 指名の方法は別途申合せで定める。

(任期)

第3条 前条第1項に挙げる委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第4条 委員会には委員長を置く。

2 委員長は、文学研究科長が指名する。

3 委員長の任期は原則1年とする。

4 委員長の指名の方法は別途申合せで定める。

5 委員長は、申請があれば速やかに会議を招集し議長となる。

6 委員長が職務を務めることができない場合、文学研究科長の指名により委員会に委員長代理を置き、委員長に代わって会議を招集し、議長となることができる。

(議事)

第5条 委員会の議事は、次の各号に挙げる原則にもとづいて行う。

(1) 委員会は、委員の3分の2以上が出席しなければ議事を開くことができない。

(2) 申請者は、委員会に出席し申請内容を説明するとともに意見を述べるができる。

(3) 委員会が必要と認めたときは、委員以外のものを会議に出席させ意見を聞くことができる。

(審査対象)

第6条 審査の対象は次の各号に挙げる人を対象とする研究（実験室実験、フィールド実験、質問紙等による研究）とする。

(1) 文学研究院・文学研究科の専任教員が行う研究

(2) 文学研究院の特任教員が行う研究

(3) 文学研究院が推薦して大阪公立大学名誉教授の称号を与えられた研究者が行う研究

(4) 文学研究科の大学院学生、研究生、研修生、研究員等、および文学部の学生が本学の専任教員の指導の下に行う研究

※ただし、申請は指導教員、受入れ教員、または当該教室の専任教員が行う。

(審査の観点)

第 7 条 審査は申請書に記載されている実施計画内容等について倫理的及び社会的観点から次の各号に挙げる点に留意して行う。

- (1) 研究等の対象となる個人の人権の擁護
 - (2) 研究等の対象となる個人に理解と同意を得る方法
 - (3) 研究等によって生ずる個人・団体の不利益並びに危険性
 - (4) 研究がもたらす学術的貢献
- 2 審査規準の詳細および審査基準は別途申合せで定める。

(判定)

第 8 条 審査の判定は、出席委員の 3 分の 2 以上の合意によるものとし、次に挙げる表示により行う。

- (ア) 承認
 - (イ) 修正の勧告
 - (ウ) 再申請の勧告
 - (エ) 不承認
 - (オ) 非該当
- 2 委員が申請者である場合、当該委員は審査の審議及び判定に加わることができない。

(申請および審査の付託)

第 9 条 研究計画の承認を受けようとする者は、事前に別紙様式 1 により申請書を文学研究科長に提出するものとする。

- 2 文学研究科長は当該研究計画の審査を委員会に速やかに付託するものとする。

(審査結果)

第 10 条 委員長は、審査終了後審査結果を別紙様式 2 により文学研究科長に答申しなければならない。

- 2 前項の答申をするに当たり、審査の判定が第 8 条第 1 項 (イ) ~ (オ) の一つに該当する場合は、理由等を記載しなければならない。
- 3 審査の判定が第 8 条第 1 項 (イ) ~ (オ) の一つに該当する場合、文学研究科長は、審査結果を別紙様式 3 により速やかに申請者に通知しなければならない。
- 4 審査の判定が第 8 条第 1 項 (ア) に該当する場合、文学研究科長は、別紙様式 3 の審査結果通知書および別紙様式 4 の研究計画承認書につき、幹事を通じて速やかに決裁の処理を行い、審査結果通知書および研究計画承認書を申請者に交付するものとする。なお、研究計画承認書には承認された研究計画書 (一式) の写しを添付するものとする。
- 5 審査経過及び審査結果は記録として保持し公表しない。ただし、文学研究科長は、特に必要と認め、申請者・委員会及び関係者の同意を得た場合は、審査経過及び審査結果の内容を公表することができる。

(修正の勧告を受けての再審査依頼)

第 11 条 前条第 2 項により、第 8 条第 1 項の (イ) の修正の勧告の通知を受けた申請者は、研究計画の適切な修正を行ったうえで、別紙様式 5 により、文学研究科長に研究計画の再審査の依頼申請を行うことができる。

- 2 文学研究科長は当該研究計画の再審査を委員会に速やかに付託するものとする。
- 3 再審査についても第 7 条、第 8 条、第 10 条を適用する。

(再申請の勧告を受けての再審査請求)

第 12 条 前条第 2 項により、第 8 条第 1 項の (ウ) の再申請の勧告の通知を受けた申請者は、研究計画の適切な変更もしくは見直しを行ったうえで、再度申請することができる。

2 2 回目以降の申請についても第 7 条、第 8 条、第 9 条、第 10 条を適用する。

(審査結果に対する異議申し立て)

第 13 条 申請者は、別紙様式 3 に記載された判定に異議ある場合、別紙様式 6 により文学研究科長に対して再審査を 1 度だけ請求できる。

2 第 1 項により再審査の請求があった場合、文学研究科長は委員会に対し再審査を速やかに付託しなければならない。

3 第 2 項により再審査を付託する際、文学研究科長は委員会外部オブザーバーを少なくとも 1 名指名し、再審査の過程に立ち会わせる指示を出さなければならない。

4 第 2 項により再審査の付託があった場合、委員会は速やかに再審査を行わなければならない。

5 第 4 項により再審査を行う際に、委員会は必要に応じて、申請者に対して聞き取りを行うことができる。

6 第 4 項により再審査を行う際に、委員会は必要に応じて、関連する研究分野における有識者の意見を対面ないし書面で求めることができる。

7 第 6 項による有識者の推薦は申請者も行うことができる。委員会はそれに対して可能な限り配慮しなければならない。

8 再審査終了後、委員長は速やかに再審査の結果を別紙様式 7 により文学研究科長に答申しなければならない。

9 第 8 項の答申を受けて、文学研究科長は別紙様式 8 により再審査結果を申請者に速やかに通知しなければならない。ただし、再審査結果が第 8 条第 1 項の (ア) 承認の場合、文学研究科長は第 10 条第 4 項に準じ、審査結果通知書および研究計画承認書を申請者に交付するものとする。

10 異議申し立ての手順や再審査の手順については別途申合せで定める。

(実施計画の変更)

第 14 条 申請者は、承認された実施計画を大幅に変更しようとするときは、別紙様式 9 により遅滞なく文学研究科長に届け出るものとする。

2 文学研究科長は、前項の届出について、必要があると認めるときは、当該変更に係わる実施計画について、改めて審査の手続をとるものとする。

(幹事)

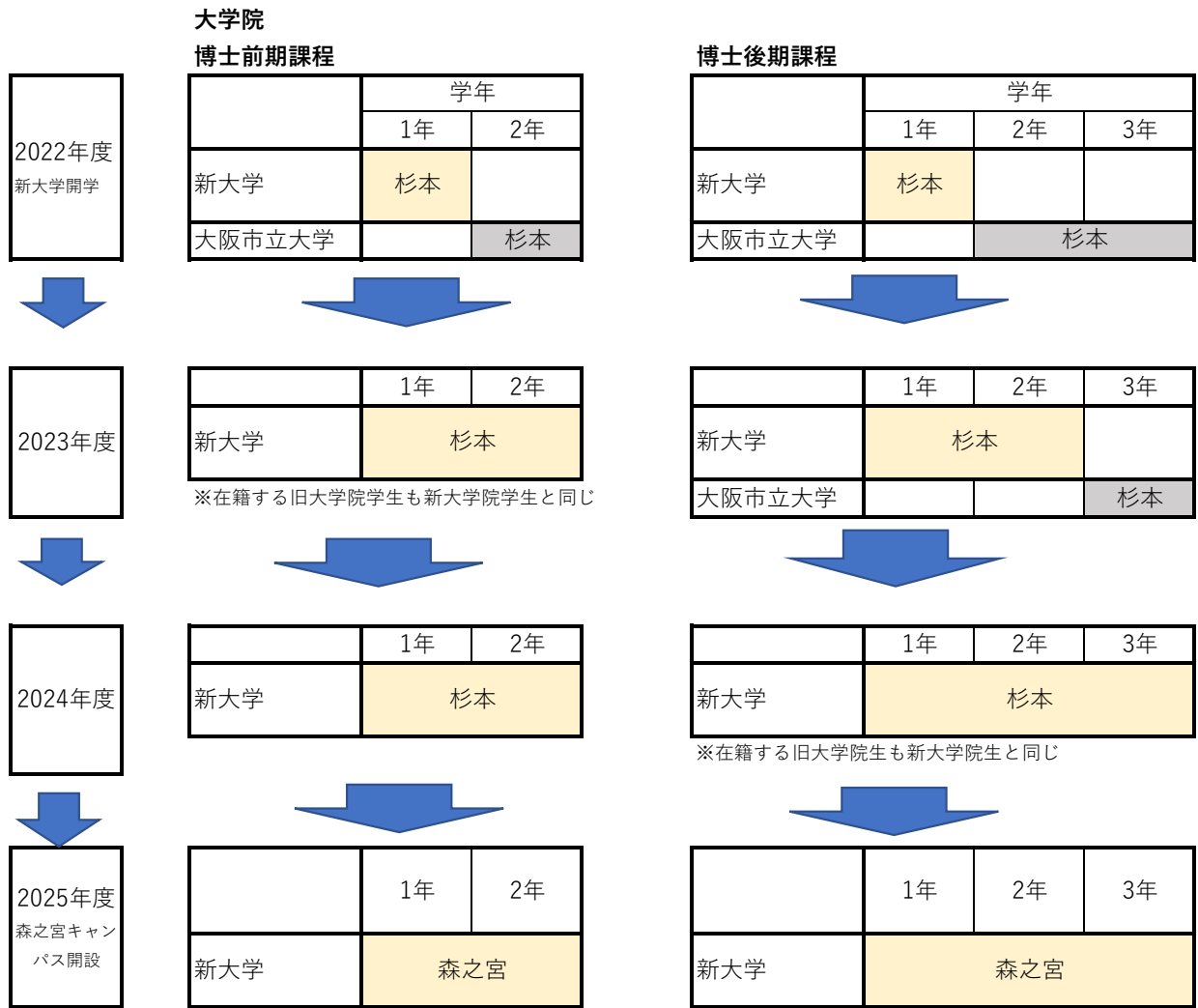
第 15 条 委員会に幹事を置き、文学研究科担当の事務職員をもってあてる。

(雑則)

第 16 条 この内規に定めるもののほか、この内規の実施にあたり必要な事項は、委員会が定める。

文学研究科キャンパスの遷移

新大学 新キャンパス整備に伴う校地（教育実施場所）遷移について



文学研究科 哲学歴史学専攻(博士前期課程) カリキュラムマップ

【設置の趣旨】
予断不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会では、これまで人類はどのようにして危機に直面しそれをどう乗り越えてきたかを分析し、持続可能な社会を志向する倫理観、価値観を考察していくことが一層重要となる。そこで求められるのが、人間と文化に対する新たなもの見方と方法に対する原理的反省である。哲史と歴史学は諸学の基礎としての役割を共有しており、哲学的観点と歴史的観点は人間理解のための2つの基本的な存在軸とと言える。深く変動する時代潮流のなかで、人間文化の本質とその普遍的価値を捉え、さらにその変化の意味と方向性を洞察する能力が切実に求められており、哲学と歴史学(日本史学・東洋史学・西洋史学)の学問的追究を行う研究養成が強く希求される。
このよう理由から本専攻を設置する。

【養成する人材像】
文学研究科では、予断不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会において、自分のよきや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。その際、人文科学や行動科学の分野における研究者の養成を主軸としながらも、とくに博士前期課程では、地域教育に貢献し、都市が抱えるさまざまな問題の解決に 대응する高度専門職業人の養成や、生涯学習への意欲をもち、国際社会・地域社会においてさまざまな文化的活動を行うことのできる高度教職人の養成も視野に入れた人材養成を行う。
とくに哲学歴史学専攻では、人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求することを目的とする。人間文化の基礎を研究する哲学・歴史学を統合した教育研究体制を備えることで、人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにすることを旨とする。専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人を養成する。

Table with 5 columns: アドミッション・ポリシー, カリキュラム・ポリシー, 教育課程, ディプロマ・ポリシー, 修了後の進路. It outlines the admission requirements, curriculum structure (1st and 2nd year), graduation requirements (2 years of study, 31 credits), and career paths for graduates.

Table for Philosophy Major (哲学専攻). It details the curriculum flow from admission to graduation, including specific courses like 'Humanity and Culture' and 'Philosophy of Education', and lists potential career paths such as university professor, public servant, and researcher.

Table for Japanese History Major (日本史学専攻). It details the curriculum flow, including courses like 'History of Japan' and 'History of Education', and lists career paths such as university professor, public servant, and researcher.

Table for Eastern History Major (東洋史学専攻). It details the curriculum flow, including courses like 'History of East Asia' and 'History of Education', and lists career paths such as university professor, public servant, and researcher.

Table for Western History Major (西洋史学専攻). It details the curriculum flow, including courses like 'History of Europe' and 'History of Education', and lists career paths such as university professor, public servant, and researcher.

文学研究科 人間行動学専攻(博士前期課程) カリキュラムマップ

【設置の趣旨】
 あくまで人間を中心として、一人一人が他者との関わりの中で「幸せ」や「豊かさ」を追求できる社会の中では、他者を思いやり、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材が求められる。その一次に対応するのが、社会学、心理学、教育学、地理学を基盤とする総合的・学際的な人間行動学専攻である。
 社会学は、人間の社会生活の仕組み、心理学は人間の行動とそれを支える心の働き、教育学は人間の発達と教育の働きかけとの関係、地理学は地域性や環境の形成に対する人間の働きかけをそれぞれに研究するもの。それらは、ともに人間の行動の諸側面を対象とし、それらを観察・調査・実験・フィールドワークの科学的手法に基づいて実証的に明らかにすることを旨とする。このよう学際的・学際的の追求を行う研究者の養成が予測不可能な時代、グローバル社会において強く求められる。このよう理由から本専攻を設置する。

【養成する人材像】
 文学研究科では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会において、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら豊かな社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。その間、人文科学や行動科学における研究者の養成を主眼としながらも、とくに博士前期課程では、地域の教育に貢献し、都市が抱えるさまざまな問題の解決に応える高度専門職業人の養成や、生涯学習への意欲をもち、国際社会・地域社会においてさまざまな文化的活動を担うことのできる高度教養人養成に視野を入れた人材養成を行う。
 とくに人間行動学専攻では、人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化問題など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、学際的に捉えることを目的とする。フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基盤に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化を重視する。人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養し、研究職のみならず、高度な専門的知識と技術をもった人材を養成する。

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教育課程		ディプロマ・ポリシー	修了後の進路
以下の学生を求める。	共通教育科目、専攻共通科目、分野専門科目、研究指導科目を置く	【共通】 必修：必修科目 ①甲：選択必修科目 ②甲：自由選択科目	緑色：基礎科目 赤色：応用科目 黄色：専攻科目	2年以上在学し、別途定める31単位以上を修得するとともに、学位論文の審査および試験に合格しなければならない。	現実の社会や人間を客観的に観察する能力や研究者としての能力や高度な専門的知識と技術をもった専門職業人としての能力を涵養して社会に貢献する。
		1年次	2年次		
社会学専修 ・社会学に関する先端的知識と方法を身に付ける意欲を持ち、独自の研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・社会学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組み意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・社会学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外に様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P ① 人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化問題など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉える研究力を身に付けさせる。また、フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基盤に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化できる研究力を身に付けさせる。それらのために人間行動学共通科目と社会学の分野専門科目を配置する。D P ①	【専攻共通科目】 ①人間行動学研究 A ②人間行動学研究 B 【分野専門科目】 ③社会学基礎問題研究 A ④社会学基礎問題研究 B ⑤社会学基礎問題研究 C ⑥社会学基礎問題研究 D ⑦社会学基礎問題研究 E ⑧社会学基礎問題研究 F ⑨社会学基礎問題研究 G ⑩社会学基礎問題研究 H ⑪社会学基礎問題研究 I ⑫社会学基礎問題研究 J ⑬社会学基礎問題研究 K ⑭社会学基礎問題研究 L ⑮社会学基礎問題研究 M ⑯社会学基礎問題研究 N ⑰社会学基礎問題研究 O ⑱社会学基礎問題研究 P ⑲社会学基礎問題研究 Q ⑳社会学基礎問題研究 R ㉑社会学基礎問題研究 S ㉒社会学基礎問題研究 T ㉓社会学基礎問題研究 U ㉔社会学基礎問題研究 V ㉕社会学基礎問題研究 W ㉖社会学基礎問題研究 X ㉗社会学基礎問題研究 Y ㉘社会学基礎問題研究 Z		D P ① 社会学の探究をとおして、人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化問題など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉える能力を習得している。C P ①	社会学の専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学院進学（博士後期課程）、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）
	C P ② 人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養する。そのために分野専門科目の総合研究演習科目および研究指導科目を配置する。D P ②	【分野専門科目】 ①社会学総合研究演習 1 ②社会学総合研究演習 2	【研究指導科目】 ③社会学研究指導 1 ④社会学研究指導 2	D P ② フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基盤に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化できる能力を習得している。C P ②	学校事務（大学、教育委員会）、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）
	C P ③ 研究職のみならず、高度な専門的知識と技術をもった人材になるための研究力を身に付けさせる。そのために文学研究科共通科目および全学の大学院共通教育科目を配置する。D P ③	【共通教育科目】 ①総合公正 A ②人間問題論		D P ③ 人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養し、研究者としての能力を習得させ、また、口度な専門的知識と技術をもった専攻職業者としての能力を習得している。C P ③	
心理学専修 ・心理学に関する先端的知識と方法を身に付ける意欲を持ち、独自の研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・心理学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組み意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・心理学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外に様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P ① 人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化問題など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉える研究力を身に付けさせる。また、フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基盤に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化できる研究力を身に付けさせる。それらのために人間行動学共通科目と心理学の分野専門科目を配置する。D P ①	【専攻共通科目】 ①人間行動学研究 A ②人間行動学研究 B 【分野専門科目】 ③心理学基礎問題研究 A ④心理学基礎問題研究 B ⑤心理学基礎問題研究 C ⑥心理学基礎問題研究 D ⑦心理学基礎問題研究 E ⑧心理学基礎問題研究 F ⑨心理学基礎問題研究 G ⑩心理学基礎問題研究 H ⑪心理学基礎問題研究 I ⑫心理学基礎問題研究 J ⑬心理学基礎問題研究 K ⑭心理学基礎問題研究 L ⑮心理学基礎問題研究 M ⑯心理学基礎問題研究 N ⑰心理学基礎問題研究 O ⑱心理学基礎問題研究 P ⑲心理学基礎問題研究 Q ⑳心理学基礎問題研究 R ㉑心理学基礎問題研究 S ㉒心理学基礎問題研究 T ㉓心理学基礎問題研究 U ㉔心理学基礎問題研究 V ㉕心理学基礎問題研究 W ㉖心理学基礎問題研究 X ㉗心理学基礎問題研究 Y ㉘心理学基礎問題研究 Z		D P ① 心理学の探究をとおして、人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化問題など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉える能力を習得している。C P ①	心理学の専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学院進学（博士後期課程）、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）
	C P ② 人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養する。そのために分野専門科目の総合研究演習科目および研究指導科目を配置する。D P ②	【分野専門科目】 ①心理学総合研究演習 1 ②心理学総合研究演習 2	【研究指導科目】 ③心理学研究指導 1 ④心理学研究指導 2	D P ② フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基盤に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化できる能力を習得している。C P ②	学校事務（大学、教育委員会）、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）
	C P ③ 研究職のみならず、高度な専門的知識と技術をもった人材になるための研究力を身に付けさせる。そのために文学研究科共通科目および全学の大学院共通教育科目を配置する。D P ③	【共通教育科目】 ①総合公正 A ②Academic Writing ③Academic Presentation		D P ③ 人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養し、研究者としての能力を習得させ、また、口度な専門的知識と技術をもった専攻職業者としての能力を習得している。C P ③	
教育学専修 ・教育学に関する先端的知識と方法を身に付ける意欲を持ち、独自の研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・教育学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組み意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・教育学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外に様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P ① 人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化問題など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉える研究力を身に付けさせる。また、フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基盤に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化できる研究力を身に付けさせる。それらのために人間行動学共通科目と教育学の分野専門科目を配置する。D P ①	【専攻共通科目】 ①人間行動学研究 A ②人間行動学研究 C 【分野専門科目】 ③教育学基礎問題研究 A ④教育学基礎問題研究 B ⑤教育学基礎問題研究 C ⑥教育学基礎問題研究 D ⑦教育学基礎問題研究 E ⑧教育学基礎問題研究 F ⑨教育学基礎問題研究 G ⑩教育学基礎問題研究 H ⑪教育学基礎問題研究 I ⑫教育学基礎問題研究 J ⑬教育学基礎問題研究 K ⑭教育学基礎問題研究 L ⑮教育学基礎問題研究 M ⑯教育学基礎問題研究 N ⑰教育学基礎問題研究 O ⑱教育学基礎問題研究 P ⑲教育学基礎問題研究 Q ⑳教育学基礎問題研究 R ㉑教育学基礎問題研究 S ㉒教育学基礎問題研究 T ㉓教育学基礎問題研究 U ㉔教育学基礎問題研究 V ㉕教育学基礎問題研究 W ㉖教育学基礎問題研究 X ㉗教育学基礎問題研究 Y ㉘教育学基礎問題研究 Z		D P ① 教育学の探究をとおして、人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化問題など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉える能力を習得している。C P ①	教育学の専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学院進学（博士後期課程）、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）
	C P ② 人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養する。そのために分野専門科目の総合研究演習科目および研究指導科目を配置する。D P ②	【分野専門科目】 ①教育学総合研究演習 1 ②教育学総合研究演習 2	【研究指導科目】 ③教育学研究指導 1 ④教育学研究指導 2	D P ② フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基盤に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化できる能力を習得している。C P ②	学校事務（大学、教育委員会）、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）
	C P ③ 研究職のみならず、高度な専門的知識と技術をもった人材になるための研究力を身に付けさせる。そのために文学研究科共通科目および全学の大学院共通教育科目を配置する。D P ③	【共通教育科目】 ①総合公正 A		D P ③ 人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養し、研究者としての能力を習得させ、また、口度な専門的知識と技術をもった専攻職業者としての能力を習得している。C P ③	
地理学専修 ・地理学に関する先端的知識と方法を身に付ける意欲を持ち、独自の研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・地理学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組み意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・地理学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外に様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P ① 人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化問題など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉える研究力を身に付けさせる。また、フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基盤に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化できる研究力を身に付けさせる。それらのために人間行動学共通科目と地理学の分野専門科目を配置する。D P ①	【専攻共通科目】 ①人間行動学研究 A ②人間行動学研究 D 【分野専門科目】 ③地理学基礎問題研究 A ④地理学基礎問題研究 B ⑤地理学基礎問題研究 C ⑥地理学基礎問題研究 D ⑦地理学基礎問題研究 E ⑧地理学基礎問題研究 F ⑨地理学基礎問題研究 G ⑩地理学基礎問題研究 H ⑪地理学基礎問題研究 I ⑫地理学基礎問題研究 J ⑬地理学基礎問題研究 K ⑭地理学基礎問題研究 L ⑮地理学基礎問題研究 M ⑯地理学基礎問題研究 N ⑰地理学基礎問題研究 O ⑱地理学基礎問題研究 P ⑲地理学基礎問題研究 Q ⑳地理学基礎問題研究 R ㉑地理学基礎問題研究 S ㉒地理学基礎問題研究 T ㉓地理学基礎問題研究 U ㉔地理学基礎問題研究 V ㉕地理学基礎問題研究 W ㉖地理学基礎問題研究 X ㉗地理学基礎問題研究 Y ㉘地理学基礎問題研究 Z		D P ① 地理学の探究をとおして、人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化問題など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉える能力を習得している。C P ①	地理学の専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学院進学（博士後期課程）、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）
	C P ② 人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養する。そのために分野専門科目の総合研究演習科目および研究指導科目を配置する。D P ②	【分野専門科目】 ①地理学総合研究演習 1 ②地理学総合研究演習 2	【研究指導科目】 ③地理学研究指導 1 ④地理学研究指導 2	D P ② フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基盤に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化できる能力を習得している。C P ②	学校事務（大学、教育委員会）、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）
	C P ③ 研究職のみならず、高度な専門的知識と技術をもった人材になるための研究力を身に付けさせる。そのために文学研究科共通科目および全学の大学院共通教育科目を配置する。D P ③	【共通教育科目】 ①総合公正 A		D P ③ 人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養し、研究者としての能力を習得させ、また、口度な専門的知識と技術をもった専攻職業者としての能力を習得している。C P ③	

文学研究科 言語文化学専攻(博士前期課程) カリキュラムマップ 1/2

【設置の趣旨】

予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会において、自分のよさや可能性を認識すること、そして、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるためには、人類の歴史的営為の遺産である文化を、言語を通じて根源的に解明することが極めて重要であり、そのニーズに応えるのが言語文化学専攻である。
 グローバルな社会であるからこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生とがともに、日語国文学、中国語中国文学、英語英米文学、ドイツ語圏言語文化学、フランス語圏言語文化学、言語応用学、それぞれの言語、文学、文化および社会という視点から学問的な追究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造することを可能とする研究者の養成が強く求められている。
 このような理由から本専攻を設置する。

【養成する人材像】

文学研究科では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会において、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。その際、人文科学や行動科学の分野における研究者の養成を主軸としながらも、とくに博士前期課程では、地域の教育に貢献し、都市が抱えるさまざまな問題の解決に応えうる高度専門職業人の養成や、生涯学習への意欲をもち、国際社会・地域社会においてさまざまな文化的活動を行うことのできる高度教養人の養成も視野に入れた人材養成を行う。
 とくに言語文化学専攻では、言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明することを目的とする。従来の言語単位の専門分野と、言語応用学という言語横断的分野とを合わせ、都市化、情報化、国際化の時代にふさわしい教育研究を実現する。さらに西洋古典学、エリアスタディーズなどの分野をも含めた総合的な言語文化学を修得させることで、鋭い言語感覚と言語運用能力を備えて、研究者、専門職業人を問わず国際社会において活躍し得る人材を養成する。

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教育課程		ディプロマ・ポリシー	修了後の進路
以下の学生を求める。	共通教育科目、専攻共通科目、分野専門科目、研究指導科目を置く	【凡例】 ※印：必修科目 ◎印：選択必修科目 ○印：自由選択科目	緑色：基礎科目 赤色：応用科目 青色：発展科目	2年以上在学し、別途定める31単位以上を修得するとともに、学位論文の審査および試験に合格しなければならない。	鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を発揮して社会に貢献する。
		1年次	2年次		

国語国文学専修	カリキュラム	1年次	2年次	ディプロマ	進路
・国語国文学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・国語国文学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・国語国文学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を行う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P①日本語の言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する研究力を身に付けさせる。そのために言語文化学専攻共通科目と国語国文学の分野専門科目を配置する。D P① C P②日本語を中心とした各言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい研究力を身に付けさせる。そのために分野専門科目の総合研究演習科目および研究指導科目を配置する。D P② C P③鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材になるための研究力を身に付けさせる。そのために文学研究科共通科目および全学の大学院共通教育科目を配置する。D P③	【専攻共通科目】 ◎言語文化学研究A ◎言語文化学研究D 【分野専門科目】 ◎国文学研究A ◎国文学研究演習A ◎国文学研究B ◎国文学研究演習B ◎国文学研究C ◎国文学研究演習C ◎国文学研究D ◎国語学研究 【分野専門科目】 ◎国語国文学総合研究演習1 ◎国語国文学総合研究演習2 【共通教育科目】 ※研究公正A	【専攻共通科目】 ◎言語文化学研究A ◎言語文化学研究D 【分野専門科目】 ◎中国語中国文学研究 ◎中国語中国文学研究演習 ◎中国語研究 ◎中国語研究演習 ◎中国語学 ◎中国語学研究演習 ◎中国語学総合研究演習1 ◎中国語中国文学総合研究演習2 【研究指導科目】 ◎中国語国文学研究指導1 ◎中国語国文学研究指導2	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。C P① D P② 日本語を中心とした言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。C P② D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。C P③	国語国文学の専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学院進学（博士後期課程）、 中学・高等学校教員（国語、外国語）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、 外資系企業（商社、メーカー等）

中国語中国文学専修	カリキュラム	1年次	2年次	ディプロマ	進路
・中国語中国文学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・中国語中国文学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・中国語中国文学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を行う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P①中国語の言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する研究力を身に付けさせる。そのために言語文化学専攻共通科目と中国語中国文学の分野専門科目を配置する。D P① C P②中国語を中心とした各言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい研究力を身に付けさせる。そのために分野専門科目の総合研究演習科目および研究指導科目を配置する。D P② C P③鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材になるための研究力を身に付けさせる。そのために文学研究科共通科目および全学の大学院共通教育科目を配置する。D P③	【専攻共通科目】 ◎言語文化学研究A ◎言語文化学研究D 【分野専門科目】 ◎中国語中国文学研究 ◎中国語中国文学研究演習 ◎中国語研究 ◎中国語研究演習 ◎中国語学 ◎中国語学研究演習 ◎中国語学総合研究演習1 ◎中国語中国文学総合研究演習2 【研究指導科目】 ◎中国語国文学研究指導1 ◎中国語国文学研究指導2	【専攻共通科目】 ◎言語文化学研究A ◎言語文化学研究D 【分野専門科目】 ◎国文学研究A ◎国文学研究演習A ◎国文学研究B ◎国文学研究演習B ◎国文学研究C ◎国文学研究演習C ◎国文学研究D ◎国語学研究 【分野専門科目】 ◎国語国文学総合研究演習1 ◎国語国文学総合研究演習2 【共通教育科目】 ※研究公正A	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。C P① D P② 中国語を中心とした言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。C P② D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。C P③	中国語中国文学の専門的知見を基盤として以下の分野で社会に貢献する 大学院進学（博士後期課程）、 中学・高等学校教員（国語、外国語）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、 外資系企業（商社、メーカー等）

英語英米文学専修	カリキュラム	1年次	2年次	ディプロマ	進路
・英語英米文学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・英語英米文学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・英語英米文学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を行う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P①英語の言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する研究力を身に付けさせる。そのために言語文化学専攻共通科目と英語英米文学の分野専門科目を配置する。D P① C P②英語を中心とした各言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい研究力を身に付けさせる。そのために分野専門科目の総合研究演習科目および研究指導科目を配置する。D P② C P③鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材になるための研究力を身に付けさせる。そのために文学研究科共通科目および全学の大学院共通教育科目を配置する。D P③	【専攻共通科目】 ◎言語文化学研究D 【分野専門科目】 ◎英文学研究A ◎英文学研究演習A ◎英文学研究B ◎英文学研究演習B ◎英文学研究C ◎英文学研究演習C ◎英米文化学研究 ◎英米文化学研究演習 【分野専門科目】 ◎英語英米文化総合研究演習1 ◎英語英米文化総合研究演習2 【研究指導科目】 ◎英語英米文学研究指導1 ◎英語英米文学研究指導2	【専攻共通科目】 ◎言語文化学研究A ◎言語文化学研究D 【分野専門科目】 ◎中国語中国文学研究 ◎中国語中国文学研究演習 ◎中国語研究 ◎中国語研究演習 ◎中国語学 ◎中国語学研究演習 ◎中国語学総合研究演習1 ◎中国語中国文学総合研究演習2 【研究指導科目】 ◎中国語国文学研究指導1 ◎中国語国文学研究指導2	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。C P① D P② 英語を中心とした言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。C P② D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。C P③	英語英米文学の専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学院進学（博士後期課程）、 中学・高等学校教員（国語、外国語）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、 外資系企業（商社、メーカー等）

文学研究科 言語文化学専攻 (博士前期課程) カリキュラムマップ 2/2

<p>【設置の趣旨】</p> <p>予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会において、自分のよさや可能性を認識すること、そして、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるためには、人類の歴史的営みの所産である文化を、言語を通じて根源的に解明することが極めて重要であり、そのニーズに応えるのが言語文化学専攻である。</p> <p>グローバルな社会であるからこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生とがともに、国語国文学、中国語中国文学、英語英米文学、ドイツ語圏言語文化学、フランス語圏言語文化学、言語応用学、それぞれの言語、文学、文化および社会という視点から学問的な追究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造することを可能とする研究者の養成が強く求められている。</p> <p>このよう理由から本専攻を設置する。</p>	<p>【養成する人材像】</p> <p>文学研究科では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会において、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。その際、人文科学や行動科学の分野における研究者の養成を主軸としながらも、とくに博士前期課程では、地域の教育に貢献し、都市が抱えるさまざまな問題の解決に応える高度専門職業人の養成や、生涯学習への意欲をもち、国際社会・地域社会においてさまざまな文化の活動を担うことのできる高度教養人の養成も視野に入れた人材養成を行う。</p> <p>とくに言語文化学専攻では、言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明することを目的とする。従来の言語単位の専門分野と、言語応用学という言語横断的分野とを合わせ、都市化、情報化、国際化の時代にふさわしい教育研究を実現する。さらに西洋古典学、エアスタディーズなどの分野をも含めた総合的な言語文化学を修得させることで、鋭い言語感覚と言語運用能力を備えて、研究者、専門職業人を問わず国際社会において活躍し得る人材を養成する。</p>
--	--

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教育課程		ディプロマ・ポリシー	修了後の進路
以下の学生を求める。	共通教育科目、専攻共通科目、分野専門科目、研究指導科目を置く	【凡例】 ※印：必修科目 ◎印：選択必修科目 ○印：自由選択科目 1年次	緑色：基礎科目 赤色：応用科目 青色：発展科目 2年次	2年以上在学中、別途定める31単位以上を修得するとともに、学位論文の審査および試験に合格しなければならない。	鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を発揮して社会に貢献する。

ドイツ語圏言語文化学専攻 <ul style="list-style-type: none"> ドイツ語圏言語文化学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ドイツ語圏言語文化学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ドイツ語圏言語文化学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。 	<ul style="list-style-type: none"> C P①ドイツ語の言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する研究力を身に付けさせる。そのために言語文化学専攻共通科目とドイツ語圏言語文化学の分野専門科目を配置する。 D P① C P②ドイツ語を中心とした各言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい研究力を身に付けさせる。そのために分野専門科目の総合研究演習科目および研究指導科目を配置する。 D P② C P③鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材になるための研究力を身に付けさせる。そのために文学研究科共通科目および全学の大学院共通教育科目を配置する。 D P③ 	【専攻共通科目】 ◎言語文化学研究A 【分野専門科目】 ◎ドイツ語圏言語文化研究 ◎ドイツ語圏文学研究A ◎ドイツ語圏文学研究B ◎ドイツ語圏文学研究演習B ◎ドイツ語学研究 ◎ドイツ語学研究演習 ◎ドイツ語圏文化学研究 ◎ドイツ語圏文化学研究演習	【専攻共通科目】 ◎言語文化学研究B 【分野専門科目】 ◎ヨーロッパ言語文化研究 ◎地域社会文化学研究A 【研究指導科目】 ◎ドイツ語圏言語文化学研究指導1 ◎ドイツ語圏言語文化学研究指導2	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P① D P② ドイツ語を中心とした言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P② D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	ドイツ語圏言語文化学の専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学院進学（博士後期課程）、 中学・高等学校教員（国語、外国語）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、 外資系企業（商社、メーカー等）
--	--	--	---	--	---

フランス語圏言語文化学専攻 <ul style="list-style-type: none"> フランス語圏言語文化学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 フランス語圏言語文化学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 フランス語圏言語文化学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。 	<ul style="list-style-type: none"> C P①フランス語の言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する研究力を身に付けさせる。そのために言語文化学専攻共通科目とフランス語圏言語文化学の分野専門科目を配置する。 D P① C P②フランス語を中心とした各言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい研究力を身に付けさせる。そのために分野専門科目の総合研究演習科目および研究指導科目を配置する。 D P② C P③鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材になるための研究力を身に付けさせる。そのために文学研究科共通科目および全学の大学院共通教育科目を配置する。 D P③ 	【専攻共通科目】 ◎言語文化学研究A 【分野専門科目】 ◎フランス語圏言語文化研究 ◎フランス語圏文学研究A ◎フランス語圏文学研究演習B ◎フランス語学研究A ◎フランス語学研究演習B ◎フランス語圏文化学論A ◎フランス語圏文化学論B ◎多文化学研究 ◎地域社会文化学研究B	【専攻共通科目】 ◎言語文化学研究B 【分野専門科目】 ◎フランス語圏言語文化学研究指導1 ◎フランス語圏言語文化学研究指導2	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P① D P② フランス語を中心とした言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P② D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	フランス語圏言語文化学の専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学院進学（博士後期課程）、 中学・高等学校教員（国語、外国語）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、 外資系企業（商社、メーカー等）
---	---	--	---	---	--

言語応用学専攻 <ul style="list-style-type: none"> 言語応用学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 言語応用学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 言語応用学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。 	<ul style="list-style-type: none"> C P①言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する研究力を身に付けさせる。そのために言語文化学専攻共通科目と言語応用学の分野専門科目を配置する。 D P① C P②各言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい研究力を身に付けさせる。そのために分野専門科目の総合研究演習科目および研究指導科目を配置する。 D P② C P③鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材になるための研究力を身に付けさせる。そのために文学研究科共通科目および全学の大学院共通教育科目を配置する。 D P③ 	【専攻共通科目】 ◎言語文化学研究A ◎言語文化学研究B ◎言語文化学研究C ◎言語文化学研究D 【分野専門科目】 ◎言語応用学研究A ◎言語応用学研究演習A ◎言語応用学研究B ◎言語応用学研究演習B ◎言語応用学研究C ◎言語応用学研究演習C ◎言語応用学研究D ◎言語応用学研究演習D	【研究指導科目】 ◎言語応用学研究指導1 ◎言語応用学研究指導2	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P① D P② 各言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P② D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	言語応用学の専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学院進学（博士後期課程）、 中学・高等学校教員（国語、外国語）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、 外資系企業（商社、メーカー等）
---	--	--	---	---	--

文学研究科 文化構想学専攻(博士前期課程) カリキュラムマップ

【設置の趣旨】

文化構想専攻は、文化を積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高め、文化をもって21世紀型成熟社会における諸課題の解決をはかることのできる研究者を養成する。従来の文化研究においては、文化はあくまでも研究対象であり、それを活用するという視点は必ずしも重視されてこなかった。それには、さまざまな場面で活用される文化や文化的コンテンツに関する研究、日本を含めたアジア地域における文化活用の実際についての比較研究、実践的・課題解決的な文化活用の方策についての研究等の観点から、文化や文化的コンテンツの表現そのものから社会的活用に至るまでの一連の過程について、教育、研究を進めていく。

文化の社会的活用について修得した専門人材は、従来の人文系諸分野においては今後の必要性に比して必ずしも十分に輩出されてきたとは言いがたい。ビジネスの素材や集客のための訴求力として、対外的なソフトパワーとして、共生的社会実現のための土台としてなど、文化が活用される場合は多岐にわたる。これらはいずれも現代社会における重要な課題となっているものであり、本専攻の研究は、現代社会の課題解決にも大きく寄与するものである。

このような理由から本専攻を設置する。

【養成する人材像】

文学研究科では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会において、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。その際、人文科学や行動科学の分野における研究者の養成を主軸としながらも、とくに博士前期課程では、地域の教育に貢献し、都市が抱えるさまざまな問題の解決に応える高度専門職業人の養成や、生涯学習への意欲をもち、国際社会・地域社会においてさまざまな文化の活動を担うことのできる高度教育者の養成も視野に入れた人材養成を行う。

とくに文化構想学専攻では、さまざまな文化や文化的現象を、社会的実践の場において積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想することを目的とする。新たな文化の創出、比較文化的・多文化共生的な認識、文化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知見を併せ持ちながら、文化や文化的現象をさまざまな課題解決に活用することができる能力を習得させる。研究者、専門職業人のいずれの進路においても、文化の活用を理論と実践の双方で牽引できる人材を養成する。

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教 育 課 程	ディプロマ・ポリシー	修了後の進路
以下の学生を求める。	共通教育科目、専攻共通科目、分野専門科目、研究指導科目を置く	【凡例】 ※印：必修科目 ◎印：選択必修科目 ○印：自由選択科目 緑色：基礎科目 赤色：応用科目 青色：発展科目	2年以上在学し、別途定める31単位以上を修得するとともに、学位論文の審査および試験に合格しなければならない。	研究者、専門職業人のいずれの進路においても、文化の活用を理論と実践の双方で牽引できる能力を発揮して社会に貢献する。
		1年次 2年次		

表現文化学専修 ・表現文化学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独自の研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・表現文化学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・表現文化学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P①さまざまな文化や文化的現象を、社会的実践の場において積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想する研究力を身に付けさせる。そのために文化構想学専攻共通科目と表現文化学の分野専門科目を配置する。 D P①	【専攻共通科目】 ◎文化構想学研究 A (表現文化) ◎文化構想学研究 B (アジア文化) 【分野専門科目】 ◎テキスト文化論研究 ◎テキスト文化論研究演習 ◎表象文化構想論研究 ◎表象文化構想論研究演習 ◎比較表現論研究 ◎比較表現論研究演習 ◎表現文化学特別講義 B ◎ポピュラー文化論研究 ◎ポピュラー文化論研究演習	D P① 表現文化学の探究をとおり、さまざまな□化や□化的現象を、社会的実践の場において積極的に活用することで□化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する□化を主導的に構想する能力を習得している。	大学院進学 (博士後期課程)、 博物館・美術館学芸員、 サービス業 (人材派遣、観光業等)、 広告代理店、 コンサルティング、 情報通信業 (マスコミ、システムエンジニアリング等)、 卸売業・小売業 (百貨店、自動車販売、雑貨販売等)、 製造業 (電気電子、自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等)
	C P②新たな文化の創出、比較文化的・多文化共生的な認識、文化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知見を併せ持ちながら、文化や文化的現象をさまざまな課題解決に活用することができる研究力を身に付けさせる。そのために分野専門科目の総合研究演習科目および研究指導科目を配置する。 D P②	【分野専門科目】 ◎表現文化学総合研究演習 1 ◎表現文化学総合研究演習 2 【研究指導科目】 ◎表現文化学研究指導 1 ◎表現文化学研究指導 2	D P② 新たな□化の創出、□化□化的・多□化共□的認識、□化の□応□的・実践的活□のそれぞれにたいする専門的知□を併せ持ちながら、□化や□化的現象をさまざまな課題解決に活用することができる能力を習得している。	サービス業 (人材派遣、観光業等)、 広告代理店、 コンサルティング、 情報通信業 (マスコミ、システムエンジニアリング等)、 卸売業・小売業 (百貨店、自動車販売、雑貨販売等)、 製造業 (電気電子、自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等)
	C P③研究者、専門職業人のいずれの進路においても、文化の活用を理論と実践の双方で牽引できる人材になるための研究力を身に付けさせる。そのために文学研究科共通科目および全学の大学院共通教育科目を配置する。 D P③	【共通教育科目】 ※研究公正 A	D P③ 研究者、専門職業□のいずれの進路においても、□化の活□を理論と実践の双□で牽引できる能力を習得している。	公務員 (国家公務員、府県庁、市役所、裁判所等)

アジア文化学専修 ・アジア文化学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独自の研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・アジア文化学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・アジア文化学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P①さまざまな文化や文化的現象を、社会的実践の場において積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想する研究力を身に付けさせる。そのために文化構想学専攻共通科目とアジア文化学の分野専門科目を配置する。 D P①	【専攻共通科目】 ◎文化構想学研究 B (アジア文化) ◎文化構想学研究 C (文化資源) 【分野専門科目】 ◎アジア文化構想学研究 ◎アジア地域文化創造論研究 ◎アジア地域文化創造論研究演習 ◎アジア共生文化政策論研究 ◎アジア共生文化政策論研究演習 ◎ポピュラー文化論研究 ◎国際文化資源論研究 ◎アジア文化学特別講義 A ◎アジア文化学特別講義 B	D P① アジア文化学の探究をとおり、さまざまな□化や□化的現象を、社会的実践の場において積極的に活用することで□化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する□化を主導的に構想する能力を習得している。	大学院進学 (博士後期課程)、 博物館・美術館学芸員、 サービス業 (人材派遣、観光業等)、 広告代理店、 コンサルティング、 情報通信業 (マスコミ、システムエンジニアリング等)、 卸売業・小売業 (百貨店、自動車販売、雑貨販売等)、 製造業 (電気電子、自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等)
	C P②新たな文化の創出、比較文化的・多文化共生的な認識、文化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知見を併せ持ちながら、文化や文化的現象をさまざまな課題解決に活用することができる研究力を身に付けさせる。そのために分野専門科目の総合研究演習科目および研究指導科目を配置する。 D P②	【分野専門科目】 ◎アジア文化学総合研究演習 1 ◎アジア文化学総合研究演習 2 【研究指導科目】 ◎アジア文化学研究指導 1 ◎アジア文化学研究指導 2	D P② 新たな□化の創出、□化□化的・多□化共□的認識、□化の□応□的・実践的活□のそれぞれにたいする専門的知□を併せ持ちながら、□化や□化的現象をさまざまな課題解決に活用することができる能力を習得している。	サービス業 (人材派遣、観光業等)、 広告代理店、 コンサルティング、 情報通信業 (マスコミ、システムエンジニアリング等)、 卸売業・小売業 (百貨店、自動車販売、雑貨販売等)、 製造業 (電気電子、自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等)
	C P③研究者、専門職業人のいずれの進路においても、文化の活用を理論と実践の双方で牽引できる人材になるための研究力を身に付けさせる。そのために文学研究科共通科目および全学の大学院共通教育科目を配置する。 D P③	【共通教育科目】 ※研究公正 A	D P③ 研究者、専門職業□のいずれの進路においても、□化の活□を理論と実践の双□で牽引できる能力を習得している。	公務員 (国家公務員、府県庁、市役所、裁判所等)

文化資源学専修 ・文化資源学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独自の研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・文化資源学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・文化資源学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P①さまざまな文化や文化的現象を、社会的実践の場において積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想する研究力を身に付けさせる。そのために文化構想学専攻共通科目と文化資源学の分野専門科目を配置する。 D P①	【専攻共通科目】 ◎文化構想学研究 A (表現文化) ◎文化構想学研究 C (文化資源) 【分野専門科目】 ◎国際文化資源論研究 ◎国際文化資源論研究演習 ◎芸術文化資源論研究 ◎芸術文化資源論研究演習 ◎文化資源学特別講義 A ◎社会実践文化資源論研究 ◎社会実践文化資源論研究演習 ◎文化資源学特別講義 B	D P① 文化資源学の探究をとおり、さまざまな□化や□化的現象を、社会的実践の場において積極的に活用することで□化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する□化を主導的に構想する能力を習得している。	大学院進学 (博士後期課程)、 博物館・美術館学芸員、 サービス業 (人材派遣、観光業等)、 広告代理店、 コンサルティング、 情報通信業 (マスコミ、システムエンジニアリング等)、 卸売業・小売業 (百貨店、自動車販売、雑貨販売等)、 製造業 (電気電子、自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等)
	C P②新たな文化の創出、比較文化的・多文化共生的な認識、文化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知見を併せ持ちながら、文化や文化的現象をさまざまな課題解決に活用することができる研究力を身に付けさせる。そのために分野専門科目の総合研究演習科目および研究指導科目を配置する。 D P②	【分野専門科目】 ◎文化資源学総合研究演習 1 ◎文化資源学総合研究演習 2 【研究指導科目】 ◎文化資源学研究指導 1 ◎文化資源学研究指導 2	D P② 新たな□化の創出、□化□化的・多□化共□的認識、□化の□応□的・実践的活□のそれぞれにたいする専門的知□を併せ持ちながら、□化や□化的現象をさまざまな課題解決に活用することができる能力を習得している。	サービス業 (人材派遣、観光業等)、 広告代理店、 コンサルティング、 情報通信業 (マスコミ、システムエンジニアリング等)、 卸売業・小売業 (百貨店、自動車販売、雑貨販売等)、 製造業 (電気電子、自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等)
	C P③研究者、専門職業人のいずれの進路においても、文化の活用を理論と実践の双方で牽引できる人材になるための研究力を身に付けさせる。そのために文学研究科共通科目および全学の大学院共通教育科目を配置する。 D P③	【共通教育科目】 ※研究公正 A ○大学院キャリアデザイン演習	D P③ 研究者、専門職業□のいずれの進路においても、□化の活□を理論と実践の双□で牽引できる能力を習得している。	公務員 (国家公務員、府県庁、市役所、裁判所等)

文学研究科 哲学歴史学専攻(博士後期課程) カリキュラムマップ

【設置の趣旨】

予測不可能な時代、高度知識社会、グローバル社会では、これまで人類はどのようにして危機に直面しそれをどう乗り越えてきたかを分析し、持続可能な社会を志向する倫理観、価値観を考察していくことが一層重要となる。そこで求められるが、人間と文化に対する新たなものの見方と方法に対する原理的反省である。哲学と歴史学は諸学の基礎としての役割を共有しており、哲学的観点と歴史的観点は人間理解のための2つの基本的な座標軸と言える。激しく変動する時代潮流のなかで、人間文化の本質とその普遍的価値を見極め、さらにその変化の意味と方向性を調整する能力が切実に求められており、哲学と歴史学(日本史学・東洋史学・西洋史学)の学問的追究を行う研究者養成が強く求められる。このような理由から本専攻を設置する。

【養成する人材像】

文学研究科の博士後期課程においては、次のような人材を養成する。
①人文科学・行動科学の最先端の研究課題を創造的に探究する高度な研究能力を備えた研究者。
②国内外の教育研究組織や機関と連携し、人文科学・行動科学の国際的、学際的な研究を主導的に推進する研究者
とくに哲学歴史学専攻では、人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求することを目的とする。人間文化の基礎を研究する哲学と歴史学を統合した教育研究体制を備えることで、人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにすることを旨とする。専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人を養成する。

アドミッション・ポリシー | カリキュラム・ポリシー | 教育課程 | ディプロマ・ポリシー | 修了後の進路

Table with 5 columns: Admissions Policy, Curriculum Policy, Education Course, Diploma Policy, Post-graduation Path. Includes details like '3年以上在学し、別途定める16単位以上を修得するとともに、学位論文の審査および試験に合格しなければならない。' and '専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力や広い知識と教養をもった専門職業人としての能力を発揮して社会に貢献する。'

Table for Philosophy Major. Columns: 1年次, 2年次, 3年次. Rows include '【分野専門科目】◎哲学特殊研究A ◎哲学特殊研究B', '【論文指導科目】◎哲学論文指導', and '【共通教育科目】◎研究公正B'. Descriptions include '哲学に関する先端的知識と方法を身に付ける意欲をもち、独自の研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。'

Table for Japanese History Major. Columns: 1年次, 2年次, 3年次. Rows include '【分野専門科目】◎日本史学特殊研究A ◎日本史学特殊研究B', '【論文指導科目】◎日本史学論文指導', and '【共通教育科目】◎研究公正B'. Descriptions include '日本史学に関する先端的知識と方法を身に付ける意欲をもち、独自の研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。'

Table for East Asian Studies Major. Columns: 1年次, 2年次, 3年次. Rows include '【分野専門科目】◎東洋史学特殊研究A ◎東洋史学特殊研究B', '【論文指導科目】◎東洋史学論文指導', and '【共通教育科目】◎研究公正B'. Descriptions include '東洋史学に関する先端的知識と方法を身に付ける意欲をもち、独自の研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。'

Table for Western History Major. Columns: 1年次, 2年次, 3年次. Rows include '【分野専門科目】◎西洋史学特殊研究A ◎西洋史学特殊研究B', '【論文指導科目】◎西洋史学論文指導', and '【共通教育科目】◎研究公正B'. Descriptions include '西洋史学に関する先端的知識と方法を身に付ける意欲をもち、独自の研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。'

文学研究科 人間行動学専攻(博士後期課程) カリキュラムマップ

【設置の趣旨】
あくまでも人間を中心として、一人一人が他者との関わりの中で「幸せ」や「豊かさ」を追求できる社会の中では、他者を思いやり、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材が求められる。そのニーズに応えるのが、社会学、心理学、教育学、地理学を基礎とする総合的・学際的な人間行動学専攻である。
社会学は、人間の社会生活の諸相、心理学は人間の行動とそれを支える心の働き、教育学は人間の発達と教育的働きかけとの関係、地理学は地域性や景観の形成に対する人間の働きかけをそれぞれに研究するものである。それらは、ともに人間の行動の諸相を対象とし、それらを観察・調査・実験・フィールドワークの科学的手法に基づいて実証的に明らかにすることを旨として共通しており、このような学問的探究を行う研究者の養成が中長期不可能時代、グローバル社会において強く希求される。このような理由から本専攻を設置する。

【養成する人材像】
文学研究科の博士後期課程においては、次のような人材を養成する。
①人文科学・行動科学の最先端の研究課題を創造的に探究する高度な研究能力を備えた研究者、
②国内外の教育研究知識や機関と連携し、人文科学・行動科学の国際的、学際的な研究を主体的に推進する研究者
とくに人間行動学専攻では、人間行動の特性や人間と社会および文化の関係、とくに社会問題、教育問題や文化環境など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、学際的に捉えることを目的とする。フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基盤に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化を重視する。人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養し、研究職のみならず、高度な専門的知識と技術をもった人材を養成する。

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教育課程			ディプロマ・ポリシー	修了後の進路
以下の学生を求める。	共通教育科目、分野専門科目、論文指導科目を置く	【九開】 ※印：必修科目 ◎印：選択必修科目	緑色：基礎科目 赤色：応用科目 黄緑：発展科目	1年次	2年次	3年次
					3年以上在学し、別途定める16単位以上を修得するとともに、学位論文の審査および試験に合格しなければならない。	専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力や広い知識と教養をもった専門職業人としての能力を發揮して社会に貢献する。

社会学専修	<p>・社会学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。</p> <p>・社会学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。</p> <p>・社会学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。</p>	<p>C P ①人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求する研究力を身に付けさせる。また、人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにする研究力を身に付けさせる。それらに、社会学の分野専門科目を配置する。 D P ①</p>	<p>【分野専門科目】 ◎社会学特殊研究A ◎社会学特殊研究B</p>				<p>D P ① 社会学の探究をおとして、□開□動の特性や□開と社会および□化の関係、とくに社会問題、教育問題や□化標準など現代社会が抱える諸問題を視野に口れて、総合的、学際的に捉える能力を習得している。 C P ①</p>	<p>社会学の高度な専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学教員、 人文関係学術的研究開発事業所、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、 コンサルティング</p>
		<p>C P ②社会学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すよう博士論文を執筆できるよう論文指導科目を配置する。 D P ②</p>	【論文指導科目】 ◎社会学論文指導	【論文指導科目】 ◎社会学論文指導	【論文指導科目】 ◎社会学論文指導	D P ② フィールドワークや実験という行動科学の□法論を基盤に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化できる能力を習得している。 C P ②		
		<p>C P ③専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人になるための研究力を身に付けさせる。そのためにも全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P ③</p>	【共通教育科目】 ※研究公正B				D P ③□開□動に関する実証的な研究□法を修得させることによって、現実の社会や□開を客観的に観察する能力を涵養し、専攻分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得している。 C P ③	

心理学専修	<p>・心理学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。</p> <p>・心理学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。</p> <p>・心理学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。</p>	<p>C P ①人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求する研究力を身に付けさせる。また、人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにする研究力を身に付けさせる。それらに、心理学の分野専門科目を配置する。 D P ①</p>	<p>【分野専門科目】 ◎心理学特殊研究A ◎心理学特殊研究B</p>				<p>D P ① 心理学の探究をおとして、□開□動の特性や□開と社会および□化の関係、とくに社会問題、教育問題や□化標準など現代社会が抱える諸問題を視野に口れて、総合的、学際的に捉える能力を習得している。 C P ①</p>	<p>心理学の高度な専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学教員、 人文関係学術的研究開発事業所、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、 コンサルティング</p>
		<p>C P ②心理学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すよう博士論文を執筆できるよう論文指導科目を配置する。 D P ②</p>	【論文指導科目】 ◎心理学論文指導	【論文指導科目】 ◎心理学論文指導	【論文指導科目】 ◎心理学論文指導	D P ② フィールドワークや実験という行動科学の□法論を基盤に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化できる能力を習得している。 C P ②		
		<p>C P ③専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人になるための研究力を身に付けさせる。そのためにも全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P ③</p>	【共通教育科目】 ※研究公正B				D P ③□開□動に関する実証的な研究□法を修得させることによって、現実の社会や□開を客観的に観察する能力を涵養し、専攻分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得している。 C P ③	

教育学専修	<p>・教育学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。</p> <p>・教育学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。</p> <p>・教育学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。</p>	<p>C P ①人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求する研究力を身に付けさせる。また、人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにする研究力を身に付けさせる。それらに、教育学の分野専門科目を配置する。 D P ①</p>	<p>【分野専門科目】 ◎教育学特殊研究A ◎教育学特殊研究B</p>				<p>D P ① 教育学の探究をおとして、□開□動の特性や□開と社会および□化の関係、とくに社会問題、教育問題や□化標準など現代社会が抱える諸問題を視野に口れて、総合的、学際的に捉える能力を習得している。 C P ①</p>	<p>教育学の高度な専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学教員、 人文関係学術的研究開発事業所、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、 コンサルティング</p>
		<p>C P ②教育学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すよう博士論文を執筆できるよう論文指導科目を配置する。 D P ②</p>	【論文指導科目】 ◎教育学論文指導	【論文指導科目】 ◎教育学論文指導	【論文指導科目】 ◎教育学論文指導	D P ② フィールドワークや実験という行動科学の□法論を基盤に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化できる能力を習得している。 C P ②		
		<p>C P ③専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人になるための研究力を身に付けさせる。そのためにも全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P ③</p>	【共通教育科目】 ※研究公正B				D P ③□開□動に関する実証的な研究□法を修得させることによって、現実の社会や□開を客観的に観察する能力を涵養し、専攻分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得している。 C P ③	

地理学専修	<p>・地理学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。</p> <p>・地理学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。</p> <p>・地理学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。</p>	<p>C P ①人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求する研究力を身に付けさせる。また、人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにする研究力を身に付けさせる。それらに、地理学の分野専門科目を配置する。 D P ①</p>	<p>【分野専門科目】 ◎地理学特殊研究A ◎地理学特殊研究B</p>				<p>D P ① 地理学の探究をおとして、□開□動の特性や□開と社会および□化の関係、とくに社会問題、教育問題や□化標準など現代社会が抱える諸問題を視野に口れて、総合的、学際的に捉える能力を習得している。 C P ①</p>	<p>地理学の高度な専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学教員、 人文関係学術的研究開発事業所、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、 コンサルティング</p>
		<p>C P ②地理学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すよう博士論文を執筆できるよう論文指導科目を配置する。 D P ②</p>	【論文指導科目】 ◎地理学論文指導	【論文指導科目】 ◎地理学論文指導	【論文指導科目】 ◎地理学論文指導	D P ② フィールドワークや実験という行動科学の□法論を基盤に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化できる能力を習得している。 C P ②		
		<p>C P ③専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人になるための研究力を身に付けさせる。そのためにも全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P ③</p>	【共通教育科目】 ※研究公正B				D P ③□開□動に関する実証的な研究□法を修得させることによって、現実の社会や□開を客観的に観察する能力を涵養し、専攻分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得している。 C P ③	

【設置の趣旨】
 予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会において、自分のよさや可能性を認識すること、そして、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるためには、人類の歴史的営為の所産である文化を、言語を通じて根源的に解明することが極めて重要であり、そのニーズに応えるのが言語文化学専攻である。
 グローバルな社会であるからこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生とがともに、国語国文学、中国語中国文学、英語英米文学、ドイツ語圏言語文化学、フランス語圏言語文化学、言語応用学、それぞれの言語、文学、文化および社会という視点から学問的な追究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造することを可能とする研究者の養成が強く求められている。
 このような理由から本専攻を設置する。

【養成する人材像】
 文学研究科の博士後期課程においては、次のような人材を養成する。
 ①人文科学・行動科学の最先端の研究課題を創造的に探究する高度な研究能力を備えた研究者。
 ②国内外の教育研究組織や機関と連携し、人文科学・行動科学の国際的、学際的な研究を主体的に推進する研究者
 とくに言語文化学専攻では、言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明することを目的とする。従来の言語圏別の専門分野と、言語応用学という言語横断的分野とを合わせ、都市化、情報化、国際化の時代にふさわしい教育研究を実現する。さらに西洋古典学、エアスタディーズなどの分野をも含めた総合的な言語文化学を修得させることで、鋭い言語感覚と言語運用能力を備えて、研究者、専門職業人問わず国際社会において活躍し得る人材を養成する。

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教育課程	ディプロマ・ポリシー	修了後の進路
以下の学生を求める。	共通教育科目、分野専門科目、論文指導科目を置く	【凡例】 ※印：必修科目 ◎印：選択必修科目 1年次 2年次 3年次	3年以上在学し、別途定める16単位以上を修得するとともに、学位論文の審査および試験に合格しなければならない。	専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力、やがて知識と教養をもった専門職業人としての能力を発揮して社会に貢献する。
・国語国文学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・国語国文学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・国語国文学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P ① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する研究力を身に付けさせる。また、日本語を中心とした各言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい研究力を身に付けさせる。それらのために、国語国文学の分野A専門科目を配置する。 D P ① C P ② 国語国文学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すような博士論文を執筆できるように論文指導科目を配置する。 D P ② C P ③ 専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人になるための研究力を身に付けさせる。そのために全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P ③	【分野専門科目】 ◎国語国文学特殊研究A ◎国語国文学特殊研究B 【論文指導科目】 ◎国語国文学論文指導 【論文指導科目】 ◎国語国文学論文指導 【論文指導科目】 ◎国語国文学論文指導 【共通教育科目】 ※研究公正B	D P ① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得させる。日本語を中核とした言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい研究者としての能力を習得している。 C P ① D P ② 鋭い言語感覚と口度な口語運口能力を備えた研究者として国際社会において活躍し得る口材に必要な能力を習得している。 C P ② D P ③ 専口分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得している。 C P ③	国語国文学の高度な専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学教員、 人文関係学術的研究開発事業所、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、 コンサルティング
・中国語中国文学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・中国語中国文学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・中国語中国文学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P ① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する研究力を身に付けさせる。また、中国語を中心とした各言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい研究力を身に付けさせる。それらのために、中国語中国文学の分野専門科目を配置する。 D P ① C P ② 中国語中国文学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すような博士論文を執筆できるように論文指導科目を配置する。 D P ② C P ③ 専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人になるための研究力を身に付けさせる。そのために全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P ③	【分野専門科目】 ◎中国語中国文学特殊研究A ◎中国語中国文学特殊研究B 【論文指導科目】 ◎中国語中国文学論文指導 【論文指導科目】 ◎中国語中国文学論文指導 【論文指導科目】 ◎中国語中国文学論文指導 【共通教育科目】 ※研究公正B	D P ① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得させる。中国語を中核とした言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい研究者としての能力を習得している。 C P ① D P ② 鋭い言語感覚と口度な口語運口能力を備えた研究者として国際社会において活躍し得る口材に必要な能力を習得している。 C P ② D P ③ 専口分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得している。 C P ③	中国語中国文学の高度な専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学教員、 人文関係学術的研究開発事業所、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、 コンサルティング
・英語英米文学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・英語英米文学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・英語英米文学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P ① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する研究力を身に付けさせる。また、英語を中心とした各言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい研究力を身に付けさせる。それらのために、国語国文学の分野専門科目を配置する。 D P ① C P ② 英語英米文学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すような博士論文を執筆できるように論文指導科目を配置する。 D P ② C P ③ 専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人になるための研究力を身に付けさせる。そのために全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P ③	【分野専門科目】 ◎英語英米文学特殊研究A ◎英語英米文学特殊研究B 【論文指導科目】 ◎英語英米文学論文指導 【論文指導科目】 ◎英語英米文学論文指導 【論文指導科目】 ◎英語英米文学論文指導 【共通教育科目】 ※研究公正B	D P ① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得させる。英語を中核とした言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい研究者としての能力を習得している。 C P ① D P ② 鋭い言語感覚と口度な口語運口能力を備えた研究者として国際社会において活躍し得る口材に必要な能力を習得している。 C P ② D P ③ 専口分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得している。 C P ③	英語英米文学の高度な専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学教員、 人文関係学術的研究開発事業所、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、 コンサルティング

文学研究科 言語文化学専攻(博士後期課程) カリキュラムマップ 2/2

【設置の趣旨】
予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよきや可能性を認識すること、そして、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるためには、人類の歴史的営為の所産である文化を、言語を通じて根拠的に解明することが極めて重要であり、そのニーズに応えるのが言語文化学専攻である。
日本に育った学生と異文化で育った学生とはともに、国際国文学、中国語中国文学、英語英米文学、ドイツ語圏言語文化学、フランス語圏言語文化学、言語応用学、それぞれの言語、文学、文化および社会という視点から学問的な追究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造することを可能とする研究者の養成が強く求められている。
このような理由から本専攻を設置する。

【養成する人材像】
文学研究科の博士後期課程においては、次のような人材を養成する。
①人文科学・行動科学の最先端の研究課題を創造的に探究する高度な研究能力を備えた研究者、
②国内外の教育研究組織と連携し、人文科学・行動科学の国際的、学際的な研究を主導的に推進する研究者
とくに言語文化学専攻では、言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化およびその関連領域を、言語を通じて根拠的に解明することを目指す。従来の言語単位の専門分野と、言語応用学という言語横断的分野とを合わせ、都市化、情報化、国際化の時代にあふく教育研究を実現する。さらに西洋古典学、エアスタディーズなどの分野をも含めた総合的な言語文化学を修得させることで、鋭い言語感覚と言語運用能力を備えて、研究者、専門職業人問わず国際社会において活躍し得る人材を養成する。

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教育課程	ディプロマ・ポリシー	修了後の進路
以下の学生を求める。	共通教育科目、分野専門科目、論文指導科目を置く	【凡例】 ※印：必修科目 ◎印：選択必修科目 緑色：基礎科目 赤色：応用科目 青色：発展科目	3年以上在学し、別途定める16単位以上を修得するとともに、学位論文の審査および試験に合格しなければならない。	専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力、やむを得ない知識と教養をもった専門職業人としての能力を発揮して社会に貢献する。
		1年次	2年次	3年次

ドイツ語圏言語文化学専修	・ドイツ語圏言語文化学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独自の研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・ドイツ語圏言語文化学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・ドイツ語圏言語文化学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P ①言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化およびその関連領域を、言語を通じて根拠的に解明する研究力を身に付けさせる。また、ドイツ語を中心とした各言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい研究力を身に付けさせる。それらのために、ドイツ語圏言語文化学の分野専門科目を配置する。 D P ①	【分野専門科目】 ◎ドイツ語圏言語文化学特殊研究A ◎ドイツ語圏言語文化学特殊研究B			D P ① □語にかかわる□化現象の諸領域、すなわち、□語学、□学、□化およびその関連領域を、□語を通じて根拠的に解明する能力を習得させる。ドイツ語を中心とした□語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、□語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい研究者としての能力を習得している。 C P ①	ドイツ語圏言語文化学の高度な専門的知見を基礎として、以下の分野で社会に貢献する 大学教員、 人文関係学術的研究開発事業所、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、 コンサルティング
		C P ②ドイツ語圏言語文化学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すような博士論文を執筆できるように論文指導科目を配置する。 D P ②	【論文指導科目】 ◎ドイツ語圏言語文化学論文指導	【論文指導科目】 ◎ドイツ語圏言語文化学論文指導	【論文指導科目】 ◎ドイツ語圏言語文化学論文指導	D P ② 鋭い□語感覚と□度な□語運□能力を備えた研究者として国際社会において活躍し得る□材に必要な能力を習得している。 C P ②	
		C P ③専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人になるための研究力を身に付けさせる。そのために全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P ③	【共通教育科目】 ※研究公正B				D P ③ 専□分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得している。 C P ③

フランス語圏言語文化学専修	・フランス語圏言語文化学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独自の研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・フランス語圏言語文化学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・フランス語圏言語文化学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P ①言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化およびその関連領域を、言語を通じて根拠的に解明する研究力を身に付けさせる。また、フランス語を中心とした各言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい研究力を身に付けさせる。それらのために、フランス語圏言語文化学の分野専門科目を配置する。 D P ①	【分野専門科目】 ◎フランス語圏言語文化学特殊研究A ◎フランス語圏言語文化学特殊研究B			D P ① □語にかかわる□化現象の諸領域、すなわち、□語学、□学、□化およびその関連領域を、□語を通じて根拠的に解明する能力を習得させる。フランス語を中心とした□語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、□語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい研究者としての能力を習得している。 C P ①	フランス語圏言語文化学の高度な専門的知見を基礎として、以下の分野で社会に貢献する 大学教員、 人文関係学術的研究開発事業所、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、 コンサルティング
		C P ②フランス語圏言語文化学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すような博士論文を執筆できるように論文指導科目を配置する。 D P ②	【論文指導科目】 ◎フランス語圏言語文化学論文指導	【論文指導科目】 ◎フランス語圏言語文化学論文指導	【論文指導科目】 ◎フランス語圏言語文化学論文指導	D P ② 鋭い□語感覚と□度な□語運□能力を備えた研究者として国際社会において活躍し得る□材に必要な能力を習得している。 C P ②	
		C P ③専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人になるための研究力を身に付けさせる。そのために全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P ③	【共通教育科目】 ※研究公正B				D P ③ 専□分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得している。 C P ③

言語応用学専修	・言語応用学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独自の研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・言語応用学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・言語応用学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P ①言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化およびその関連領域を、言語を通じて根拠的に解明する研究力を身に付けさせる。また、諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい研究力を身に付けさせる。それらのために、言語応用学の分野専門科目を配置する。 D P ①	【分野専門科目】 ◎言語応用学特殊研究A ◎言語応用学特殊研究B			D P ① □語にかかわる□化現象の諸領域、すなわち、□語学、□学、□化およびその関連領域を、□語を通じて根拠的に解明する能力を習得させる。諸□語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、□語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい研究者としての能力を習得している。 C P ①	言語応用学の高度な専門的知見を基礎として、以下の分野で社会に貢献する 大学教員、 人文関係学術的研究開発事業所、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、 コンサルティング
		C P ②国語文学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すような博士論文を執筆できるように論文指導科目を配置する。 D P ②	【論文指導科目】 ◎言語応用学論文指導	【論文指導科目】 ◎言語応用学論文指導	【論文指導科目】 ◎言語応用学論文指導	D P ② 鋭い□語感覚と□度な□語運□能力を備えた研究者として国際社会において活躍し得る□材に必要な能力を習得している。 C P ②	
		C P ③専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人になるための研究力を身に付けさせる。そのために全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P ③	【共通教育科目】 ※研究公正B				D P ③ 専□分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得している。 C P ③

文学研究科 文化構想学専攻（博士後期課程） カリキュラムマップ

【設置の趣旨】

文化構想専攻は、文化を積極的に活用することで文化の力つをさらに高め、文化をもって21世紀型成熟社会における諸課題の解決をはかることのできる研究者を養成する。従来の文化研究においては、文化はあくまでも研究対象であり、それを活用するという視点は必ずしも重視されてこなかった。それにはたいして本専攻では、さまざまな場で活用される文化や文化的コンテクストに関する研究、日本を含めたアジア地域における文化活用の実際についての比較研究、実践的・課題解決的な文化活用の方策についての研究等の観点から、文化や文化的コンテクストの表現そのものから社会的活用に至るまでの一連の過程について、教育・研究を進めていく。文化の社会的活用について修得した専門人材は、従来の人文実証分野においては今後の必要性に基いて必ずしも十分に輩出されてきたとは言いがたい。ビジネスの素材や集客のための訴求力として、対外的なソフトパワーとして、共生的社会実現のための土台としてなど、文化が活用される場は多岐にわたる。これらはいずれも現代社会における重要な課題となっているものであり、本専攻の教育・研究は、現代社会の課題解決にも大きく寄与するものである。このような理由から本専攻を設置する。

【養成する人材像】

文学研究科の博士後期課程においては、次のような人材を養成する。

- ①人文科学・行動科学の最先端の研究課題を創造的に探究する高度な研究能力を備えた研究者、
- ②国内外の教育研究組織や機関と連携し、人文科学・行動科学の国際的、学際的な研究を主導的に推進する研究者とくに文化構想学専攻では、さまざまな文化や文化の現象を、社会的実践の場において積極的に活用することで文化の力つをさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想することを目的とする。新たな文化の創出、比較文化的・多文化共生的な認識、文化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知見を併せ持ちながら、文化や文化の現象をさまざまな課題解決に活用することができる能力を習得させる。研究者、専門職業人のいずれの進路においても、文化の活用を理論と実践の双方で牽引できる人材を養成する。

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教育課程			ディプロマ・ポリシー	修了後の進路
以下の学生を求める。	共通教育科目、分野専門科目、論文指導科目を置く	【凡例】 ※印：必修科目 ◎印：選択必修科目 1年次 2年次 3年次 緑色：基礎科目 赤色：応用科目 黄色：発展科目			3年以上在学し、別途定める16単位以上を修得するとともに、学位論文の審査および試験に合格しなければならない。	文化の活用を理論と実践の双方で牽引できる研究者として、専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者として社会に貢献する。
表現文化学専修 ・表現文化に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独自の研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・表現文化の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・表現文化学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P ①さまざまな文化や文化の現象を、社会的実践の場において積極的に活用することで文化の力つをさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想する研究力を身に付けさせる。また、新たな文化の創出、比較文化的・多文化共生的な認識、文化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知見を併せ持ちながら、文化や文化の現象をさまざまな課題解決に活用することができる研究力を身に付けさせる。それらのために、表現文化学の分野専門科目を配置する。 D P ① C P ②表現文化学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すような博士論文を執筆できるように論文指導科目を配置する。 D P ② C P ③専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもちた専門職業人になるための研究力を身に付けさせる。そのため全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P ③	【分野専門科目】 ◎表現文化学特許研究A (表現文化学研究動向) ◎表現文化学特許研究B (表現文化学研究と社会) 【論文指導科目】 ◎表現文化学論文指導 【論文指導科目】 ◎表現文化学論文指導 【論文指導科目】 ◎表現文化学論文指導 【共通教育科目】 ※研究公正B			D P ① 表現文化学の探究をとおして、さまざまな□化や□化的現象を、社会的実践の場において積極的に活用することで□化の力つをさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する□化を主導的に構想する。新たな□化の創出、□化的・多文化共生的な認識、□化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知見を併せ持ちながら、□化や□化的現象をさまざまな課題解決に活用することができる□化を習得している。 C P ① D P ② □化の活口を理論と実践の双方で牽引できる研究者としての□化を習得している。 C P ② D P ③ 専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての□化を習得している。 C P ③	表現文化学の高度な専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学教員、 博物館・美術館学芸員、 人間関係学術的研究開発事業所、サービス業（人材派遣、観光業等）、 コンサルティング、 広告代理店、 情報通信業（マスコム、システムエンジニアリング等）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、裁判所等）
アジア文化学専修 ・アジア文化に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独自の研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・アジア文化の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・アジア文化学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P ①さまざまな文化や文化の現象を、社会的実践の場において積極的に活用することで文化の力つをさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想する研究力を身に付けさせる。また、新たな文化の創出、比較文化的・多文化共生的な認識、文化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知見を併せ持ちながら、文化や文化の現象をさまざまな課題解決に活用することができる研究力を身に付けさせる。それらのために、アジア文化学の分野専門科目を配置する。 D P ① C P ②アジア文化学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すような博士論文を執筆できるように論文指導科目を配置する。 D P ② C P ③専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもちた専門職業人になるための研究力を身に付けさせる。そのため全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P ③	【分野専門科目】 ◎アジア文化学特許研究A (アジア文化学研究動向) ◎アジア文化学特許研究B (アジア文化学研究と社会) 【論文指導科目】 ◎アジア文化学論文指導 【論文指導科目】 ◎アジア文化学論文指導 【論文指導科目】 ◎アジア文化学論文指導 【共通教育科目】 ※研究公正B			D P ① アジア文化学の探究をとおして、さまざまな□化や□化的現象を、社会的実践の場において積極的に活用することで□化の力つをさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する□化を主導的に構想する。新たな□化の創出、□化的・多文化共生的な認識、□化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知見を併せ持ちながら、□化や□化的現象をさまざまな課題解決に活用することができる□化を習得している。 C P ① D P ② □化の活口を理論と実践の双方で牽引できる研究者としての□化を習得している。 C P ② D P ③ 専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての□化を習得している。 C P ③	アジア文化学の高度な専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学教員、 博物館・美術館学芸員、 人間関係学術的研究開発事業所、サービス業（人材派遣、観光業等）、 コンサルティング、 広告代理店、 情報通信業（マスコム、システムエンジニアリング等）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、裁判所等）
文化資源学専修 ・文化資源学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独自の研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・文化資源学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・文化資源学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P ①さまざまな文化や文化の現象を、社会的実践の場において積極的に活用することで文化の力つをさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想する研究力を身に付けさせる。また、新たな文化の創出、比較文化的・多文化共生的な認識、文化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知見を併せ持ちながら、文化や文化の現象をさまざまな課題解決に活用することができる研究力を身に付けさせる。それらのために、文化資源学の分野専門科目を配置する。 D P ① C P ②文化資源学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すような博士論文を執筆できるように論文指導科目を配置する。 D P ② C P ③専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもちた専門職業人になるための研究力を身に付けさせる。そのため全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P ③	【分野専門科目】 ◎文化資源学特許研究A (文化資源学研究動向) ◎文化資源学特許研究B (文化資源学研究と社会) 【論文指導科目】 ◎文化資源学論文指導 【論文指導科目】 ◎文化資源学論文指導 【論文指導科目】 ◎文化資源学論文指導 【共通教育科目】 ※研究公正B			D P ① 文化資源学の探究をとおして、さまざまな□化や□化的現象を、社会的実践の場において積極的に活用することで□化の力つをさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する□化を主導的に構想する。新たな□化の創出、□化的・多文化共生的な認識、□化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知見を併せ持ちながら、□化や□化的現象をさまざまな課題解決に活用することができる□化を習得している。 C P ① D P ② □化の活口を理論と実践の双方で牽引できる研究者としての□化を習得している。 C P ② D P ③ 専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての□化を習得している。 C P ③	文化資源学の高度な専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学教員、 博物館・美術館学芸員、 人間関係学術的研究開発事業所、サービス業（人材派遣、観光業等）、 コンサルティング、 広告代理店、 情報通信業（マスコム、システムエンジニアリング等）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、裁判所等）